

第五條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ着色料賣捌所ト大書シタル招牌ヲ店頭ニ掲ク可シ
 第六條 着色料ヲ購求スルモノアルトキハ其仕様ノ區別(飲食物品)其他ノ物品ヲ尋問シ誤用ナカラシム可シ
 第七條 着色料ヲ施ス飲食物及ヒ玩具品ヲ製造スル者ハ必ス第五條ニ掲クル賣捌所ニ就テ購求ス可シ
 第八條 本則第三條及第七條ニ違背シ又ハ無鑑札ニテ着色料ヲ販賣シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依テ處分ス
 ○長野縣訓令第百二十九號

郡 役 所

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ハ其役所經費ヲ以テ支辨ノ處來ル二十七年度以降縣稅中衛生費ノ支辨ニ屬シ候條豫メ其必要ヲ見積リ現品ヲ以テ請求スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十六年八月四日

長野縣知事 淺田 徳則

○乙第六十五號

本年本縣乙第四十二號布達藥湯並施藥檢査手續相廢止更ニ藥湯檢査手續別紙ノ通相定候條此旨布達候事

明治十四年五月四日

長野縣令 檜崎 寛直

藥湯檢査手續

第一條 藥湯ト稱シ浴場ヲ開キ(鑛泉中ノ固形物俗ニ湯ノ花ト稱スル者若クハ藥品ヲ水ニ混和シ又ハ鑛泉ハ固形物若クハ藥品ヲ加ヘ或ハ幾分ノ鑛泉水ニ混合スル等ヲ云フ)病者ヲ浴セシメント欲スルモ

ノハ賣藥規則ニ從ヒ湯名ヲ付シ第一號書式ニ準シ湯名藥量水量溫度浴法主治効能ヲ詳記シ各現品相添檢査願出許可ヲ受ケ第二號書式ニ倣ヒ必ス戶外ニ看板ヲ掲クヘシ
 但尋常浴湯ト雖トモ藥劑ヲ加フルモノハ本條ニ準スヘシ
 第二條 溫泉若クハ冷泉水ヲ採酌運搬シ浴場ヲ開キ病者ヲ浴セシメント欲スルモノハ湯名溫度主治効能ヲ詳記シ現品相添届出ヘシ

第一號書式

藥湯檢査願

一湯 名

何所鑛泉或ハ水何程

藥品分量

以上幾味調合

溫度華氏何十何度

主治効能詳細

浴法一日ノ度數大人小兒ノ區別

右藥湯營業仕度奉存候間御檢査ノ上御差支無之候ハ、免許鑑札御下渡被成下度依テ製劑相添此段奉願候也

何郡何町番地族籍

年 月 日

衛生委員

姓 名 印
 姓 名 印

藥品藥舖

戶長姓名印

縣令宛

第二號書式

用材適宜

寸法長三尺
巾七寸五分

許免
藥湯
營業

○廳達第十一號

警察部

藥品巡視規則施行候ニ付検査順序別紙ノ通り相定候條警察官吏監視員ノ義ハ其都度差支無之權取
計フヘシ

明治二十四年二月九日

長野縣知事 内海忠勝

(別紙)

藥品検査順序

藥劑師

- 一 受檢者ノ住所氏名及年齢並ニ免狀助手ノ姓名
- 二 藥局及ヒ出張所ノ有無

三 藥局ニ在テハ藥局法第一表ノ藥品及秤量器ノ点檢

四 毒劇藥検査及醫藥用職工用ノ工制

五 毒藥鎖鑰ノ裝置

六 調劑録及處方箋ノ點檢

七 毒劇藥職工用賣渡証

八 普通藥局ノ點檢

九 藥品貯藏所検査

藥種商製藥者検査

一 受檢者ノ住所氏名年齢鑑札並ニ助手ノ姓名及戶外ノ看板

二 毒劇藥検査及醫藥用職工用ノ區別

三 毒藥鎖鑰ノ裝置

四 毒劇藥ノ封緘ノ完全ナルヤ否及試驗所印紙ニ紛ハシキヤ否

五 藥品ノ容器又ハ包紙ノ藥品名及製造者ノ住所氏名貼用ノ點檢

六 毒劇藥販賣証書ノ點檢

七 普通藥ノ點檢

八 貯藏所ノ點檢

公私立病院及醫師調劑所検査

一 藥品ノ藥局法ニ適合スルヤ否

一 毒劇藥ノ検査及毒藥鎖鑰ノ裝置

藥品藥備

○長野縣告示第十四號
明治二十二年三月三十一日
明治二十三年三月十一日

紙製 曲尺二寸二分

長野縣知事 内海 忠 勝

表	藥品監視員之証	裏	長野縣
			應印

シタナシ

○長野縣々令第九號

藥種商並製藥者取締細則左ノ通相定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

但シ明治十六年本縣甲第五十八號布達全甲第七十號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十三年二月五日 長野縣知事 内海 忠 勝

藥種商並製藥者取締細則

第一條 藥種商又ハ製藥者ヲラント欲スルモノハ族籍住所氏名等ヲ詳記シ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 藥種商製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失又ハ氏名住所ヲ變換スル等鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ所轄郡役所ヲ經由シ鑑札書換ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第三條 藥種商製藥者ニシテ廢業又ハ死亡若クハ他府縣へ轉任スルトキハ所轄郡役所ヲ經由シ免

許鑑札ヲ返納スヘシ

第四條 藥種商製藥者ハ條末ノ雛形ニ據リ看板ヲ調製シ戶外ニ掲クヘシ

第五條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若クハ外國藥品引取人住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第六條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所檢査印紙ヲ貼付シタル者ハ此限ニアラス

第七條 藥種商製藥者ニ於テ使用セル封緘用印紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第九條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖トモ第一條第二條ニ準シ届出其他尙第六條第七條第八條ヲ遵守スヘシ

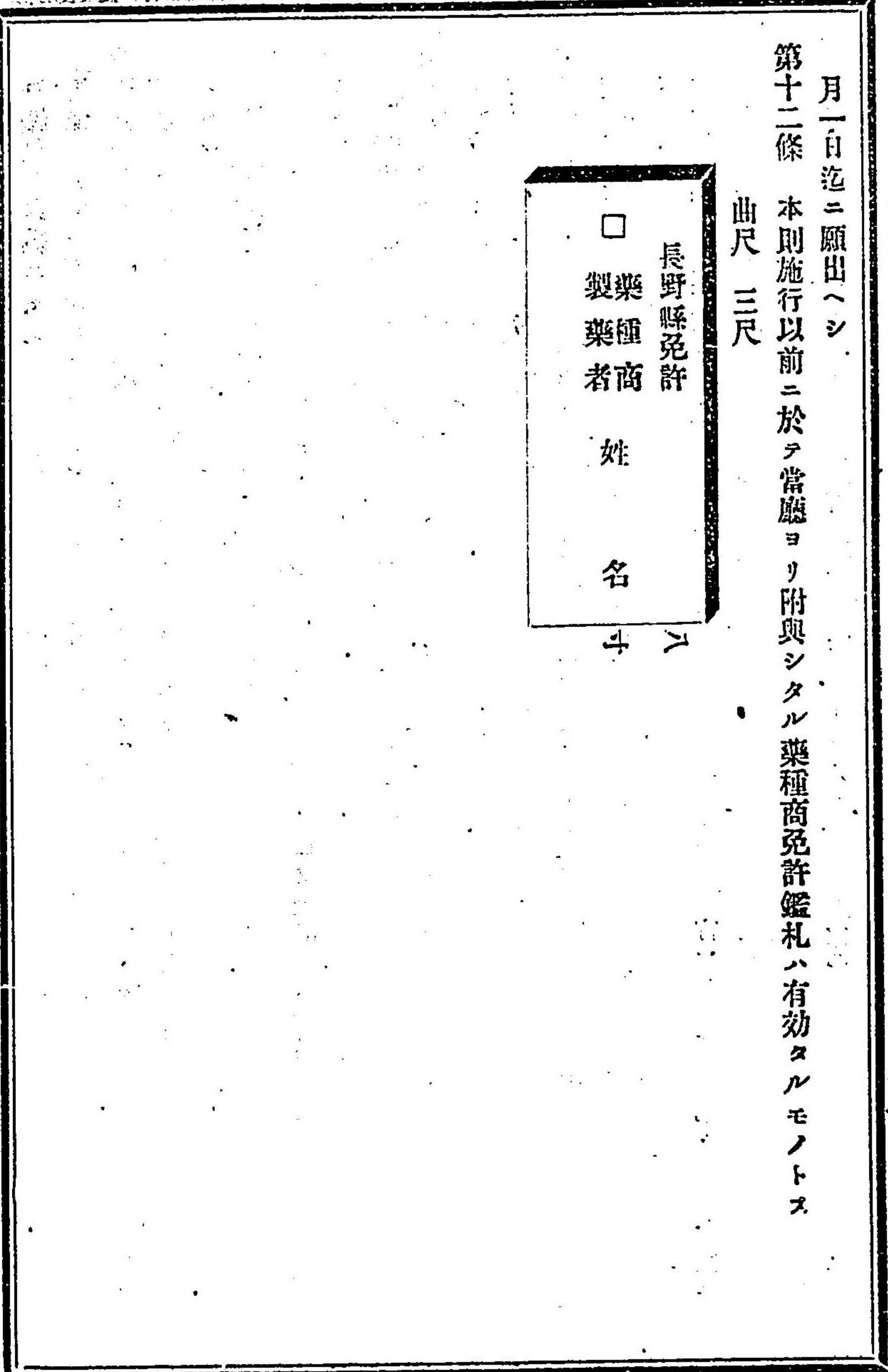
第十條 本則第二條第三條第五條第六條(但書ヲ除ク)第八條ニ違背シタル者及第四條第七條ニ違背シ命ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ據リ處分ヲ受クヘシ

附 則

第十一條 從來内務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受ケタルモノト雖トモ本則ニ據リ更ニ明治二十三年三

月一日迄ニ願出ヘシ
第十二條 本則施行以前ニ於テ常應ヨリ附與シタル藥種商免許鑑札ハ有効タルモノトス
曲尺 三尺

長野縣免許
製藥種商
姓名
名
姓



◎牛乳及獸畜

○長野縣令第四十七號

牛乳營業取締規則左ノ通相定ム

但シ明治十八年七月甲第七十七號布達牛乳搾取販賣取締規則ヲ廢止ス

明治二十年九月廿四日

長野縣知事 權藤 實一

牛乳營業取締規則

第一條 牛乳營業トハ牛乳搾取販賣シ又之ヲ請賣シ及牛酪乾酪粉乳濃乳ノ類ヲ製造販賣スル者ヲ云フ

第二條 牛乳ヲ搾取販賣スルモノハ搾取所建設地名(字名番地共)及乳牛ノ種別頭數ヲ詳記シ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由縣知事ニ願出許可ヲ受クヘシ搾取所ヲ増設及移轉セントスルトキ亦同シ

一搾取所ノ圖面及構造仕様書

二搾取所ト國縣道人家飲用水トノ距離及乳牛運動場ノ坪數ヲ明記シタル圖面

三搾取所四隣地主ノ承諾書

四搾取所借地借家ナルトキハ其所有者ノ承諾書

第三條 牛乳ヲ請賣スルモノハ搾取販賣營業人ト連署シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其支店ヲ設クルトキ亦同シ

第四條 牛酪乾酪粉乳濃乳ノ類ヲ製造販賣スル者ハ原乳ノ出所ヲ明記シ其製法書ニ見本ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由縣知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

牛乳及獸畜

第五條 牛乳搾取販賣營業人ニシテ搾取所外ニ販賣店ヲ設ケタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署
（届出ヘシ）

第六條 牛乳搾取所ヲ讓受タルトキハ讓渡人ト連署シ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由縣知事ニ届
出ツヘシ

第七條 牛乳搾取所ノ位置構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 位置ハ國道縣道人畜飲用水ヲ距ルコト十間以上

二 乳牛運動場ノ周圍ニハ堅牢ナル柵ヲ設ケルコト

三 牛舎ノ空氣ヲ流通セシムル爲メ周圍ニハ空氣抜キ又ハ無双窓ヲ設ケルコト

四 牛舎ハ石煉瓦又ハ漆喰敲キ若クハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ地盤ヲ敷設シ適當ノ勾配ヲ付スルコト

五 汚物溜ハ堅牢ナル桶又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ牛舎外五尺以上ノ地ニ設ケ適當ノ雨除ヲ付ス
ルコト

第八條 牛乳搾取所ノ建築竣工シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ其改修若クハ増
設シタルトキ亦同シ但檢査後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 牛乳搾取所ノ位置構造衛生上障害アリト認ムルトキハ其改造若クハ變更ヲ命スルコトヲ
ルヘシ

第十條 牛乳搾取所ニハ獸醫ノ診斷ヲ受ケ所轄警察官署ニ届出タル乳牛及乳牛用ニ充ツヘキ種牛
・種牛ノ外飼養スルコトヲ得ス但搾取所ニ於テ出産シタル種牛ハ此限ニ非ス

第十一條 牛舎及運動場ハ常ニ清潔ニ掃除シ排水ニ注意スヘシ汚物溜ハ充溢セサル様時々掃除ス
ヘシ

ルヘシ

第十二條 牛乳搾取所ニハ乳牛種牛種牛ノ種類年齢毛色特徴寸尺及産地ヲ記載シタル牛籍簿ヲ備
置クヘシ但種牛ハ寸尺ヲ記入スルニ及ハス

第十三條 牛籍簿ヲ新調シタルトキハ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第十四條 乳牛種牛種牛ニ増減ヲ生シタルトキハ牛籍簿ヲ加除訂正シ且三日以内ニ所轄警察官署
ニ届出ヘシ但シ斃牛ノ届書ニハ獸醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十五條 乳牛及種牛ハ毎月一回獸醫ノ診斷ヲ受ケ其診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十六條 乳牛病ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診斷ヲ求メ若シ乳汁ニ害アル疾病ト認ムルトキハ
其搾取ヲ停止シ即時所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十七條 主務官吏ハ乳牛及種牛種牛ヲ檢査シ乳汁ニ有害ナル疾病又ハ傳染病ノ虞アリト認ムル
トキハ搾取所内ニ飼養スルコトヲ禁スルコトアルヘシ

第十八條 前條ニ依リ飼養ヲ禁セタル病牛ハ速ニ隔離シ其旨所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十九條 傳染スヘキ疾病及皮膚病アルモノヲシテ乳汁ヲ搾取シ又ハ取扱ハシムルヘカラス

第二十條 乳汁搾取ノ際ハ乳牛ノ乳房搾取人ノ身体衣服並ニ乳汁ノ容器ヲ清潔ニシ乳汁ニ汚物ヲ
混入セシムヘカラス

第二十一條 牛乳器具ノ置場ハ清潔ヲ旨トシ乳汁腐敗ノ誘因トナルヘキ汚物ヲ置クヘカラス

第二十二條 乳汁及製乳ノ容器ハ亞鉛銅黃銅其他有害ノ物質ヲ用ユヘカラス

第二十三條 乳汁ノ容器使用ノ都度熱湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第二十四條 牛乳搾取販賣營業人ハ牛乳搾取販賣並ニ殘高ノ日計簿ヲ備ヘ置キ主務官吏ノ檢閱ニ
供スヘシ牛乳諸賣ヲ爲スモノ亦之ニ準スヘシ

牛乳及獸畜

四十九

第二十二條 製乳營業人ハ製造ノ種類及元受販賣高ヲ記載シタル帳簿ヲ備ヘ置キ主務官吏ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十三條 乳牛分娩後七日ヲ經過スルニアラサレハ其乳汁ヲ販賣スヘカラス但乳牛分娩シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十四條 第十六條第十七條ノ病牛ヨリ搾取シタル乳汁又ハ他物ヲ混和シタルモノハ販賣スルコトヲ禁ス

第二十五條 主務官吏ハ牛乳營業人ニ就キ檢査ヲ行ヒ其販賣品不良ト認ムルトキハ販賣ヲ禁止シ現品棄却ヲ命スルコトアルヘシ

檢査ノ爲メ消毒シタル販賣品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十六條 脫脂乳ハ其容器ニ脫脂乳タルコトヲ明記スヘシ

脫脂乳ヲ全乳ト偽稱シテ販賣スヘカラス

第二十七條 牛乳配達人ニハ搾取營業人若クハ請買人ノ住所氏名ヲ記載シタル標札^{三寸}ヲ携帶セシムヘシ

第二十八條 牛乳營業人轉居改氏名及廢業シタルトキハ五日以内ニ前届出若クハ願出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ休業シタルトキ亦同シ但縣知事ニ届出ツルモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ許可ヲ得タル營業人ニシテ休業後三ヶ月ヲ經過スルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第二十九條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條第二十八條ニ違背シ及ビ第九條第十六條第廿五條ノ命ニ從ハサルモノハ二日

以上十日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十條 従前免許ヲ得タル搾取所ニシテ本則第七條ノ構造制限ニ抵觸スルモノハ五ヶ年ヲ期シ本則ニ依リ改造若クハ移轉スヘシ

本則第七條第二條第三條第四條第五條ニ抵觸スルモノハ警察官署長ニ於テ期日ヲ定メ改修ヲ命スルコトヲ得

本則第一項ニ違背シ又ハ第二項ノ命ニ從ハサルモノハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

○長野縣々令第八十六號

獸畜養場取締規則別紙之通相定ム

但従前設置セルモノモ本則ニ從ヒ來八月十五日迄ニ願出ツヘシ

明治二十年七月十九日

長野縣知事 木梨精一郎

(別紙)

獸畜養場取締規則

第一條 本則ハ當分左ノ箇所ニ限リ施行ス

長野 上田 小諸 上諏訪 下諏訪 飯田 松本

第二條 本則ニ獸畜養場ト稱スルハ都テ營業上ニ關シ牛馬羊豚ノ類ヲ養育スル場所(馬車屋牛馬養育ノ概牛屋ノ類)ヲ云フ

第三條 養場ヲ設置セントスルトキハ人家及ヒ飲用水ニ接近セサル地ヲ撰ミ左ノ各項ヲ具シ隣地主ノ承諾印ヲ取リ郡役所ヲ經テ本廳ニ願出ヘシ

第一項 養場ノ位置敷地建物ノ坪數近傍ノ地形及其圖面
 第二項 養場隣接家屋ノ最近距離
 第三項 養場地盤ノ構造ハ厚板又漆喰叩ヲ以テシ汚汁ノ溜滯セサル爲メ適宜勾配ヲ付シ其吐口ニハ陶器共ハ堅半ナル桶ヲ用ヒ間隙ナキ覆蓋ヲ爲シ都テ尿尿チ地中ニ滲透セサルヲ要ス
 第四項 養場ハ空氣ノ流通ヲ計リ專ラ臭氣ノ排除ヲ要ス
 第四條 人家及飲用水ノ距離十間以上ノ場所ニ設置スルモノハ前條第三項第四項ニ據リ構造セサルモ妨ケナシ
 第五條 養場ノ汚穢物ハ一日一回以上無害ノ場所ニ搬出シ溜滯セシムヘカラス
 但溫暖炎暑ノ候ニアツテハ最モ清潔ニ爲スヘシ
 第六條 縣知事ハ係リ官吏ヲシテ臨時檢閲セシメ不完全ナリト認ムルトキハ改修或ハ清潔法ヲ命スルコトアルヘシ
 第七條 養場ヲ廢スルトキハ其旨郡役所ヲ經テ届出ヘシ
 第八條 本則第三條第五條本項ニ違背シタルモノ第三條第三項第四項第五條但書ニ違背シ命ニ從ハサルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
 ○長野縣々令第二十三號
 養場取扱規則左之通相定來ル四月一日ヨリ施行ス
 但從前許可シタル養場捨場ト雖トモ本則ニ依リ更ニ願出ヘシ
 明治二十一年二月二十二日
 長野縣知事 木梨精一郎
 養場取扱規則

明治二十六年五月四日
 令第二十四號
 ヲ以テ九條ヲ削除
 十條ヲ九條ト改ム

第一條 養場牛馬羊豚ハ許可シタル場所ニ於テ皮骨ヲ剝取シ燒棄若クハ埋沒スヘシ
 第二條 養場埋燒場ハ一町村若クハ數町村共同設置スヘシ
 第三條 前條ノ埋燒場ヲ設ケントスルトキハ國縣道河川人家飲料水ヲ距ル二丁以上ノ地ヲ撰ヒ地種地目地番反別及四隣ノ地種目ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
 第四條 養場ノ飼主不分明又ハ飼主アルモ遠隔ノ地ニシテ急速處置シ得サル場所ニ於テハ死屍所在ノ地主若クハ借地人ニ於テ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒スヘシ
 第五條 養場埋穴ハ牛馬ハ深サ六尺以上羊豚犬猫ハ四尺以上タルヘシ
 但糞ニ埋沒シタル場所ハ二ケ年間發掘スルヲ得ス
 第六條 養場ノ化製者又ハ其他ノ者ニ於テ皮骨ヲ剝取シタルトキ其殘餘ノ汚物ハ渾テ第一條ノ場所ニ於テ燒棄又ハ埋沒スヘシ
 第七條 養場ヲ以テ肥料ヲ製スル場所ハ本廳ニ願出許可ヲ請クヘシ
 但出願手續ハ第三條ニ據ルモノトス
 第八條 養場埋燒場ハ其境界ヲ明ニシ何郡町村養場埋燒場ト記シタル標杭ヲ建設スヘシ
 第九條 戶長ニ於テハ三ヶ月毎ニ養場牛馬ノ頭數ヲ取調郡役所ヲ經テ本廳ニ届出ヘシ
 第九條 本則第一條第五條第六條第七條本文ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ罰セラルヘシ
 ○長野縣令第二十三號
 明治十五年九月甲第百二十二號布達屠牛馬營業及牛馬肉販賣規則ヲ廢止シ屠場屠獸及肉取締規則

別紙ノ通相定ム

但從前許可シタルモノト雖モ本則ニ依リ更ニ出願シ明治廿五年十二月三十一日限り改選スヘシ
明治二十五年三月七日
長野縣知事 淺田 徳則

屠場屠獸及獸肉取締規則

第一章 屠 場

第一條 屠場ヲ建設セントスルモノハ願書ニ其位置及構造ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

改造増築若クハ變更セントスルトキ亦同シ

落成ノ上検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ許サス

第二條 屠場ヲ讓渡サントスルモノハ讓受人ト連署シ所轄警察署長ヲ經由シテ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 屠場ノ位置構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一屠場ノ位置ハ人家及國縣道ヲ距ルニ二丁以上ニシテ飲料水ニ障害ナキ地タルコト

二屠場ノ敷地ハ堅牢ナル外圍ヲ設クルコト

三屠場内ニハ屠室屠獸繫場検査官詰所ヲ設クルコト

四屠室ノ地盤ハ平面ヨリ一尺以上ヲ盛り中央ニ種(石煉化石、五寸角以上ノ木材ノ類)ヲ伏セ左右ニ厚サ一寸以上

ノ板若クハ石ヲ以テ水垂レ走り形ニ敷キ室外五尺以上ヲ離レ汚汗溜(壁、石、厚サ一寸以上アル板桶ノ類)ヲ設ケ

適宜ノ蓋ヲ備フヘシ

但石材ヲ使用スル場合ニ於テハ繼目ハ總テ「セメント」ニテ接合スルコト

五屠室内部ノ四壁ハ敷石ヨリ六尺以上ヲ一寸以上ノ厚板張又ハ石煉瓦積トシ石煉瓦積ノモノハ繼目ヲ「セメント」ニテ接合スルコト

六屠室ノ入口ハ外部ヨリ見透カサ、ル様目隠ヲ設タルコト

七屠獸繫場ノ地盤及汚汗溜ハ第四項ニ準レ構造スルコト

第四條 屠場使用料ハ屠獸ノ種類ニ依リ其額ヲ定メ所轄警察署長ノ認可ヲ受クヘシ其額ヲ増減セントスルトキ亦同シ

第五條 屠場主ハ正當ノ事故ナクシテ使用ノ依頼ヲ拒絕シ又ハ使用料ノ外金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第六條 屠場使用料屠殺料及屠殺時間ハ屠場内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條 屠場ハ清潔ニ掃除シ屠室ハ屠殺シタル毎ニ洗滌スヘシ

第八條 左ノ場合ハ本人又ハ同居人ヨリ五日以内ニ所轄警察署長ヲ經由シテ縣知事ニ届出ヘシ

一轉居改氏名又ハ廢場シタルトキ

二失踪死亡又ハ持主ノ變更シタルトキ

第二章 屠 獸

第九條 屠殺時間ハ正午十二時迄トス

第十條 屠獸ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署長ニ届出屠殺ノ際ハ検査ヲ受クヘシ

届書ニハ日時種類頭數壯年齡買入先ヲ記スヘシ

第十一條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ屠殺ヲ許サス

一孕獸

牛乳及獸畜

二病獸 食用ニ害ナキモノハ此限ニアラス
 第十二條 屠殺シタル獸肉ニハ検査官ノ檢印ヲ受クヘシ
 但肉質不良ナルモノハ檢印ヲ與ヘス
 第十三條 屠殺料屠獸ノ種類ニ依リ其額ヲ定メ所轄警察官署長ノ認可ヲ受クヘシ其額ヲ増減セシ
 トスルトキ亦同シ
 第十四條 屠獸營業者ハ正當ノ事故ナクシテ屠殺ノ依頼ヲ拒絕シ又ハ屠殺料ノ外金錢ヲ請求スル
 コトヲ得ス

第三章 獸 肉

第十五條 獸肉販賣營業ヲ爲サントスルモノハ其種類ヲ定メ所轄警察官署長ニ届出其証ヲ受クヘ
 シ行商セントスルモノハ鑑札ヲ受テ營業ノ際ハ携帯スヘシ
 第十六條 獸肉受賣人ハ其獸肉ノ屠殺月日及量目ヲ記シタル卸賣人ノ賣渡証アラサレハ販賣スル
 コトヲ得ス
 卸賣人ハ受賣人ニ賣渡証ヲ附與スヘシ
 第十七條 檢印ナキ獸肉ハ販賣スルコトヲ得ス但野獸ハ此限ニアラス
 野獸ハ狩獵捕獲シタモノニ限ル
 第十八條 數種ノ獸肉ヲ販賣スルモノハ種類毎ニ別ツヘシ
 獸肉ニハ其種類毎ニ其名稱ヲ記シタル標證ヲ添付スヘシ
 第十九條 店頭ノ獸肉ハ綿布ノ類ヲ覆フヘシ
 第二十條 獸肉ハ臨時検査シ不良ナルモノハ販賣ヲ差止ムルコトアルヘシ

第二十一條 左ノ場合ハ本人又ハ全居人ヨリ五日以内ニ所轄警察官署長ニ届出ヘシ鑑札アルモノ
 ハ再渡又ハ書換ヲ受ケ若クハ返納スヘシ
 一 轉居改氏名又ハ廢業シタルトキ
 二 失踪死亡シタルトキ
 三 鑑札ヲ失ヒ又ハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ
 第二十二條 警察官署ノ管轄ヲ異ニスル地ニ轉居シタルトキハ五日以内前後所轄警察官署長ニ届
 出鑑札ハ轉居地ニ於テ書換ヲ受クヘシ
 第二十三條 第一條第二條第四條第五條第十條第一項第十一條第十三條第十四條第十五條第十六
 條第十七條ニ違背シタルモノ第六條第七條第十八條第十九條第二十條ニ違背シ命ニ從ハサルモ
 ノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

◎氷 雪

○長野縣令第二十四號
永雪營業取締規則左之通相定ム

但明治十九年(五月)甲第六十四號布達氷製造及氷雪販賣取締規則ヲ廢止ス

明治二十九年四月十四日
長野縣知事 高崎 親章

氷雪營業取締規則

- 第一條 氷雪ヲ貯藏セントスル者ハ貯藏場所所在ノ地名字地番及採取所(製造ニ係ルモノハ其製造所)地名ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 氷ヲ製造セントスル者ハ製造ノ方法及製造所ヲ詳記シ前條ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 採取所ノ異ル氷雪ヲ同一ノ貯藏場ニ貯藏スルトキハ板ヲ以テ境界ヲ爲シ且之ニ標記ヲ附スヘシ
- 第四條 氷雪ヲ販賣セントスルトキハ豫メ採取所又ハ製造所ヲ明記シ現品ヲ添へ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ
- 第五條 他府縣下ヨリ輸入スル氷雪ヲ販賣セントスル者ハ製造所又ハ採取所貯藏場所所在ノ地名及斤量ノ概數ヲ記シ現品ヲ添へ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ但他府縣ニ於テ検査済ノモノハ届書ニ其證ヲ添フヘシ
- 第六條 検査済ノ氷雪ト雖トモ當該官吏ハ貯藏販賣所又ハ行商人ニ就キ臨時検査ヲ行ヒ不良ト認ムルトキハ其販賣ヲ禁シ又ハ棄却ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 氷雪不良ノ爲飲用ヲ禁シタル貯藏場ニハ所轄警察官署ニ於テ封印ヲ爲スヘシ

第八條 前條ノ氷雪ヲ雜用トシテ販賣セントスルトキハ其斤量ノ概數及使用ノ目的ヲ記シ買受人ト連署シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第九條 氷雪ヲ請買セントスル者ハ販賣人ト連署シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 前條請買人ハ請渡証書ヲ所持スルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス

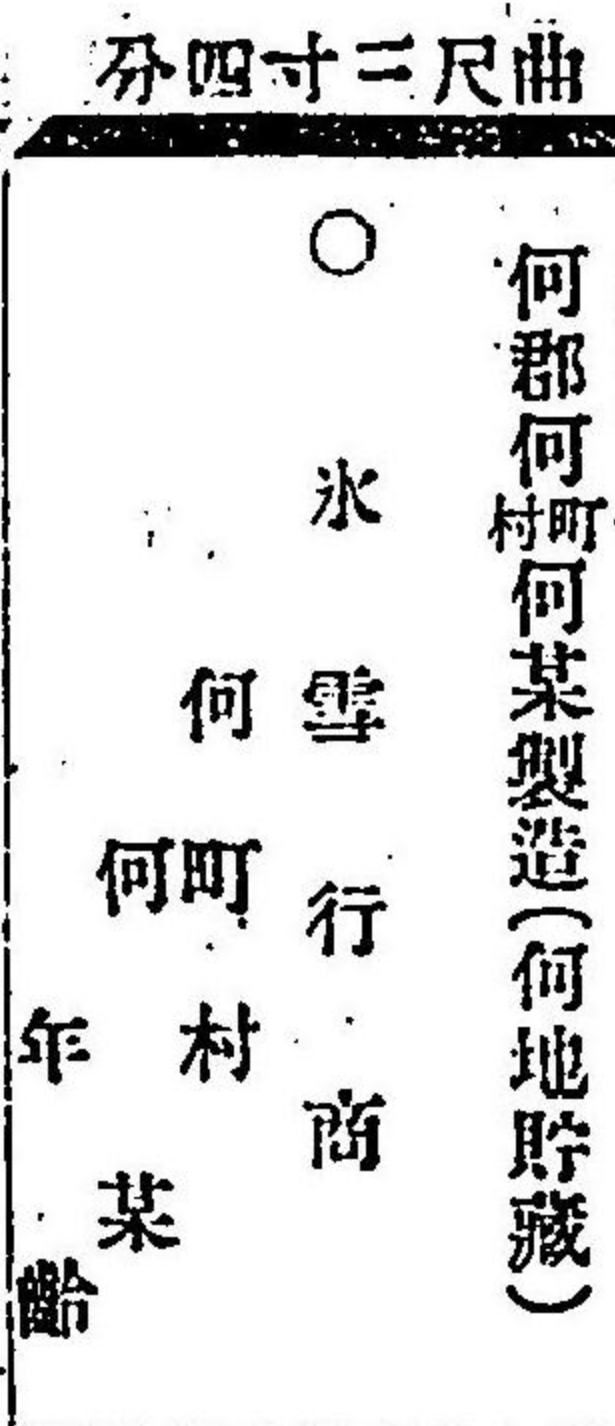
第十一條 氷雪ヲ行商セントスル者ハ販賣人又ハ請買人ヨリ第一號雛形ノ木票ヲ受ケ之ヲ顯帶スヘシ

第十二條 行商人ハ容器ヲ清潔ニシ塵埃ヲ防クヘキ具ヲ用ユヘシ

第十三條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者第六條ノ検査ヲ拒ミ又ハ命令ニ從ハサル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第一號雛形(用材適宜)

曲尺四寸二分



第二號雛形(用材適宜)

氷 雪

曲尺三尺八寸

寸八尺曲

○ 郡何町村何某製造何地貯藏
凍氷(氷雪)販賣
何 某

第三號雜形(用材適宜)

曲尺四寸二分

分四寸三尺曲

○ 何郡何町村何某製造何地貯藏
凍氷(氷雪)行商
何町村 某

○長野縣達内記第七十八號

氷製造及氷雪檢査心得ヲ定ム

明治十九年九月十一日

警察本署

警察分署

警察分署

長野縣知事

木梨精一郎

氷製造及氷雪檢査心得

第一條 警察署又ハ分署ニ於テ規則第一條ノ願ヲ受理シタルトキハ警部警部補又ハ代理官直ニ現場ニ臨檢シ水質及汗水ノ滲入塵芥不潔物等ノ混和セサル場所ナルカヲ精密ニ檢査シ障害ナキト認ムルトキハ許可スヘシ

第二條 警察署又ハ分署ニ於テ規則第二條ノ願ヲ受理シタルトキハ前條ニ準シ許可スヘシ

第三條 警察分署ニ於テ規則第三條ノ願ヲ受ケタルトキハ第一條ニ準シ現場ニ臨檢シ貯藏氷雪ノ

四隅若クハ中央ヨリ一小片ヲ摘採シ塵埃等ノ包含及不潔ナキヤヲ査定シ許可ノ處分ヲ爲ス可シ

第四條 第一條ノ水質及前條ノ氷雪ヲ分拆セザレハ食用ノ適否鑑別シ難シト認ムルトキハ摘採ノ

氷雪ヲ他物ニ浸入ヲ防クヘキ器具ニ入レ檢査官封緘ノ上願人ヲシテ本署ニ試驗ヲ乞ハシムヘシ

第五條 前條ノ場合ニ在テハ便宜最寄公立病院等ニ囑托シ試驗セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ試驗料支給スヘキニ付別途請求ス可シ

◎公衆衛生

○長野縣令第十四號

下水溝側面芥溜改修手續左ノ通相定ム

明治二十年一月廿七日

長野縣知事 木梨精一郎

下水溝側面改修手續

第一條 下水溝ノ底及周圍ハ煉瓦切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ覆蓋ヲ設ケ其吐口ニ至ル迄漸次ニ勾配ヲ付シ之ヲ無害ノ地若クハ飲料水ニアラサル河水ニ通シ此渠ヲ本幹トシ毎戸ノ下水ハ之レニ一接續シ一切ノ汚水雨水ヲ阻滯塞塞セサル構造ニナスヘシ

但下水ノ設ナキ戸ハ此際本文ニ準シ相設ケ下水溜ヲ除去スヘシ

第二條 側面ハ尿管器ハ陶器(蓋蓋ナキ)ヲ用ユヘシ若シ陶器ヲ用フルコト能ハサルトキハ厚板ヲ以テ堅牢ナル桶ヲ造リ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ又ハ板ヲ以テ漏斗狀ニナシテ其

壺若クハ桶ニ達セシメ總テ尿管ヲシテ地中ニ透透セシメサル構造ニナスヘシ

第三條 芥溜ハ蓋ヲ有シ塵芥ヲ掃除スルニ便ナル箱若クハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受器ヲ設ケ總テ汚汁ヲシテ地中ニ透透セサル設置ニナスヘシ

第四條 戸長ハ改修施行ノ期日ヲ豫定シ之ヲ部内ニ報告シ其旨郡役所並警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第五條 戸長ハ改修スヘキ町村改修委員二名以上ヲ撰定セシメ改修ノ事ヲ擔當セシムルモノトス其人名ハ郡役所並ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ但時機ニヨリ特撰セシムルコトアルハシ

第六條 下水溝改修ニ關スル費用本渠ハ町村費ヨリ支辨シ支渠ハ地主若クハ家主ニ於テ支辨スヘシ

第七條 側面及芥溜改修ニ關スル費用公衆ノ便ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨シ私有ニ係ルモノハ地主若クハ家主等ニ於テ支辨スヘシ

第八條 土地ノ情況ニヨリ第一條第二條第三條ノ構造法ヲ變更セントスルトキハ其方法ヲ詳具シ伺出ヘシ

第九條 改修實地ニ着手スルトキハ掛リ官吏ヲシテ臨監セシムルコトアルヘシ

第十條 改修竣功ノ上ハ其旨戸長ヨリ郡役所並警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十一條 改修不完全ト認ムルトキハ仍ホ改修ヲ命スルコトアルヘシ

○長野縣令第六十五號

郡 役 所

戸 長 役 場

今般縣令第十四號ヲ以テ定メタル下水溝側面芥溜改修手續ノ儀ハ先ツ以テ市街ヲナシタル地ニ於テ施行セシム依テ郡役所ニ於テハ其地名ヲ定メ伺出ヘシ

但市街ト村落トヲ問ハス旅舎及料理營業者ノ側面ハ改修セシムヘシ

明治二十年一月廿七日

長野縣知事 木梨精一郎

○長野縣令第二十七號

店頭若クハ露店ニ於テ陳列販賣シ又ハ行商スル飲食物ニシテ其儘食用スルモノニハ塵埃ヲ防クヘキ適當ノ覆蓋ヲ爲スヘシ

前項ニ違背シ命ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

明治三十一年六月七日

長野縣知事 權藤 貞一

◎傳染病及檢疫

○長野縣令第三十九號

傳染病豫防法施行細則左之通相定ム

明治三十年八月廿四日

長野縣知事 權藤 貫一

傳染病豫防法施行細則

第一章 通 則

- 第一條 醫師傳染病豫防法第三條ニ依リ届出ヲ爲ストキハ別紙書式ニ據ルヘシ
- 第二條 傳染病豫防法第四條ノ義務者ハ口頭若ハ書面ヲ以テ其發病地名日時住所氏名年齢等届出ヘシ
- 第三條 警察官吏市町村長檢疫委員及豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第二條第一項及第三條ニ依リ通報スルトキハ別紙書式ニ準スヘシ但警察官吏又ハ檢疫委員ハ警察官署長ニ報告スヘシ郡市長警察官署長ヨリ知事ニ報告スルトキ亦同シ
- 第四條 市町村長又ハ豫防委員ハ左ニ該當スル者ハ傳染病豫防法第七條及全施行規則第五條ニ依リ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ但第一第五ニ該當スル者ニシテ健康者ヲ隔離所ニ入レシムルトキ又ハ患者危篤ニシテ途中死亡ノ虞アルモノハ此限ニアラス
- 一 家族ノ居間ト隔離シ治療スヘキ室ナキモノ
- 二 専ラ看護ニ從事スヘキ人ナキモノ
- 三 主治醫ナキモノ
- 四 患者ニ專用スヘキ家具什器ヲ有セサルモノ

五前各項ノ外宿屋賃座敷待合茶屋料理店飲食店其他多數ノ家族同居人アリテ豫防方行ハレ難シト認ムルモノ

六自宅治療ノ患者ニシテ豫防方法ヲ遵守セサルモノ

- 第五條 傳染病患者ヲ自宅療養セシムルトキハ警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ家人ニ指示シテ左ノ事項ヲ執行セシムヘシ
 - 一 病室ニハ看護人ノ外交通ヲ斷タシムルコト
 - 二 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食セシメサルコト
 - 三 患者ニ供セシ飯食物ハ消毒方法ヲ行ヒ一定ノ場所ニ投棄セシムルコト
 - 四 患者ノ器具ハ使用ノ都度消毒方法ヲ行フコト
 - 五 患者ノ吐瀉物ハ滲透セサル器物ニ受ケ其都度消毒方法ヲ行フコト
 - 六 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染シタル物品ニハ蚊蠅ノ點集セサル様注意セシムルコト
 - 七 病室内ノ塵芥ハ覆蓋アル器物ニ溜置キ一定ノ場所ニ於テ掃却セシムルコト
 - 八 患者ノ沐浴シタル湯水及汚物洗滌シタル汚水ハ消毒方法ヲ行ヒ一定ノ地ニ投棄セシムルコト
- 第六條 警察官吏檢疫委員傳染病ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ直ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷スルトキハ市町村長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ
- 第七條 交通遮斷施行中ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ
 - 一 遮斷區域中ノ物品ヲ區域外ニ搬出セントスルトキハ相當ノ消毒法ヲ施スコト
 - 二 外出ヲ請フ者アルトキハ事情止ムヲ得サルモノニ限り醫師ヲシテ檢診セシメ異狀ナキモノハ

傳染病及檢疫

消毒ノ上許可スルコト
三遮斷中ノ者へ面會ヲ求ムル者アルトキハ事情已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ許シ退去ノ際ハ消毒法ヲ行ハシムルコト

第八條 警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法施行規則第七條第一ノ事項ノ認可ヲ乞フモノアルトキ其移轉地市町村内ニアルトキハ警察官吏檢疫委員市町村長之ヲ認可シ市町村外ニアルトキハ警察官吏檢疫委員之ヲ認可スヘシ

第九條 警察官署長ニ於テ傳染病豫防法第十二條ノ事項ヲ許可セントスルトキハ左ノ各項ヲ履行セシメ巡查ヲ派遣シ監査セシムヘシ

一 擴穴ノ深サハ七尺以上ト爲スコト

二 棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ埋ムルコト

前項ノ場合ニ於テハ墓地他ノ所轄ナルトキハ其旨所轄警察官署長ニ通報スヘシ

第十條 傳染病豫防法第十三條ノ場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 死体ヲ已ニ埋葬シタルトキハ市町村長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第五條ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ執行シ且棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ埋ムヘシ

二 前項ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷スルヲ得

三 死体未タ埋葬セサルトキハ傳染病豫防法施行規則第二項第三條ニ依リ醫師ヲシテ檢按セシメ傳染病ナルトキハ全法施行規則第四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 市町村ニ於テ傳染病豫防委員ヲ置キタルトキハ其部内ニ告示シ全時ニ郡長及警察官署

長ニ報告スヘシ

第十二條 市町村ニ於テ傳染病院隔離病舎及消毒所ヲ設置セントスルトキハ其位置及構造ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

改築若ハ變更セントスルトキ亦全シ

第十三條 傳染病院、隔離病舎ノ開閉ハ其管理者ヨリ知事ニ報告スヘシ

第十四條 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニハ日誌ヲ備置キ一切ノ狀況ヲ詳記スヘシ

第十五條 郡長警察官署長又ハ檢疫委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ傳染病豫防法

第十九條第一ノ檢診ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ニ依リ檢診ヲ行フトキハ警察官吏郡吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ其事務ニ従事スヘシ

第十六條 警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第七條但書ノ通報ヲ受ケタルトキ互ニ通報シ警察官吏又ハ檢疫委員ハ警察官署長ニ報告スヘシ

第十七條 傳染病豫防法施行規則第九條ニ依リ調製スヘキ証票ハ巾一寸五分長サ三寸ノ厚紙ヲ用ユヘシ

第十八條 郡市長又ハ警察官署長ニ於テ傳染病流行ノ虞アリト認ムルトキ及傳染病ノ疑似症發生シ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハ其狀況ヲ詳記シ直ニ知事ニ報告スヘシ

傳染病豫防法第十六條ニ依リ清潔方法及消毒方法ノ執行ヲ必要ト認ムルトキ及全法第十九條第二乃至第八ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ亦全シ

第二章

器具及藥品

第十九條 市町村ニ於テハ左ノ器具及藥品ヲ設備スヘシ

消毒器

一消毒用器具

二患者用器具

三消毒藥調製用器具

消毒藥

一結晶石炭酸

二生石灰又ハ格魯兒石灰

三昇汞

四鹽酸

第三章

病院病舎消毒所及隔離所

第二十條 市町村ニ於テ設備スヘキ傳染病院、隔離病舎ノ位置及建物ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

位置

一飲用水ニ汚染ノ虞ナキ場所

二患者ヲ運搬スルニ便利ナル場所

四濕潤ナラサル場所

五墓地火葬場等ニ近接セサル場所

建物 傳染病院、隔離病舎

一重症患者室

二輕症患者室

三快復期患者室

四消毒室

五醫員其他事務員詰所調劑所看護人室炊場

六浴室

第二十一條 消毒所ノ位置ハ前條ニ準シ其ノ建物ハ左ノ各項ニ據ルヘシ消却所ハ別ニ適當ノ地ニ

設置スルコトヲ得

一消毒室

二事務員詰所

三浴室

第二十二條 傳染病院ハ患者三十名以上隔離病舎ハ患者十名以上ヲ收容スルニ足ルヘキ建設ヲ爲スヘシ

第二十三條 傳染病院ハ町村ノ狀況ニヨリ患者十五名以上ヲ容ル、ニ足ルヘキ同一建物中ニ重症

患者室、輕症患者室、及快復期患者室ヲ區別シテ設クルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ事務員醫員

看護人室炊場等ハ人員七名以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノヲ設クヘシ

第二十四條 傳染病院隔離病舎及消毒所ノ構造ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一病室ハ一人ニ付凡ソ一坪半ノ割合トス

二病室ハ床、側壁トモ板張「ペンキ」塗トスヘシ

三屍室及浴室ハ漆喰敲キ又ハ板張トス

四廁ハ窓衣ヲ有スル陶器ヲ伏セ漆喰敲キヲ以テ其上部周邊ヲ漏斗狀ト爲スコト

五浴室庖厨洗濯所等ノ排水ハ滲透セサル施設ヲ爲スコト
 六各病室ノ床下ハ二尺以上トシ床ハ汚水ノ漏泄セサル様施設スルコト
 第二十五條 隔離所ヲ設置スルトキハ第二十四條ニ準據スヘシ但寺院若ハ適當ノ家屋ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四章 掛員

第二十六條 傳染病院又ハ隔離病舎ニハ左ノ係員ヲ置クヘシ
 一 事務員 若干
 二 醫師 若干
 三 藥劑師 若干
 四 看護人 若干
 五 備夫 若干

土地ノ狀況ニ依リ別ニ藥劑師ヲ置カサルコトヲ得
 第廿七條 市町村ニ於テ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ醫師看護人消毒人夫運搬人夫ヲ雇入レ豫防上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第廿八條 傳染病豫防法第十七條ノ管理規程ハ別ニ之ヲ定ム
 第廿九條 傳染病院隔離病舎又ハ消毒所ヲ設置スヘキ市町村ハ別ニ之ヲ指定ス

第五章 附則

第三十條 第廿九條ニ依リ指定セラレタル市町村ニ於ケル從來設置ノ避病院、消毒所等ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ明治三十五年三月三十一日ヲ期シ改造増築若ハ變更スヘシ但市町村ノ事情

ニ依リ本條ニ從ヒ難キモノハ知事ノ認可ヲ受ケ延期スルコトヲ得
 第三十一條 十四年十二月乙第百八十三號廿三年十月訓令第百五十一號廿七年六月訓令第百七號全訓令第百八號廿八年四月縣令第百十四號全訓令第三十九號全縣令第十五號全訓令第四十六號全訓令第四十號全年五月訓令第五十六號全縣令第十六號全訓令第五十九號全訓令第五十三號全年六月縣令第十七號全訓令第六十四號全訓令第六十五號二十九年九月縣令第四十四號全年十月訓令第九十二號二十七年六月縣令第廿一號及從來ノ令達ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス
 書式(半紙二ツ切)

傳染病患者届(通報)

病名	發病月日時	轉歸月日時	死体檢按月日時	土葬火葬ノ別及月日時	轉歸月日時	治癒(死亡)	發病地名	職業	備考
								何々	
病名	發病月日時	轉歸月日時	死体檢按月日時	土葬火葬ノ別及月日時	轉歸月日時	治癒(死亡)	發病地名	職業	備考

右及御届(通報)候也

年月日時
年月日時受領

郡市町村大字番地
醫師 氏 名 印
官公職 氏 名 印

一備考欄ニハ發病ノ誘因其他參考トナルヘキ事項ヲ記ス但痘瘡患者ナルトキハ未種痘若クハ初種再三種又ハ瘡痘等ノ事項ヲ記スヘシ

二本則第三條ノ報告ヲ爲ストキハ醫師ノ届書ニ受領シタル年月日時及官公職氏名ヲ記シ送致スヘシ

三士葬火葬ノ別及月日ハ醫師ニ於テ記載ヲ要セス
○長野縣告諭第五號

傳染病發生セシ患家並ニ其近傍ノ各家ニ於テハ左之豫防心得ニ據リ病毒ヲ初發ニ撲滅シ以テ傳播ノ不幸ニ陥ラサル様深ク注意スヘシ

明治三十一年六月七日

長野縣知事 權藤 貫一

「ベスト」

本病ハ傳染病中最モ猛烈ナルモノニシテ感染ノ行路ハ主トシテ身体ノ損傷面ヨリシ又呼吸器及消化器ヨリモ來ルコトアルカ如シ而シテ其病毒ハ患者ノ損傷部ヨリ排泄スル血液、膿汁中ニ含ルモノニシテ一々ヒ不潔汚穢ノ場所ニ侵入スルヤ忽チ散蔓傳播ノ勢ヲ逞スルモノナレハ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ直ニ患者ト健康者トヲ隔離シ患者ニ接シタル衣服其他汚染セルモノ、消毒ヲ嚴重ニシ土地家屋ノ清潔ヲカムルヲ要ス其要項ハ左ノ如シ

(一) 患家

- 一患者發生ノ際病室ハ清潔ニ掃除シ成ルヘク家什ヲ置カサル様取片附空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 二患者ノ痰、唾、鼻汁其他身体ノ損傷ヨリ排泄スル血液、膿汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ覆蓋ヲ有スル容器ニ取纏メ其都度消毒藥ヲ灌キ置キ更ニ燒却スルコト
- 三患者用ノ便器ハ覆蓋ヲ具ヘ且滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ使用ノ都度消毒法ヲ行フコト
- 四患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等ハ總テ適當ノ箇所(又ハ容器)ニ取纏メ消毒藥ヲ灌キ置キ更ニ消毒法ヲ行フコト
- 五患者ノ損傷ヨリ排泄スル汚汁及ヒ之ニ汚染セル物ニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ用フルトキハ其蚊帳ハ汚汁等ニ汚染セサル様注意スルコト
- 六家人ノ飲食物ハ熱煮シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト
- 七家屋内ニ糞鼠アルトキハ直ニ燒却スルコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、汚水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ井戸及ヒ下水溝ノ破損セル部分ハ速ニ改修スルコト
- 二病家ノ用ユル井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得ザルトキハ煮沸シテ後之ヲ用ユルコト
- 三飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用ユルコト
- 四身体ニ創傷アルモノハ直ニ醫師ノ治療ヲ受テ創面ノ癒着ヲ謀リ病毒ノ侵入ヲ防クコト

傳染病及檢疫

- 五 家屋ヲ掃除シ家什、疊、建具等ハ日光空氣ニ曝スコト
- 六 衣服、臥等ハ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
- 七 家屋内ニ斃鼠アルトキハ直ニ之ヲ焼却スルコト

○發疹登扶私

本病ハ傳染ノ最モ迅速ナルモノニシテ其病毒ハ主トシテ患者ノ身体ヨリ揮散シ呼吸器ヨリ傳染スルモノナリ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ直チニ患者ト健康者トヲ隔離シ患者ニ接シタル衣服其他汚染セルモノ、消毒ヲ嚴重ニシ土地家屋ノ清潔ヲ力メ且空氣ノ流通ヲ計ルヲ要ス其要項ハ左ノ如シ

(一) 患者

- 一 患者發生ノ際病室ハ清潔ニ掃除シ家什ヲ置カサル様取片附空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 二 患者用ノ便器ハ覆蓋ヲ具ヘ使用ノ都度消毒法ヲ行フコト
- 三 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器、其他總テ患者ノ身体ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服等ハ總テ適當ノ箇所ニ(又ハ容器)取纏メ置キ消毒法ヲ行フコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一 家屋ヲ掃除シ空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 二 身体、衣服ヲ清潔ニシ過度ノ努力ヲ慎ムコト
- 三 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用ユルコト
- 四 熱性病ニ罹ル者ハ直チニ醫師ヲ治療ヲ受クルコト

○虎列拉(赤痢、腸室扶私)ニ準ス

本病ハ主トシテ飲料水又ハ食物ノ媒介ニ依リ消化器ヨリ傳染スルモノニシテ其病毒ハ患者ノ吐瀉物、排泄物中ニ合ルモノナリ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ直チニ患者ト健康者トヲ隔離シ患者ノ吐瀉物、排泄物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒ヲ嚴重ニシ殊ニ飲料水及ヒ土地ノ清潔ヲ力メ且暴飲過食ヲ慎ミ腸胃ヲ害セサルニ注意スルヲ要ス其要項ハ左ノ如シ

(一) 患者

- 一 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 二 患者用ノ便器ハ覆蓋ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ吐瀉物、排泄物ヲ承ケタル後ハ更ニ消毒法ヲ行フコト
- 三 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等ハ適當ノ箇所ニ(又ハ容器)取纏メ消毒藥ヲ濯キ置キ更ニ消毒法ヲ行フコト

- 四 患者ノ吐瀉物、排泄物及ヒ之ニ汚染セル物ニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊張ヲ用ルトキハ汚染セサル様注意スルコト
- 五 家人ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一 病家ノ用ユル井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用ユルコト
- 二 井溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、汚水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ井戸及下水溝ノ破損セサルモノハ速ニ改修スルコト
- 三 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用ユルコト

四家屋ヲ掃除シ家什、疊、建具等ハ日光空氣ニ曝スコト

○痘瘡

本病ノ病毒ハ痘漿痘痂中ニ含メルハ勿論患者ノ身体ヨリ發散スルヲ以テ傳染力最モ強キモノナリ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ直ニ患者ヲ隔離シ患者ニ接シタル衣服其他汚染セルモノ、消毒ヲ嚴重ニシ健康者ハ臨時種痘ヲ行ヒ殊ニ未痘兒ハ患者ニ近接セシメサルヲ要ス其要項ハ左ノ

一 患家

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經過シタル者ハ臨時種痘ヲ行フ
- 二 患家ニ兒童アルトキハ成人ヘク兒童ナキ他家ニ避ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ居室ニハ覆蓋ヲ有スル壺類ヲ備ヘテ痘漿ヲ拭ヒタル紙片布片又ハ落茄及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此ノ器中ニ入レ消毒法ヲ行ヒ更ニ燒却スルコト
- 五 患者用ノ便器ハ覆蓋ヲ具ヘ使用ノ都度消毒法ヲ行フコト
- 六 患者ノ玩具ハ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器看病人ノ衣服等ハ適當ノ箇所ニ(又ハ容器)取纏メ置キ消毒法ヲ行フコト
- 八 患者ノ身体及痘漿ニ汚染セルモノニ蚊蠅ノ集マラサル様之ヲ防クコト
- 九 患者ノ痘漿落茄スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂ニ入浴セシメタルコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經過シタル者ハ臨時ニ種痘スルコト
- 二 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ直ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

○寶布の里亞(格魯布ヲ含ム)

本病ハ多ク未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵スモノニシテ其病毒ハ主トシテ患者ノ咽喉又ハ喉頭ニ含メルモノナリ故ニ患者ノ痰、唾、鼻汁其他患者ノ使用セシ衣服玩具等ヨリ傳染スルヲ以テ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニハ直ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ要ス其要項ハ左ノ如シ

一 患家

- 一 患者ノ外兒童アルトキハ成人ヘク兒童ナキ他家ニ避ケシムルコト
- 二 患者ノ居室ニハ一切兒童ヲ立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ痰、唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ覆蓋ヲ有スル容器ニ取纏消毒ノ上燒却スルコト
- 五 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服等ハ適當ノ箇所ニ(又ハ容器)取纏メ置キ消毒法ヲ行フコト
- 六 患者ノ玩具、飲食器等ハ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一 患者アル家ト交通セサルコト
- 二 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ直ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

○猩紅熱

傳染病及檢疫

本病ハ多クハ二歳乃至七歳マテノ幼童ヲ侵スモノニシテ其病毒ハ主トシテ患者ノ鼻腔、咽頭等分
泌液中ニ含メリ又血液或ハ尿中ニ含メルモノ、如シ故ニ患者ノ痰、唾、鼻汁其他身体ニ創痍アル患
者ニ在テハ其部分ヨリ排泄セル血液、膿汁中ヨリ傳染スルヲ以テ本病ノ蔓延ヲ豫防セントスルニ
ハ直ニ患者ト健康者トヲ隔離シ殊ニ兒童ヲシテ患者ニ近接セシメサルヲ要ス其要項ハ左ノ如シ

(一) 患家

- 一 患者ノ居室ハ清潔ニ掃除シ成ルヘク家什ヲ置カサル様片附室氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 二 患者ノ痰、唾、鼻汁其他損傷ヨリ排泄スル血液、膿汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ覆蓋ヲ有スル容
器ニ取纏メ其都度消毒藥ヲ濯キ置キ更ニ燒却スルコト
- 三 患者用ノ便器ハ覆蓋ヲ具ヘ使用ノ都度消毒法ヲ行フコト
- 四 患者ノ玩具、飲食器ハ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 五 患者ノ用井タル衣服、臥具、敷物、飲食器、看病人ノ衣服等ハ總テ適當ノ箇所ニ(又ハ容器)取纏
メ置キ消毒法ヲ行フコト

(二) 病家近傍ノ各家

- 一 患者アル家ト交通セサルコト
- 二 病家ノ用ユル井戸ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得ヤルトキハ煮沸シテ後之ヲ用ユル
コト
- 三 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ用ユルコト
- 四 總テ熱性病ニ罹リタル者ハ直ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 五 家屋ヲ掃除シ家什、壘、建具等ハ日光空氣ニ曝スコト

六衣服、臥具等ハ能ク日光空氣ニ曝露シ其汚レタルモノヲ洗濯スルコト

○長野縣告諭第三號

虎列拉及赤痢病ノ發生セシ患家並ニ其附近ノ家ニ於テ交通ヲ遮斷セラレタルトキハ其家族及同居
人ハ左ノ各項ヲ心得當該吏員ノ指示ヲ遵守スヘシ

明治卅一年四月廿二日

長野縣知事 權藤 貫一

患者並ニ近隣ノ家交通遮斷中家族全居人心得

- 一 飲食物ハ注意シ可成消化シ易キモノヲ食スヘシ
- 二 冷水ヲ飲用セス必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ
- 三 食器ハ可成熱湯ニテ洗フヲ良トス
- 四 腹部ヲ冷シ又ハ寒冷等ヲ爲サ、ル様注意スヘシ
- 五 患者ノ上リタル便所ハ消毒后ト雖モ可成使用スヘカラス
- 六 患者ノ身体又ハ沈物ニ觸レタルモノニシテ萬一消毒ノ濟マサルモノヲ發見シタルトキハ當該
吏員ニ申出ヘシ

- 七 少ニテモ不快ヲ覺ヘタルトキハ直ニ醫師ノ診斷ヲ受クヘシ
- 八 交通遮斷中ハ門戸ヲ鎖シ他人ノ出入セサル様注意スヘシ
- 九 家僕小兒等ハ濫リニ他出スルノ恐レアルハ嚴重ニ取締ヲ爲スヘシ
- 十 交通遮斷ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラレ、ニ付宜シク注意スヘシ
- 十一 交通遮斷ノ事實ヲ知ラス來家アルトキハ戶外ヨリ其旨ヲ示シ歸宅セシムヘシ若シ止ムヲ得
ザル要アルモノナルトキハ家ノ内外ヨリ其要點ヲ語り又ハ聞キトルハ妨ナシ

○長野縣訓令第三十號

警察分署

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診断セシムヘシ
前項ニ依リ臨時醫師ヲ備入ル、トキハ一人一日金一圓以内ヲ目途トシ其勤務日數ニ應シ手當ヲ支給ス

○長野縣訓令第二十七號

長野縣知事

榎藤 實一

清潔方法監督事項別紙之通り様式相定メ候條實地調査ノ上其都度報告スヘシ
明治三十一年十一月二十三日
長野縣知事 園山 勇

清潔方法監督事項

年月日調査

市町村字名戸數

着手及終了月日

居室ノ掃除其他塵、敷物、臥具等乾燥ノ適否	
糞池、流シ、汚水溜ノ構造適否	
下水溝汚水排除ノ模様	
芥溜汚物ノ措置	
井戸浚ヒノ完否	
消毒藥ノ種類購入數量及金額	
全上使消數量及金額	
人夫雇入延人員及給額	
町村吏員及豫防委員勤務ノ模様	
其他必要ノ事項	
右及報告候也	
年月日	
宛	
○長野縣訓令第四十八號	
官氏名	

傳染病及檢疫

郡市役所
警察署
警察分署
町村役場

長野縣知事 權藤 貫一

傳染病豫防消毒取扱手續左ノ通相定ム

明治三十一年五月六日

傳染病豫防消毒取扱手續

第一條 市町村長ニ於テ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ若ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ豫テ設備ノ消毒藥並ニ消毒器具ヲ携帶セシメ直ニ其家ニ臨ミ消毒方法及清潔方法ヲ實施セシムヘシ

但其方法ハ明治三十年五月内務省令第十三號ノ規定ニ依ル

第二條 市町村長ニ於テ前條ノ消毒方法及清潔方法執行ノ際ハ警察官吏ニ通報スヘシ

第三條 消毒方法施行ノ際患者ニ對シテハ左ノ各項ヲ調査スヘシ

- 一 發病ノ誘因系統
 - 二 醫師診斷迄ノ病狀
 - 三 發病後又ハ醫師診斷後ニ交通セシ家及ヒ出入又ハ看護ニ來リタル者ノ族籍氏名
 - 四 不快ヲ感シタル后上リタル便房若ハ其場所
 - 五 不快ヲ感シタル后起臥又ハ業ヲ執リ若ハ外出シタル場所
 - 六 不快ヲ感シタル后使用シタル臥具、食器、衣服手拭及病毒汚染ノ虞レアル物件
- 第四條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一 患者ノ室ニアリタル物件ハ消毒前之ヲ室外ニ取出サル、様取締ヲ爲スコト
二 看護人ノ外家族其他ノ者ニシテ患者ニ接シタルモノハ之レヲ一室ニ避ケシメ身體消毒ノ手續ヲ爲スコト

三 必要ト認ムルトキハ患者ヲ傳染病院若ハ隔離病舎ニ移スノ準備ヲ爲サシムルコト
但移送ノ際ハ途中患者ニ必要ナル藥品器具飲料等ヲ準備スヘシ

四 便所其他病毒汚染ノ虞レアル者ニ對シ消毒ニ着手スルコト

但藥品ノ良否分量及消毒施行ノ方法ハ單ニ人夫ニ放任セス嚴ニ監督スヘシ

五 交通遮斷ヲ要スルトキハ其家族ニ對シ遮斷中ノ心得ヲ懇諭スルコト

六 患者ヲ移送セシ后ハ其居室及臥具、衣服ノ消毒ヲ先ニシ順次其他内外ノ消毒及清潔方法ノ施行ニ着手スルコト

但家族ニシテ強壯ノモノアラハ病毒付着ノ恐レナキ場所ノ清潔方法其他ノ施行ヲ補助セシメ嚴ニ監督ヲ爲スヘシ

第五條 患者消毒方法及清潔方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一 石炭酸水ヲ浸シタル雑巾ヲ以テ戸障子、敷居、鴨居、器具ヲ拭淨スルコト

但疊ニ限リブラシヲ用ユルヲ良トス

二 戸障子ヲ取り除キ又ハ開放スルコト

三 器具及疊ヲ屋外ニ出タシ日光ニ曝スコト

四 床上並ニ床下ニ消毒藥ヲ散布シ塵埃ヲ燒却スルコト

第六條 看病人及家族ノ消毒方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一爪ヲ剪ルコト
 二沐浴(髪頭ハ洗滌)ヲ爲スコト
 三患者自宅ニアル際ニ於テ寢食ヲ共ニセシトキ着用セシ衣服、臥具、食器等ハ總テ煮沸シタル后洗滌スルコト

第七條 井戸下水ノ清潔方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一井戸ハ井戸端ヲ洗ヒ可成井戸浚ヲ爲スコト
 二下水ハ消毒后數時間ヲ經テ塵芥ヲ取除キ燒却スルコト
 第八條 患者ノ近隣並ニ患者ト交通セシ家屋ニ對スル清潔方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ
 一戸障子ヲ開放シ可成器具、疊等ハ順次屋外ニ出シ日光ニ曝スコト
 但患者ト交通シタル所ハ患者同様消毒方法ヲ爲スヘシ

二床上及床下トモ丁寧ニ掃除シ其塵芥ヲ燒却スルコト

三襦衣、臥具ハ勿論常衣等ハ總テ日光ニ曝スコト

但患者ト交通セシ所ノ者ハ煮沸消毒ヲ爲スヘシ
 四井戸端下水ヲ掃除シ汚水ノ流通ヲ能クスルコト

但患者ノ下流ニアル下水ニハ消毒ヲ爲スヘシ
 五便所ノ糞便ハ之ヲ汲ミ出スコト

○長野縣訓令第六十四號

郡市役所
 警察署

藥物消毒ニ用ユル消毒藥ノ取扱ハ左ノ心得ニ據ルヘシ

明治三十一年五月廿七日

消毒藥取扱心得

長野縣知事

權藤貫一

警察分署
 町村役場

第一 石炭酸

一石炭酸ハ通常結晶シテ壘内ニ固結スルヲ以テ容易ニ溶解シ難キニヨリ豫メ右ノ如ク調製シ置クヲ要ス

壘ノ栓ヲ拔キ壘口マテ清水ヲ滿タシ温湯中ニ浸漬スルカ若クハ日光ニ曝露シ時々振盪シテ溶解スルヲ待テ然ル後栓ヲ爲シ暗所ニ貯フヘシ

二石炭酸水ヲ製スルカ爲メ左ノ器具ヲ準備スルヲ要ス
 蓋ヲ有スル適當ノ壘二個以上ヲ備ヘ其内容ヲ量リ五升ノ所ト一斗ノ所ニ各標線ヲ劃シ置クヘシ

三石炭酸水ヲ運搬スルニハ木製ノ器具、陶器、硝子器ヲ使用スヘシ

四石炭酸水ヲ製スルニハ先ツ溶解シ置キタル石炭酸一壘ヲ壘ニ傾注シ次ニ鹽酸五勺ヲ加ヘ徐々ニ清水若クハ温湯ヲ注加シ能ク攪拌シツ、五升ノ一線マテニ達セシメ二十倍鹽酸加石炭酸水ト記シタル札ヲ貼付スヘシ

第二 昇汞

一昇汞水ヲ製スルニハ煉鉢内ニ昇汞一匁ヲ入レ之ニ二升ニ合ノ熱湯若クハ温湯ヲ加ヘ能ク攪拌

傳染病及檢疫

シテ溶解スルヲ待チ塩酸十匁ヲ加フヘシ之レ即チ千倍昇汞水ニシテ水盪又ハ暗色ノ燻中ニ貯
フヘシ

二昇汞ハ其價廉ニシテ且ツ用途頗ル廣ク殆ント石炭酸水ト同一ノ場合ニ用ユルト雖トモ其性猛
毒ニシテ無臭ナルカ故ニ或ハ万一ノ危険ナシトセス此ノ危険ヲ防カンカタメ之ニ硫酸銅
(青色)十匁若クハ洋紅(赤色)五分ヲ加ヘ着色シ一見鑑別シ易カラシムヘシ

三昇汞水ハ時日ヲ經過スルトキハ分解シ殊ニ日光ニ觸ルレハ一層速ニ分解シテ殆ント消毒ノ効
ヲ失フヲ以テ可成使用スル毎ニ調製スヘシ

四昇汞水ハ腐蝕性ヲ備フルニ依リ諸金屬製器具ヲ消毒シ又ハ諸金屬製器具ヲ以テ取扱フヘカラ
ス

五飲食用器具、玩具、疊、敷物等ヲ消毒シ及飲料水ニ混入ノ虞アル場所、糞便、吐瀉物並ニ身体ヲ
拭淨スルニ用ニヘカラス

第三 生石灰

一 生石灰末ヲ製スルニハ適當ノ容器ニ生石灰ヲ入レ之ニ少量ノ水ヲ澆キ(澆キノ際ニハ温湯ヲ澆クヲ可トス)蓋ヲ
爲シ崩壞セシメ攪拌シテ其末タ崩壞セサル塊片ニハ猶水ヲ澆キ能ク細末ニ爲シテ使用スヘシ

二 石灰乳ヲ製スルニハ適當ノ容器ニ生石灰末ヲ入レ攪拌シツ、徐々ニ水ヲ加ヘ乳漿狀ノモノト
爲スヘシ其分量ハ生石灰末一升ニ水九升ノ割合トス

三 格魯兒石灰水ヲ製スルニハ格魯兒石灰百匁ニ清水四升ヲ加ヘ製スヘシ

本品ハ防臭ノ作用ヲ具フルニ依リ糞池等ノ消毒ニハ尤モ適スルモ變色ヲ嫌フ物品ハ仮令ハ染
色美麗ノ衣類等ノ消毒ニハ供スヘカラス又可成使用スル毎ニ調製スヘシ

四 普通石灰ヲ以テ生石灰末ニ代用スルニハ生石灰末ノ倍量以上ヲ用ユルモノトス

五 普通石灰ヲ以テ石灰乳ヲ製スル場合ハ生石灰乳ニテ製スルト同シク倍量以上ヲ用ユルモノトス
以上消毒ノ應用ハ左ノ如シ

一 糞池ニハ其容量五十分一以上ノ生石灰末又ハ十分一以上ノ石灰乳(即チ生石灰ノ五倍)或ハ
二十五分一以上ノ普通石灰(即チ生石灰末ノ倍量)又ハ五分一以上ノ普通ノ生石灰(即チ石
灰乳ノ倍量)ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

今茲ニ糞池中ニ五斗ノ糞便アリト仮定スレハ生石灰末ナレハ一升以上、石灰乳ナレハ五升以
上、普通ナレハ二升以上、普通石灰乳ナレハ一斗以上ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

二 溝渠井戸流シ臺所流等ハ糞池ト全様ノ處置スヘシ

三 糞池及流シノ周圍石灰乳又ハ生石灰末ヲ撒布シ全面ヲ覆フニ到ラシムヘシ

四 床下其他ノ土間ハ石灰乳又ハ生石灰末ヲ撒布シテ全面ヲ覆フニ到ラシムヘシ

五 芥溜等ハ普ク石灰乳ヲ撒布シ塵芥ヲ取除キ燒却シ其跡ニハ猶石灰乳ヲ普ク撒布スヘシ

六 生石灰末ト石灰乳トハ消毒個所ノ乾濕ニ依リ區別スヘキモノニシテ水溜リ又ハ水分多キ糞池
等ハ生石灰末ヲ便利トシ乾燥シタル所ニハ石灰乳ヲ使用スルヲ便トス

七 生石灰乳ハ永ク放置スレハ水分ト固形分ト二層ニ分レ自然消毒ニ厚薄ノ差ヲ生スルヲ以テ使
用ノ際ハ法ノ如ク必ス能ク攪拌使用スヘシ本品ハ漸次消毒ノ効力ヲ減シ或ハ全ク無効トナル
ヲ以テ法ノ如ク可成用ニ臨ンテ調製スヘシ

○長野縣訓令第六十五號

市役所
町村役場

傳染病患者調査名簿別紙之通り様式相定メ候條本年分ヨリ右ニ照準調製スヘシ
明治三十一年五月卅一日 長野縣知事 權藤 貫一

姓名	年齢	職業	住處 郡 町 市 村 番地	生計度	患者ノ既往症		最近數年間に隣者又ハ家族ノ傳染病ニ罹タル有無	
					患者ノ既往症	最近數年間に隣者又ハ家族ノ傳染病ニ罹タル有無		
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地
					發病 月 日	發病地	發病 月 日	發病地

患者所在地位	症 輕重	
	輕	重
飲用水使用水良否		
井池構造ノ不完		
糞池構造ノ不完		
汚水排除ノ不完		
地下水ノ高		
一般清潔法ノ施否		

(地上ヨリ水面ニ至ル大凡ノ距離)

○長野縣訓令第六十六號

市 役 所 町 村 役 場

傳染病統計年報別表ノ通様式相定メ候條本年分ヨリ右ニ照準調製シ町村役場ニ於テハ翌年一月末日限リ郡役所ニ報告シ郡市役所ニ於テハ全年二月末日限リ縣廳ニ報告スヘシ
明治三十一年五月三十一日 長野縣知事 權藤 貫一

町村名 大字 戸 口 數	有病大 數	衛生組 合 數	患者 數	死亡 數	發病 終息 月 日	入院 患者 數
家 數	一 家 二 名 以 上 患者 數	患者 數	死亡 數	發病 終息 月 日	入院 患者 數	

傳染病及檢疫

合計	市名(區名)	戶數人口	衛生組合數	醫師初發月日患	者死	亡患家數	自治治療	病院治療	見取圖	何傳染病	何	市	合計	〃	〃	〃	
													クク	クク	クク	クク	
經常衛生費																	

何月幾日 死患	月日	何町	何村	何村	何	郡	計	合計	町村名	傳染病預防費種	痘	費町村醫給料	衛生組合補助費	其他衛生費	合計	計寄	附金	合計	
																			衛生費
何傳染病町村別日計表																			

合計	〃	〃	何月幾日	月日	大字別日計表		大字名	戸數人口	衛生組合數	町村醫師	初發終息月日	患者	死亡	患者數	自治治療病院治療
					何々	何々									
〃	〃	〃	死患	何々	何々										
計															

傳染病及檢疫

九十三

合計	〃	〃	何月幾日	月日	何傳染病		何市
					何々	何々	
〃	〃	〃	死患	何々	何々		
計							

見取圖

市名(區名)	衛生費	合計寄附金
傳染病豫防費種痘費市醫師給料衛生組合補助費其他衛生費		
合計		

九十二

經常衛生費

何町村

大字名	衛生費	其他衛生費	合計	寄附金
傳染病豫防費種痘	費町村醫給料	衛生組合補助費		
合計				

見取圖

○長野縣訓令第五百五號

傳染病院、隔離病舎管理規程左之通相定ム

明治三十年八月二十五日

長野縣知事

權藤貫一

市役所
町場村役

第一 醫師ハ病院病舎ノ醫務衛生事務ヲ掌理シ治療其他ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第二 藥劑師ハ調劑ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第三 看護人ハ醫師ノ指揮ヲ受ケ看護ニ從事スヘシ

明治三十年八月二十五日
追十五項以下
追加改正
第十項
第十一項
第十二項

- 第四 醫師藥劑師事務員ハ交番宿直スヘシ
- 第五 看護人ハ病院、病舎ニ在宿スヘシ
- 第六 看護人ニノ調劑所及附場ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシム可カラズ
- 第七 入院患者ノ家族親戚等附添看護ヲ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第八 醫師及看護人等病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脱スヘシ
- 第九 患者ニ面會ヲ請フモノアルトキハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ
- 第十 病室用衣ハ一週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其都度十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十一 患者護送ノ人夫及運搬ノ器具ハ十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十二 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他ニ接觸シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水又ハ千倍ノ昇汞水(着色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ
- 第十三 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ
- 第十四 患者ノ飲食物ハ他ヨリ差入ヲ爲サシムヘカラス
- 第十五 患者用ノ飲食物具ハ毎回必ス之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ
- 第十六 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直ニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ
- 第十七 患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取リ概テ排泄物量ニ倍ノ石灰乳(十倍ノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ
- 第十八 石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス

傳染病及檢疫

第十五 患者ヲ快復期室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒方法ヲ爲スヘシ
 第十六 患者全癒退院際ハ全身入浴ヲ行ヒ身体ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ヘ退院セシムヘシ
 第十七 患者ノ携帶品ニシテ汚染ノ虞アル者ハ消毒方法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ還付スヘカラス
 第十八 患者ニ觸接シタル物品ニシテ消毒方法ヲ施行スル能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ノ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ
 第十九 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ
 第二十 床板、側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板、側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ
 病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ
 第廿一 埋葬ノ爲メ死体ヲ他所ニ移ストキハ消毒ノ上柩ニ歛メ之ヲ密閉スヘシ
 死体ノ運搬ハ未明又ハ夜間ニ於テスヘシ
 第廿二 病院、病舎ニハ器具其他必要ナル器具藥品等ヲ備置クヘシ
 病院、病舎ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置クヘシ
 寢臺ヲ用ヒサル場合ニ於テハ疊ノ上ニ油紙其他ノ汚物滲透ノ虞ナキモノヲ敷クヘシ
 第廿三 患者ノ携帶品ハ帳簿ニ記載シ置キ紛亂セサル様處理スヘシ
 第廿四 病院、病舎ニハ病床日誌及處方録ヲ備置クヘシ
 第廿五 患者ハ總テ其病院、病舎ノ擔當醫ニ於テ之ヲ取扱フヘシ若シ患者中他ノ醫師ニ診療ヲ乞ハントスルモノアルトキハ管理者ニ於テ之ヲ認許シ治療ヲ受ケシムルヲ得ルト雖モ此場合ニ於

テハ擔當醫ト協議シ患者ニ對シテハ總テ擔當醫ノ責任トス
 第廿六 病院病舎ニハ可成調劑所ヲ設クヘシ入
 第廿七 病院、病舎及豫防委員事務所ニハ別紙第一號離形ノ出勤簿へ事務員、豫防委員、醫師、藥劑師、看護人及小便人夫等ヲシテ日々之ニ捺印セシムヘシ
 第廿八 疑似症患者ハ他ノ患者ト同室セシムヘカラス
 第廿九 病症危篤ニ陥リタルモノアルトキハ可成家人又ハ親族等ニ其旨通知スヘシ
 第三十 消毒藥滋養品及消耗品ハ購入ノ都度別紙第二號及第三號表ニ記入スヘシ
 第一號離形 (出勤簿用紙)

月	何	月	何
	一日	二日	三日
	四日	五日	六日
	七日	八日	九日
	十日	十一日	十二日
	十三日	十四日	十五日
	十六日	十七日	十八日
	十九日	二十日	二十一日
	二十二日	二十三日	二十四日
	二十五日	二十六日	二十七日
	二十八日	二十九日	三十日
	三十一日		
			月計
			(事務員)氏名

第二號表

(用紙半紙)

月 日	消 毒 藥				滋 養 品			
	石炭酸	昇 汞	生石灰	代價合計	牛乳	鶏 卵	其 他	代價合計
	量目	代價	量目		代價	量目	代價	
	三五〇〇	一一〇〇	一五〇〇		一五〇	三〇〇	三〇〇	

(備考)

- 一 買入レタル日ハ毎日記入シ月末ニ至リ小計ヲ付スヘシ
- 一 空欄ニハ圈点ヲ捺スヘシ
- 一 本表ニ掲ケサル名稱ニシテ其他ノ欄ヘ記入シタルトキハ備考欄ヲ設ケ品名記入スヘシ
- 一 代價ハ總テ厘位ニ止ム

第三號表

(用紙半紙)

月 日	消 耗 品													
	筆	墨	紙	薪	炭	石油	米	其 他						
	個數	代價	個數	代價	枚數	代價	量目	代價	量目	代價	量目	代價	數	代價
	三	五	一	三〇	二〇	四〇								

(備考)

- 一 買入レタル日ハ毎日記入シ月末ニ至リ小計ヲ付スヘシ
- 一 空欄ニハ圈点ヲ捺スヘシ
- 一 本表ニ掲ケサル名稱ニシテ其他ノ欄ヘ記入シタルトキハ備考欄ヲ設ケ品名ヲ記入スヘシ
- 一 代價ハ總テ厘位ニ止ム

○長野縣令第四十三號
明治三十年八月二十九號傳染病豫防法施行細則第二十九條ニ據リ左ノ市町村ニ傳染病院ヲ
其他ノ町村ニハ隔離病舎ヲ設置スヘシ

明治三十年八月二十八日 長野縣知事 權藤 貫一

- 長野市
- 北佐久郡 岩村田町 小諸町
 - 小縣郡 上田町
 - 諏訪郡 上諏訪町 下諏訪町 平野村
 - 上伊那郡 伊那村 赤穂村
 - 下伊那郡 飯田町
 - 東筑摩郡 松本町 塩尻村
 - 更級郡 塩崎村
 - 埴科郡 松代町
 - 上高井郡 須坂町
 - 下高井郡 中野町
 - 下水内郡 飯山町
 - 南佐久郡 白田町 野澤町

○長野縣令第四十六號
傳染病豫防委員設置規定左之通相定ム

明治三十一年一月追加

明治三十年九月十七日

長野縣知事 權藤 貫一

明治三十一年八月二十九號
傳染病豫防法施行細則第二十九條ニ據リ左ノ市町村ニ傳染病院ヲ
其他ノ町村ニハ隔離病舎ヲ設置スヘシ

傳染病豫防委員設置規程

第一條 豫防委員ノ組織及ヒ其選舉ハ傳染病豫防法第十五條ニ依ル豫防委員ハ醫師ヲ加ヘ戶數五百戸迄ハ五名以上七名以下其戶數五百戸ヲ増ス毎ニ一名ヲ加フ但シ土地ノ情況ニ依リ特ニ増員ノ必要アルトキハ届出認可ヲ受クヘシ

第二條 豫防委員ハ市町村ノ傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ擔任ス

第三條 豫防委員ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 傳染病豫防法施行ニ關スルコト
- 二 傳染病院隔離病舎隔離所及ヒ消毒所ノ設備及ヒ管理ニ關スルコト
- 三 消毒器具及ヒ藥品ノ設備ニ關スルコト
- 四 清潔方法消毒方法施行ニ關スルコト
- 五 傳染病貧民患者救療ニ關スルコト
- 六 傳染病患者ノ收容又ハ死体埋葬ニ關スルコト
- 七 種痘ニ關スルコト
- 八 前各項ノ外必要ノ事項

第四條 市町村ハ其市町村内ニ豫防委員事務所ヲ置クコトヲ得

○長野縣令第三十五號
市町村傳染病豫防費補助規程左ノ通り改正シ本年五月十日ヨリ施行ス

明治三十二年五月九日 長野縣知事 園山 勇

傳染病及檢疫

市町村傳染病豫防費補助規程

第二條 市町村傳染病豫防費中左ニ記載スル諸費ニ對シテハ其精算額ノ四分ノ一其他ノ諸費ニ對シテハ六分ノ一ヲ補助ス

但支出ニ伴フ收入アルトキハ其支出額ヨリ之ヲ扣除シ殘額ニ對シ補助歩合ヲ計算ス

二傳染病豫防法第二十一條第三號中醫師藥劑師看護人(素養ア)ノ給料手當及旅費並ニ全條第四

號中傳染病院隔離病舎(假設ノモノハ除ク)ノ建築費

第二條 市町村ノ支出額其負擔ニ堪エヌト認ムルトキ又ハ特別ノ理由アルトキハ其支出總額ニ對シ全額迄ヲ補助スルコトアルヘシ

第三條 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ時價ニ運搬費ヲ加ヘテ金額ニ換算ス

○長野縣訓令第八十號

市町村傳染病豫防費補助規程施行手續別紙ノ通相定メ本年五月十日ヨリ施行ス

郡市役所
町村役場

明治三十二年五月九日
長野縣知事 園山 勇

第一條 補助規程第一條ニヨリ其支出額ニ對シ四分ノ一補助スルモノ左ノ制限ニ依ル

一醫師藥劑師ノ給料一日二圓以内一回五十錢以内

二素養アル看護婦一日二圓以内

三醫師藥劑師素養アル看護婦ノ旅費ハ其實費

四病院病舎(一時假設ノモノハ除ク)ノ建築費ハ其實費

第二條 補助規程第一條ニ據リ其支出額ニ對シ六分ノ一補助スルモノハ左ノ制限ニ依ル

一患者死者ノ運搬及消毒ニ使役スル人夫賃一日七十五錢以内

二小使給用達人夫賃ハ一日五十錢以内

三患者ノ食費滋養品代ハ通シテ三十錢以内

四患者ノ服藥消毒藥品費ハ其實費

五吏員豫防委員事務員ノ手當ハ一日五十錢以内

六豫防委員事務所ノ借家料一日二十五錢以内

七假設病舎ニ關スル諸費及備品費ハ其實費

八清潔法執行ノ爲メ使役スル人夫賃ハ一日四十錢以内

九前項ノ爲メ支消スル藥品費ハ其實費

十筆墨紙薪炭油其他消耗品費ハ其實費

十一豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シタル者ノ療治料ハ一日一圓以内

十二救治料ハ感染者ハ日給九十日分以内死亡者ハ日給百五十日分以内祀祭料ハ日給三十日分以内トス但手當ヲ給スルモノハ日割ヲ以テ本文ニ準算ス

十三火葬費ハ死者一人ニ對シ一圓以内葬具費ハ死者一人ニ對シ五十錢以内

十四種痘醫手當ハ一日二圓以内

十五痘苗代ハ其實費

第三條 前二條ノ制限ニ據リ難キ時ハ知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其支出額ニ對シ補助ヲ與ヘ

第四條 給料手當等ヲ受クルモノ、食費ニ關シテハ補助ヲ與ヘス

第五條 特別ノ情況ニ依リ市町村ニ於テ支出スヘキ金額其負擔ニ堪エスト認ムルトキハ補助規程

第二條ニ依ル

○長野縣令第四十號

檢疫委員職務章程左之通相定ム

明治三十年八月廿四日

長野縣知事 權藤 貫一

檢疫委員職務章程

第一條 檢疫委員事務所本部ハ本廳ニ置キ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 一名

副委員長 一名

委員 若干名

第二條 檢疫委員事務所ハ郡市ニ置キ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 一名

副委員長 一名

第三條 檢疫委員長ハ知事ノ命ヲ承テ部下ノ諸員ヲ指揮監督シ部中一切ノ事務ヲ掌理ス

副委員長ハ檢疫委員長ノ事務ヲ輔ケ委員長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第四條 檢疫委員事務所長ハ部下ノ諸員ヲ指揮監督シ其郡市内ニ属スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 檢疫委員事務所長ハ事務ヲ輔ケ委員長事務所長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第六條 檢疫委員長又ハ檢疫委員事務所長ハ檢疫委員ニ事務ノ分掌ヲ命スルコトヲ得

第七條 本廳ヨリ事務所ニ配置シタル檢疫委員ハ檢疫豫防ノ事務ニ參與シ又ハ事務所長ノ指示ニ

依リ實務ニ従事ス

第八條 檢疫委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ給スヘキ旅費額ハ別ニ之ヲ定ム

◎種痘

○甲第七十號

明治十八年三十四號布告ニ依リ種痘細則別紙之通相定ム

但明治十七年乙第六十二號達ハ廢止ス

右相違ス

明治十九年五月八日

長野縣知事

(別紙)

種痘細則

第一條 種痘ハ毎年春秋二季ニ施行スルモノトス

第二條 戶長ハ種痘所ノ位置並ニ毎季種痘施行ノ期日ヲ豫定シ之レヲ部内へ報告シ其旨郡役所へ

届出ヘシ

第三條 戶長ハ相當ノ醫師ヲ撰定シ部内種痘ノコトヲ擔當セシムルモノトス其人ハ郡役所ヲ經

テ縣廳へ届出ヘシ

但受痘者五十名以上アル場合ニ於テハ擔當醫ニ於テ別ニ助手ヲ指定スルヲ得

第四條 戶長ノ撰定シタル醫師ハ正當ノ故ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五條 種痘期日ニ至ラハ受痘者ハ種痘所へ出頭シ醫師ノ接種ヲ受クヘシ

但便宜ニ依リ最寄開業醫ニ就キ種痘ヲ受クルモ妨ケナシ

第六條 受痘者ハ種痘料トシテ初種ハ金八錢再三種ハ金四錢ヲ醫師ニ納ムヘシ

但赤貧ニシテ種痘料ヲ納ムル能ハサルモノハ戶長役場ニ出願施痘券ヲ受ケ種痘料ニ代納スル

ヲ得

第七條 醫師齒科醫科除クハ種痘人名簿ヲ製シ置キ種痘ヲ行ヒ若クハ天然痘患者ヲ治療シタルトキハ第

一號書式ノ證書ト割印ノ上之レヲ附與スヘシ

第八條 醫師ヨリ種痘證若クハ天然痘證ヲ受ケタルトキハ一週日以内ニ戶長ノ檢印ヲ受ケ之レヲ

保存スヘシ

第九條 種痘規則第四條ノ届ヲ爲タルモノ病氣快全又ハ事故止ミタルトキハ最寄開業醫ニ就キ直

チニ接種ヲ受クヘシ

第十條

第十一條 戶長役場ニ於テハ赤貧者施痘券ヲ願出タルトキハ事實ヲ取糺シ相違ナキニ於テハ之ヲ

附與スヘシ

第十二條 醫師ハ種痘料ニ代納シタルハ施痘券ハ一季毎ニ取纏メ戶長ニ請求現金ト交換スヘシ

第十三條 醫師ハ種痘料ヲ收入スルヲ以テ給料旅費ハ勿論一切ノ費用種痘所借入ノ類ヲ支給セス

第十四條 戶長ハ第十二條ノ請求アルトキハ篤クト審査ヲ遂ケ相違ナキトキハ町村費中衛生費ヨ

リ支辨スヘシ

第十五條 戶長役場ニ於テハ別紙第二號書式ニ倣ヒ種痘明細表ヲ製シ毎年一月三十一日限り郡役

所へ差出シ郡役所ニ於テハ之レニ準シ一郡表ヲ製シ二月二十八日限り縣廳へ差出スヘシ

第一號書式ノ一 (用紙西ノ内四ツ切)

戶長檢印

證

明治二十三年
縣令第二十三
號ヲ以テ
第十二條ヲ
削除ス

種痘

何郡何村何番地(寄留)
身分何某何女(又ハ何々) 姓 何年何ヶ月 名

初種(再種)(三種)
左何類 種痘濟 右何類 種痘濟 年 月 日 醫師 姓 名

實印ニテ
人名帳トテ 印 割

何郡何村何番地(寄留)
身分何某何女(又ハ何々) 姓 何年何ヶ月 名

天然痘濟 年 月 日 醫師 姓 名

第一號書式ノ二 (用紙全上) 戸長檢印

不善感ノ者ハ種痘濟ノ文字ニ代フルニ不善感ノ文字ヲ以テスヘシ

證 ○

實印ニテ
人名帳トテ 印 割

第二號書式

何郡何村外何ヶ町村種痘明細表

明治何年中

合	三痘		再痘		初痘		區	別
	不	善	不	善	不	善		
計	疾病事故ニテ種痘セサルモノ	善感	疾病事故ニテ種痘セサルモノ	善感	疾病事故ニテ種痘セサルモノ	善感	以	計
							滿一年	
							內滿一年以上二年	
							滿二年以上三年	
							滿三年以上五年	
							滿五年以上十年	
							滿十年以上十五年	
							滿十五年以上	
							十五年	
							合	
							計	

種痘

郡 役 所
戸 長 役 場

別紙種痘施術心得書部内開業醫へ無漏相示スヘシ此旨相達候事

明治十九年五月十日

長野縣知事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳記セサル可ラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者
- 第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ケナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊(三稜筋抵止ノ部位)ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢體質等ニ

隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘泡ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル種痘ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ可成新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痴皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一 痘泡ノ成形過度及過大ノ者發暈非常ニ大ナル者、泡縁又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者、痘泡非常

ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者、一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈スルカ如キ者

但此等ノ異常痘泡ノ近傍ニアル正泡モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者痘泡ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者、痘泡ノ已ニ化膿ニ傾キ

シ者、爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘泡破潰セシ者

三 梅毒腺病及皮膚病ニ罹リ居ル者、營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者、經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者(第十三條ヲ參觀スヘシ)

五 然天痘ヲ經タル者、再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ)ヲ以テ佳トスト

雖時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘泡ハ善感良性

ノ者ニシテ其合包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘泡ノ中心ヲ避テ泡面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顯ナル者痘泡ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顯アルモ其一顯ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
- 二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
- 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
- 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
- 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
- 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬ハ常度ナルヤ否

第十三條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ
接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコトナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)
第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始メテ此紅點ヲ生スルコトアリ)
第四日紅色ニシテ硬ク且隆起セル圓形若クハ楕圓形ノ小結節ヲ生ス
第五日ニハ結節細小ノ水泡トナリ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル
第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明ニシテ稍

々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス
第七日ニハ諸症益々増進ス
第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實シ紅暈著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又液下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈脈腫起スルコトアリ
第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ又加ル
第十日ニハ泡液化痰シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液トナリ泡ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ
第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコトナク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス
爾後黯褐色ハ又黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ初メテ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ楕圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス
但一回種痘セシモノニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

一 接種後二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化痰シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形トナリ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムルモノアルモ其經過總

ヲ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノモノト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノモノト雖モ脈下ニ疼痛ヲ覺
 エ微熱ヲ發スルコトナキニ非ス
 二接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル
 淡色ノ痂皮トナルヲ見ル
 三紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
 四第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍トナリ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ
 廣ク赤色ヲ呈ス
 五痂皮剝脱ノ後遺セル癢痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更
 ニ二三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ル迄ハ
 嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト
 間々之ナリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ豫防スヘカサル際ニハ第一條各項ニ掲グルモノト雖熱症病ヲ除
 グノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ
 總テ禁忌スルニ及ハヌ又別ニ醫藥ヲ要セス

○長野縣訓令第六十二號

郡 役 所
 戶 長 役 場

長野縣知事 木梨精一郎

種痘取扱手續左之通相定候條右ニ依リ種痘普及候様取計ヘシ
 明治二十一年二月十七日

種痘取扱手續

- 第一條 戶長役場ニ於テハ條末書式ニ倣ヒ種痘臺帳ヲ調製スヘシ
- 第二條 種痘臺帳ニハ本籍寄留ヲ問ハス總テ十六歲未滿ノ者ヲ記載シ種痘規則第六條ノ届出アル
 トキハ初種再三種ノ年月日善感不善感ノ別若シハ天然痘濟ノ年月日併轉籍寄留又ハ死生者アル
 毎ニ式ノ如ク記入スヘシ
- 第三條 戶長役場ニ於テハ前條ノ臺帳ニ就キ毎年種痘適齡者名簿ヲ適宜調製シ毎季種痘期日ニ先
 チ之レカ督促ヲナスヘシ
- 但種痘規則第四條ノ届出アルトキハ本條ノ名簿ヘ記載スヘシ
- 第四條 每期規則施行濟ノ上ハ其人員併感否ノ別毎町村ニ取調郡役所ヲ經テ届出ヘシ
 但種痘規則第三條ニ依リ施行シタルトキモ本條ニ準スヘシ

町村番地身分(寄留ノ者ハ本籍國郡町)
 村番地ヲモ記スヘシ)
 戶主(監督者) 氏 名

種痘天然痘濟	初種	再種	三種	加種	除種	生年月日	氏名
種痘濟	何年何月何日否	何年何月何日否	何年何月何日否	何年何月何日何	何年何月何日何	何年何月何日生	誰何男 某

種痘

何年何月何日
天然痘濟

何誰何女
何

一此ノ帳簿ハ町村別ニ戶籍番號順序ニ依リ一戸一枚ノ宛キ以テ調製スヘシ
 一種痘規則第三條ニ依リ接種セルモノ、事項ハ彙帳ニ記載スルニ及ハス
 ○長野縣訓令第三十四號

市役所
町村役場

痘苗製造所ニ對スル痘苗請求手續左ノ通相定ム

明治三十一年四月十五日

長野縣知事 權藤 貫一

痘苗請求手續

一市町村長ハ豫メ定期^{春季}種痘期日ヲ定メ種痘規則ニ遵ヒ其名簿^{種痘}ニ就キ當季接種人員ヲ点檢シ其所要痘苗ノ具數ヲ概算シ春季ハ前年十二月中秋季ハ其年六月中東京痘苗製造所ニ對シ第一號ノ書式ニ準シ直接報告ヲナスヘシ
 二市町村長ハ前項定期種痘施行期日凡ソ一ヶ月前ニ於テ其所要ノ痘苗具數ヲ調定シ東京痘苗製造所ニ對シ第二號書式ニ準シ直接請求スヘシ
 三臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ第一項ノ概算報告ヲ要セス何時タリトモ便宜痘苗ノ請求ヲ爲スコトヲ得但其具數五百以上ニ涉ルトキハ可成前以テ其手續ニ及フヘシ

四定期臨時ノ別ナク多數ノ痘苗ヲ要スルモノハ其發送期日ヲ數回ニ分割シ請求スヘシ
 (第一號) 痘苗具數概算報告書式
 明治何年^{秋季}所要痘苗概數

痘苗具數	所要期日	請求所名
何具	自何月何日 至何月何日	何縣何市役所又ハ何郡何町村役場

右及報告候也

右

年月日

何市役所又ハ何郡何町村役場

(第二號) 東京痘苗製造所宛
 痘病具數請求書式
 痘苗請求書

一痘苗何具 發送期日何月何日

(數回ニ分送ヲ要スル者ハ左ノ如ク内譯スヘシ)

内譯

何具 何月何日
 何具 何月何日
 右請求候也

種痘

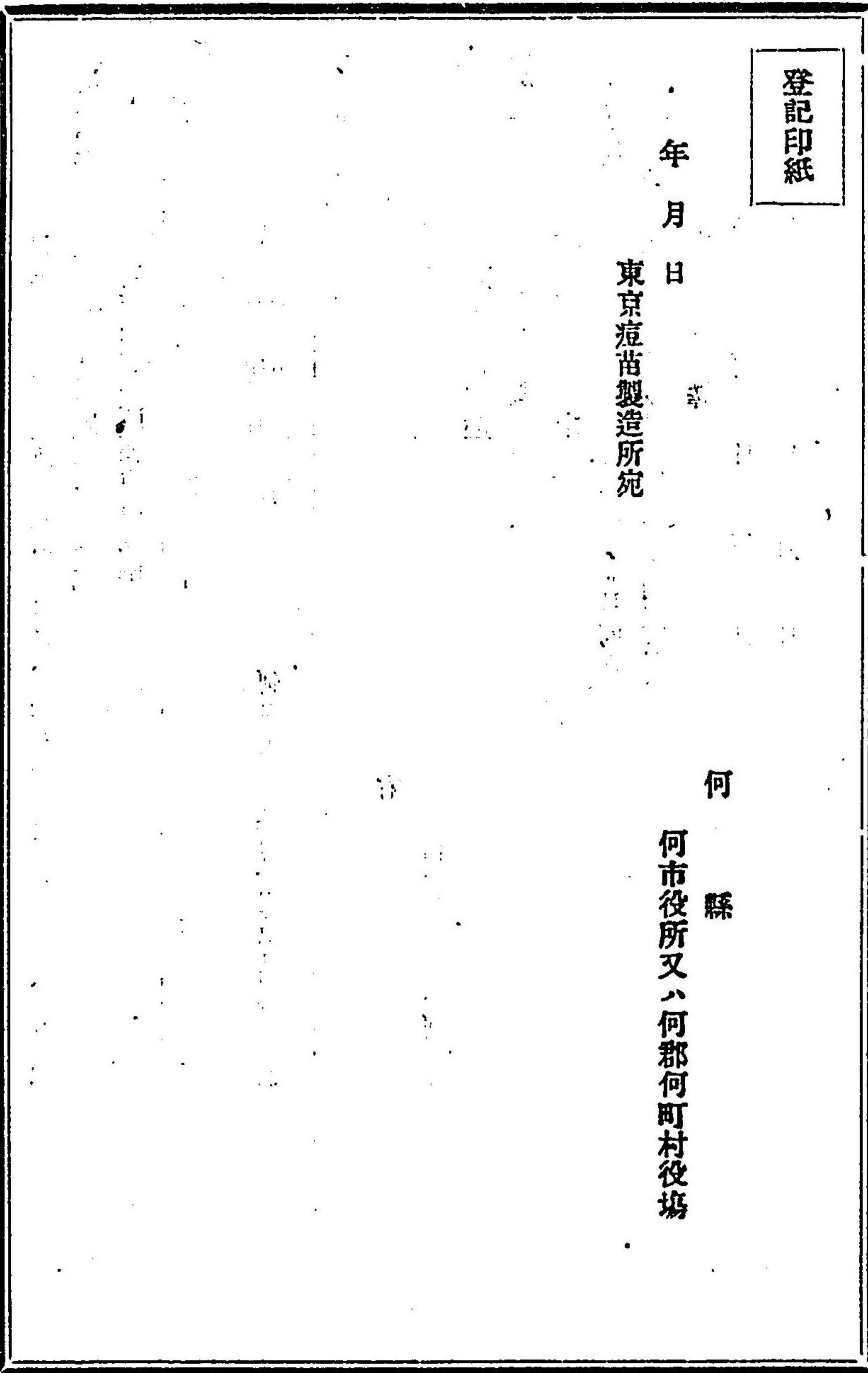
登記印紙

年月日

東京痘苗製造所宛

何 縣

何市役所又ハ何郡何町村役場



○病院

○甲第七十一號
公立病院設立手續別紙之通相定候條此旨相達候事
但現在設立ノモトニシテ此手續ニ抵觸スルモノハ此際更ニ出願スヘシ

明治十六年十一月十二日

公立病院設立手續

長野縣令大野誠代理

長野縣大書記官 烏山重信

第一條 公立病院トハ協議費ヲ以テ設立スルモノ及ヒ地方稅若クハ有志寄附ノ金殺ヲ以テ協議費ノ幾分ヲ補助スルモノヲ云フ

第二條 私立病院トハ一人或ハ幾人ノ私財ヲ以テ設立スルモノヲ云フ

第三條 公立病院ハ患者ヲ入院セシムルノ目的ヲ以テ設立スルモノトス

第四條 公立病院ヲ設立セントスルトキハ第一號書式私立病院ヲ設立セントスルトキハ第二號書式ニ倣ヒ繪圖面相添ヘ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ出願スヘシ

第五條 公立病院職員進退及給料ノ増減等ハ其時々衛生課ヘ報告スヘシ

第六條 公立病院ハ毎會計年度收支豫算其年五月三十一日限リ及ヒ決算其年七月三十一日限リ衛生課ヘ報告スヘシ

第七條 公立病院都合ニヨリ閉院スルトキハ其旨届出ツヘシ

第八條 分支院ヲ置クトキハ亦此手續ニ準據スヘシ

(第一號書式)

公立病院設立願

第四條十七
年七月一日
甲第六十五
號ヲ以テ本
文ノ通改

一病院位置 郡町村番地
 一名稱 公立某病院
 一建坪數 何坪
 一病室坪數 何坪
 一聯合町村 戶數何戶
 一院則 人口何口
 一院長及藥局長以下職員履歷 職員章程及患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類
 一院長及藥局長以下職員給料 每一人一ヶ月金何圓
 一病院費收入豫算金ノ性質
 金何圓 何町村協議費
 金何圓 雜收入
 金何圓 寄附金
 一病院費支出豫算 俸給並諸雇給等
 金何圓 但一ヶ月金何圓
 金何圓 書籍器械藥品等入費
 但一ヶ月金何圓
 金何圓 營繕入費並諸雜費
 但一ヶ月金何圓
 通計金何圓

但一ヶ月金何圓
 右之通今般郡内或ハ何町村協議ノ上設立仕度此段奉願候也
 某郡町村總代
 衛生委員
 氏 氏 氏 氏
 戶長氏
 氏
 某郡長氏
 年月日
 縣令宛
 前書之通相違無之ニ付與印候也
 年月日
 (第二號書式)
 私立病院設立願
 一病院位置 郡町村番地
 一名稱 私立某病院
 一建坪數 何坪
 一病室坪數 何坪
 一院則
 一院長及藥局長以下職員履歷

名印
 名印
 名印
 名印
 名印
 名印

病院

以上二項公立病院ノ例ニ準スヘシ
 一院長及藥局長以下職員給料 每一人一ヶ月金何圓
 一人或ハ數人ノ醫師結社設立ニテ給料ヲ不定ノモノハ其旨記載スヘシ
 一病院費
 收支豫算共公立病院ノ例ニ準スヘシ
 右之通設立仕度此段奉願候也

年月日
 郡町村番地
 醫師又ハ何業
 氏 名印
 (結社人アルトキハ)
 結社人 氏 名印
 衛生委員 氏 名印
 戶長 氏 名印
 某郡長 氏 名印

縣令宛
 前書之通相違無之ニ付與印候也
 年 月 日
 某郡長 氏 名印

◎墓地、埋葬、胞衣

○長野縣布達甲第二十號
 墓地及埋葬取締細則別冊之通相定メ此細則ニ抵觸スル從前ノ布達指令等ハ總テ消滅ス
 右布達候事

明治十九年二月十五日

長野縣令木梨精一郎代理
 長野縣大書記官 鳥山重信

(別冊)

墓地及埋葬取締細則

- 第一條 墓地及火葬場ハ許可シタル區域ニ限ル
 但衛生上障害アリト認ムルモノハ改良ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二條 已ムヲ得サル事情ニ依リ墓地ヲ新設シ又ハ區域ヲ取廣メントスルトキハ國縣道鐵道大川
 ニ沿ハス人家ヲ隔ツル凡ソ六十間以上ニシテ飲料水ニ障害ナキ高燥ノ地ヲ選ミ該地種反別及四
 隣地種ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ當廳ニ出願スヘシ
- 第三條 火葬場ヲ新設シ又ハ區域ヲ取廣メントスルトキハ縣國道人家及ヒ人民輻湊ノ地ヲ隔ツル
 凡百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ選ミ其建設仕様書ヲ添ヘ當廳ニ出願スヘシ
- 第四條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニ
 テモ之ヲ葬ムルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス
 但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス
- 第五條 墓地ノ周圍地ト非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ塀牆ヲ建テ又ハ
 樹木ヲ存スヘカラス

但從前ヨリ現存スルモノニシテ障害ナキモノハ此限ニアラス

第六條 火葬場ニハ火爐烟筒ヲ備へ臭煙ヲ防ク裝置ヲ爲シ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ニ隔絶シタル場所ハ適宜ノ裝置ヲナスモ妨ケナシ

第七條 墓地ヨリ六十間ノ距離内ニ於テ新ニ家屋ヲ建築シ飲料ノ井溝ヲ穿鑿シ又ハ火葬場ヨリ百

二十間ノ距離ニ於テ家屋ヲ建築スルヲ得ス

但已マテ得サル事情アル場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ死亡届書ニ左ノ各項ニ據リ其種別ノ書面ヲ添へ

戸長ノ認可書ヲ受ケ之レヲ管理者ニ渡スヘシ

一 主治醫ノ死亡届

一 醫師ノ治療ヲ受クル暇ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ナル時ハ醫師ノ死産證書

一 變死ニ係ルモノハ檢視官ノ認印ヲ受ケタル立會醫師ノ檢案書

一 囚徒ノ死屍病死ナル時ハ司獄官ノ檢印ヲ受ケタル獄醫ノ死亡證書又死刑ニ處セラレタルモノ

ハ司獄官ノ證明書

第九條 死屍ヲ埋葬スル墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キ場合ニ於

テハ所轄警察署若クハ分署ノ許可ヲ受クヘシ尤モ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリトス

但假埋葬モ本條ニ準スヘシ

第十條 改葬ヲ爲サントスルモノハ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

囚徒ノ死屍假埋シタル遺骨ヲ改葬セントスルモノハ戸長ノ與印ヲ受ケ監獄署ニ出願許可ヲ得テ

埋葬地所轄警察署へ届出ツヘシ其認許證受渡シノ手續ハ第八條ニ準スヘシ尤モ警察官吏又ハ司獄官吏臨檢スルコトアルヘシ

第十一條 火葬時間ハ日没後ヨリ日出前トス其別段規則アルモノ又ハ特ニ許可ヲ得タル場合ニ於

テハ此限ニアラス

第十二條 火葬場内ニ遺骨ヲ埋藏又ハ灰燼ヲ散亂スヘカラス

第十三條 誌銘傳替等ヲ刻スル碑表ヲ建設セントスルモノハ其寸尺碑又原稿並ニ建設地ノ圖面ヲ

添へ建碑ノ事由ヲ詳記シタル願書ニ管理者ノ連署墓地外ニ建設セントスルモノハ地主ノ連署戸

長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署へ願出ヘシ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止ルモノハ此限リニ

アラス

第十四條 墓地火葬場ノ關係區域内人民ハ管理者ヲ撰定シ其住所姓名ヲ所轄警察署又ハ分署及戸

長役場へ届出ツヘシ改撰ノ時モ亦同シ

但管理者ハ便宜ニ依リ一人ニシテ數ヶ所ノ墓地及埋葬場ヲ管理スルヲ得ルト雖モ一戸長役場

管轄外ニ涉ルヲ得ス

第十五條 管理者ハ墓地並ニ火葬場ノ掃除及ヒ修繕ニ注意シ専ラ清潔ヲ旨トスヘシ

第十六條 管理者ハ墓地並ニ火葬場ノ植圖及ヒ墓地ヲ調製シ其繪圖一葉ハ所轄警察署又ハ分署ニ

差出スヘシ

第十七條 墓地ハ第二號雜形ニ據リ豫メ墓地ニ區域ヲ設ケ繪圖面ニ番號ヲ附スヘシ

第十八條 管理者ハ葬主ヨリ戸長ノ認許證ヲ領收シタル時ハ直チニ墓籍ニ附録シ其認許證ニ第一

墓地、埋葬、胞衣

明治二十五年
令第六
號第十
九條及
追加

號雜形ノ裏書ヲ爲シ之ヲ編纂シ置每三ヶ月四期(一月四月七月十月)所轄警察署又ハ分署ノ捺印ヲ受ケ戸長役場ヘ差出スヘシ
但認許證ニ記載スル時間内ニ埋火葬セシムヘカラス
第十九條 墓地及埋葬取締規則並ニ此細則ニ違背シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第一號雜形

何年何月何日何時執行

長野縣何郡何村何墓地

管理者 氏名 〇

裏

面

(第二號雜形)

用紙内山野

認許証番號

(墓籍謄錄式)

番號位 置	死亡ノ年月日	國郡町村	種 族	死亡者ノ氏名年齡	埋火改葬ノ區別	葬主 氏名 族
第何號 幾番	明治何年何月何日病死又ハ何々死	何府縣何郡何町村	華(士)民族	何 某 何年何ヶ月	埋(火)葬又ハ何所ヨリ改葬	何郡何町番地 某

表

紙

墓 籍

明治何年何月何日

長野縣何郡何村

(何寺境外等ヲ詳記スヘシ)

墓地、埋葬、胞衣

○長野縣達内記第二七號

警察本署
警察分署

墓地及埋葬取締細則取扱手續別紙ノ通相定メ候條此旨相達候事

長野縣令木梨精一郎代理
長野縣大書記官 鳥山重信

明治十九年三月十六日

(別紙) 墓地及埋葬取締細則取扱手續

- 第一條 細則第一條但書ノ場合ニ於テ改良ヲ命セサルヲ得サルト認ムルトキハ其圖面ニ意見ヲ付シ警部長ニ差出ヘシ
- 第二條 墓地及火葬場ノ新設若クハ區域取廣メ願出タルトキハ警察本署ニ於テハ細則ニ抵觸ノ有無所轄警察署又ハ分署ヲシテ實地檢査セシメ警察署ハ之レニ意見ヲ付シ開申スヘシ
- 第三條 警察署又ハ分署ハ細則第七條但書ノ場合ニ於テ認許ヲ乞フモノアルトキハ實地檢査ノ上其地圖ニ意見ヲ付シ警察本署へ稟議ノ上處分スヘシ
- 第四條 細則第八條第四項ノ檢按書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞フトキハ年月日氏名ヲ記シ檢印スヘシ
- 第五條 警察署分署ニ於テハ細則第九條ニ依リ出願アル時ハ實地見分ノ上不得止モノハ許可スヘシ
- 第六條 警察署又ハ分署ニ於テハ改葬ヲ願出タル時ハ其事情ヲ取料シ不得止モノハ許可スヘシ

尤モ所轄外ノ地ニ改葬ヲ許可シタル時ハ其地警察署分署へ通報スルモノトス

但本條ノ場合ニアツテハ適宜巡査ヲ派遣シ相當取締ヲ爲サシムヘシ

第七條 虎列拉發疹瘰癧扶斯天然痘患者ノ死屍ハ改葬ヲ許可スヘカラス但火葬ノ遺骨ニ係ルモノハ此限ニアラス

第八條 警察署又ハ分署ニ於テハ細則第十三條ニ依リ碑表建設ヲ願出ツルモノアルトキハ其文案ヲ審査シ公安ニ害ナキモノト認ムルトキハ第一號書式ニ據リ許可シ尤モ建設濟ミノ旨届出タルルトキハ願意ニ抵觸ノ有無檢査スヘシ

官有地又ハ社寺境内ニ係ルモノハ警察本署ニ稟議ノ上許可スルモノトス

但分署部内ニ係ルモノ許可セシトキハ直チニ該署へ通知スヘシ

第九條 碑文公安ニ害アリト認ムルカ又ハ疑義ニ涉ルモノハ意見ヲ付シ警部長ノ指揮ヲ請フヘシ

第十條 警察署分署ニ於テハ所轄内墓地並ニ火葬場ノ位置及其管理者名簿ヲ調製整理シ置ヘシ

第十一條 警察署分署ニ於テハ管理者ヨリ戸長ノ認許證ヲ取纏メ檢査ヲ乞フキハ調査ノ上裏面毎葉ニ第二號書式ニ準シ署印ヲ捺印スヘシ

第一號書式

番號

願之趣聞届候事

但建設ノ上ハ其旨届出テ檢査ヲ受クヘシ

年月日

長野縣何警察署長
警部 氏

名

第二號書式

墓地、埋葬、胞衣

(細則第十八條第一號雛形)

裏	何年何月何日執行 長野縣何郡何村何墓地 管理者 氏名 ㊟
面	何年何月何日檢閱署印 ○ 取扱人認印

○長野縣達乙第二十六號

戸長 役場

墓地及埋葬取締細則布達候ニ就テハ埋火葬認許證附與手續別紙之通相定候條此旨相達候事

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山重信

明治十九年二月十七日

(別紙)

埋火葬認許證附與手續

第一條 各戸長役場ニ於テハ管理者名簿ヲ製シ置キ細則第十四條ニ依リ届出ヲタルトキハ其氏名等詳記スヘシ

第二條 埋火葬ノ認許證ヲ乞フモノアルトキハ死者現住ノ地ト否トニ拘ハラヌ細則第八條ニ定メタル届書及證書等ヲ査閲シ左ノ書式ニ認許證ヲ附與スヘシ

第三條 細則第十八條ニ依リ管理者執行濟ノ認許證ヲ差出シタルトキハ之レヲ編纂シ永年ニ保存スヘシ

雛形 (用紙半紙對)

第何號	埋火葬認許證
戸長 役場 之印	國郡村番地族籍 寄留者ナレハ本籍ヲモ詳記スヘシ
表	(何某父母兄弟妻子) 何年何月何日時病(變)死(死胎分娩) 何人ナレハ(何監獄署)ニ於テ死(變)死(死刑) 右何年何月何日何當地(埋)火葬認許候事
年 月 日	長野縣何郡何村 戸長 氏 名 ㊟

解釋

死胎分娩ノ何某ノ處(男)女ト記スヘシ

○長野縣縣令第三百三十二號

胞衣埋場取締規則別紙ノ通制定シ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス

墓地、埋葬、胞衣

明治二十年十二月五日

長野縣知事 木梨精一郎

胞衣埋場取締規則

- 第一條 胞衣及汚穢物ハ道路河川人家飲料水ヲ距ル十間以内ノ地ニ埋ムヘカラス
但火葬場ニ於テ燒棄スルモ妨ケナシ
- 第二條 胞衣及汚穢物ノ埋穴ハ深サ三尺以上タルヘシ
- 第三條 共同ノ胞衣埋場ヲ設クル町村ハ第一條ノ場所及衛生上障害ナキ乾燥ノ地ヲ撰ヒ地種反別及四隣ノ地種ヲ詳記シタル圖面相添ヘ郡役所ヲ經テ常廳ヘ願出許可ヲ請ク可シ
- 第四條 本則第一條第二條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ罰セラルヘシ

○長野縣訓令第十六號

郡 役 所

警 察 署

警 察 分 署

戶 長 役 場

明治廿年縣令第三百二十二號胞衣埋場取締規則第三條ニ由テ共同胞衣埋場ヲ設クルトキハ民有地第一種ニ編入スヘキニ付願及取扱手續等ハ總テ廿年訓令第四百四號ニ準シ取扱フ可シ

明治二十一年一月二十一日

長野縣知事 木梨精一郎

◎娼妓檢梅

○長野縣令第廿五號

娼妓身体檢査規則左ノ通相定ム

但シ明治廿五年三月縣令第二十四號娼妓微毒檢査規則ヲ廢止ス

明治廿九年四月十八日

長野縣知事 高崎親章

娼妓身体檢査規則

- 第一條 娼妓身体檢査ハ左ニ記載スル疾病ノ有無ヲ檢査スルモノトス
 - 一 微毒
 - 二 麻疹
 - 三 微毒ニ類似シ若クハ微毒感染ノ誘因トナルヘキ病症
 - 四 傳染性皮膚病
- 第二條 身体檢査ハ定期檢査臨時檢査ノ二種トス
- 第三條 定期檢査ハ一週間一回トシ別ニ定ムル所ノ日割ニ依リ檢査所ニ於テ之ヲ行フ
- 第四條 臨時檢査ハ左ノ場合ニ該ルトキ其時々微毒病院ニ於テ之ヲ行フ
 - 一新ニ娼妓稼業ヲナストキ
 - 二公許地外ニ於テ休業セントスルトキ
 - 三定期檢査日ニ跨リ公許地外ニ宿泊セントスルトキ
 - 四公許地外ニ宿泊シ定期檢査一回以上ヲ越ヘタルトキ
 - 五定期檢査當日他出不在ノ者復歸シタルトキ

六逃亡セシ者復歸シタルトキ

七第一條ニ記載スルニ疾病ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ

第五條 検査時間ハ定期臨時ヲ分タス午前第九時ヨリ午後三時迄トス但シ休暇日ニ當ル臨時検査ハ正午十二時迄トス

第六條 娼妓ハ定期検査ノ當日必ス検査ヲ受クヘシ

娼妓公許地内ニ於テ休業スル者ハ仍ホ前項ニ依ルヘシ但シ妊娠後七ヶ月ノ始メヨリ分娩後三ヶ月ノ終リ迄休業スヘキ場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 娼妓ハ第四條一乃至七ノ場合ニ該ルトキハ必ス臨時検査ヲ受クヘシ

第八條 娼妓定期検査臨時検査ヲ受クルトキハ検査時限内ニ出頭スヘシ但シ定期検査當日ハ正午十二時迄ニ出頭スヘシ

第九條 何人タリトモ検査場ニ入ルヲ許サス但シ當該官吏臨場ノ必要アル場合ハ此限ニ在ラス

第十條 娼妓ハ稼業ヲ爲ストキ及検査場ニ出頭スルトキハ微毒病院ヨリ交付ノ検査票ヲ携帯スヘシ

娼妓公許地外ニ於テ休業スルトキハ一時検査票ヲ返納スヘシ

検査票ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ直ニ微毒病院ニ届出テ再渡ヲ受クヘシ

第十一條 定期検査ノ當日他出不在ノ者アルトキハ其旨貸座敷營業人ヨリ検査時間前検査所ニ届出スヘシ

第十二條 定期検査ノ當日疾病ニ由リ検査所ニ出頭シ難キ者ハ貸座敷營業人ト連署シ醫師ノ診断書ヲ添ヘ検査時間前ニ検査所ニ届出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其所在ニ就キ検査ヲ行フモノトス

第十三條 定期又ハ臨時検査上娼妓稼業ニ堪ヘスト認ムルトキハ微毒病院長ヨリ所轄警察官署長

ニ通知シ稼業ヲ停止セシムルコトアルヘシ

第十四條 定期又ハ臨時検査上第一條ニ記載スル疾病アリト診定シタルトキハ検査票ニ入院ノ印ヲ捺シ微毒病院ニ入院ヲ命スヘシ

第十五條 前條ニ該當セサル者ハ主任醫検査票ニ捺印シテ之ヲ交付スヘシ

第十六條 娼妓ノ疾病全癒シ退院ヲ命スルトキハ主任醫検査票ニ捺印シ之ヲ交付スヘシ

第十七條 娼妓入院中六種傳染病ニ罹ルトキ及其以外ノ疾病ニ罹リ不治若クハ重症ト認ムルトキハ院外治療ヲ許スコトアルヘシ

第十八條 娼妓廢業死亡又ハ逃亡シタルトキハ直ニ本人又ハ貸座敷營業人ヨリ微毒病院ニ届出スヘシ

第十九條 貸座敷營業及娼妓稼業取締人ハ本則ノ規定ニ依リ娼妓又ハ貸座敷營業人ヨリ提出スル書面ニ連署シ且検査ニ關スル雜務ヲ擔任スヘシ

第二十條 第六條第七條第八條第十一條第十二條第一項ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○長野縣訓令第三十一號

微毒病院
全分院

各検査所検査定日左ノ通相定メ候條所屬娼妓及貸座敷營業人ヘハ其院ヨリ通知スヘシ

娼妓検査

但檢査定日年始ノ三日及大祭日ニ相當スルトキハ其翌日檢査スルモノトス

明治二十五年三月七日

長野縣知事 淺田 德則

月曜日 坂 城 下諏訪 塩尻町

火曜日 鶴 賀 常盤城 上諏訪 横 田

木曜日 岩 村 田

金曜日 長 窪 新 町 飯 田

土曜日 平 穩

○長野縣訓令第四十五號

梅毒病院

本年四月縣令二十五號娼妓身体檢査規則第三條ノ檢査定日ハ從前ノ通心得ヘシ

明治二十九年四月十八日

長野縣知事 高崎 親章

○長野縣丙百二十六號

驅 梅 院

娼妓梅毒檢査票從來警察署ニ於テ調製下渡候處自今其院ニ於テ別紙表式ニ準シ調製下渡ヘシ

此旨相違候事

(表式略ス)

長野縣令大野誠代理

明治十六年七月七日

長野縣大書記官 鳥山 重信

○長野縣丙百九十三號

梅毒病院

入院患者賄料ハ在院日數三十一日以上ニ渉ル分ハ官費支給スヘキ旨客年七月丙第三百六十三號ヲ以テ相違置候處本年六月一日ヨリ都テ自辨セシムヘシ候其旨該營業者ヘ達方可取計此旨相違候事

長野縣令木梨精一郎代理

明治十九年五月二十二日

長野縣大書記官 鳥山 重信

○長野縣訓令第三十二號

梅毒病院

娼妓入院又ハ退院シタル時ハ其都度月日並寄留主及本人ノ氏名ヲ警察署若クハ分署ヘ報告スヘシ入院日數引續キ十日ヲ超ヘタル者ハ其都度入院月日並寄留主及本人ノ氏名ヲ直ニ郡役所ヘ報告スヘシ

明治二十五年三月七日

長野縣知事 淺田 德則

明治二十五年五月十八日
訓令第十七號
第六次改正
本文ノ通改

◎入齒齒拔

○長野縣甲第七十八號

入齒々抜口中療治整骨營業取締規則別紙之通相定ム

右布達候事

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山重信

明治十八年七月四日

入齒々抜口中療治整骨營業取締規則

第一條 此規則ニ隨ヒ入齒々抜口中療治整骨ノ營業ヲ爲スモノハ明治十一年本縣ニ於テ鑑札ヲ交付セシモノニ限ル

第二條 前條ノ營業ハ鑑札ヲ所持スル者ニ非サレハ一切之ヲ爲スコトヲ許サス

第三條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ

第四條 該營業者ハ施術上如何ナル場合ト雖モ明治十三年第一號布告第二類第三類ニ掲クル毒劇藥ハ之ヲ使用スルヲ許サス

第五條 前條毒劇藥外ノ藥品ト雖モ内服藥トシテ患者ニ與フルコトヲ許サス

第六條 氏名ヲ變換シ又ハ甲郡ヨリ乙郡ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札書換ヲ願出スヘシ

第七條 鑑札ヲ遺失シ又ハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ三日以内ニ更ニ鑑札ヲ願受ヘシ

第八條 廢業死亡又ハ他管下ヘ轉籍寄留スルモノハ鑑札返納其旨届出ヘシ

第九條 他管下ヘ轉籍寄留シ仍ホ其營業ヲ爲サントスルモノハ其事由ヲ詳記シ添翰願受クヘシ但
他管下ヨリ當管下ヘ轉籍寄留スルモノモ亦之ニ準スヘシ

第十條 此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ

處分シ尙所犯状況ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

○長野縣甲第七十九號

入齒々抜口中療治整骨等ノ營業ヲ新規開業セントスルモノハ明治十六年大政官第三十四號布達醫術開業試験ニ據リ願出成規ノ試験ヲ受クヘシ

右布達候事

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥山重信

明治十七年八月四日

◎產婆、鍼灸治

○長野縣令第四十一號

產婆取締規則左之通相定ム

但明治十七年^四本縣甲第三十一號產婆營業規則ヲ廢止ス

明治三十年八月二十四日

長野縣知事 權藤 貫一

產婆取締規則

第一條 產婆業ハ内務省免狀又ハ本縣ノ免許證ヲ有スルモノニ非サレハ開業スルコトヲ得ス

第二條 本縣ノ免許證ヲ得ント欲スルモノハ產婆試驗及第證ヲ添へ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第三條 知事ハ土地ノ狀況ニ依リ本人ノ出願アルトキハ其開業區域ニ限リ試驗ヲ經サル者ト雖ト

モ特ニ假開業ヲ免許スルコトアルヘシ

第四條 產婆ヲ開業セントスル者ハ其開業地及本籍ヲ詳記シタル書面ニ履歷書及免狀又ハ免許證

寫ヲ添へ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 產婆ハ醫術ヲ施スコトヲ許サス

第六條 產婆ハ墮胎ノ疑アリト認ムルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 左ノ場合ハ本人又ハ其家人ヨリ五日以内ニ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ免狀又ハ

免許證アルモノハ再渡又ハ書換ヲ受ケ若ハ返納スヘシ

一轉居改氏名又ハ廢業シタルトキ

二失踪死亡シタルトキ

三免狀又ハ免許狀ヲ失ヒタルトキ

第八條 產婆業務ニ關シ不正ノ行爲アルトキハ情狀ニ依リ其業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第九條 免許ヲ受ケス若クハ開業届ヲ出サスシテ產婆業ヲナシ又ハ本則第五條第六條ヲ犯シタル

者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

○長野縣令第四十二號

產婆試驗規則左之通相定ム

明治三十年八月二十四日

長野縣知事 權藤 貫一

產婆試驗規則

第一條 產婆業ヲ爲サントスル者ハ此規則ニ依リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 產婆試驗ハ毎年二回舉行スヘシ其舉行ノ地及試驗期日ハ二ヶ月前之ヲ告示ス

第三條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

一妊娠中攝生法ノ大意

二產婦取扱法ノ大意

三初生兒取扱法ノ大意

四妊娠攝生法ノ大意

第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ滿二十年以上ノ婦女ニシテ試驗期日一ヶ月前其願書ニ履歷書相

添へ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第五條 試驗ハ筆記又ハ口答ノ二種トシ出願者ノ撰擇ニ任ス

第六條 試驗合格ノ者ニハ及第證ヲ附與ス

○長野縣告示第五百十三號

產婆試驗受驗人心得左之通相定ム

明治三十年八月二十四日

長野縣知事 權藤 貫一

產婆試驗人心得

第一條 產婆試驗ハ本縣ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

第二條 產婆試驗ヲ受ケント欲スル者ハ明治三十年八月本縣令第四十二號產婆試驗規則第四條ニ依

リ左記書式ノ願書ヲ所轄郡市役所ニ差出スヘシ

第三條 產婆試驗願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試驗舉行ノ期日一日前ニ受驗地ニ

到着シ宿所氏名ヲ其郡市役所ニ届出ヘシ

(願書式)

住所(寄留ナレハ本籍ヲ詳
記スヘシ)

族 氏 籍

名 生 年 月

私儀何年何月何地ニ於テ產婆試驗相受度別紙履歷書相添此段奉願候也

右

年 月 日

氏

名 印

市町村長

知 事 宛

氏 名 印

○長野縣甲第八十號

鍼灸治療業取締規則別紙ノ通相定メ明治十四年本縣乙第十一號布達ヲ廢止ス

右布達候事

長野縣令木梨精一郎代理

長野縣大書記官 鳥 山 重 信

明治十八年七月四日

鍼灸治療業取締規則

第一條 鍼灸治療ノ業ヲ營マントスル者ハ其履歷書及師家ノ證書ヲ添ヘ免許鑑札ヲ願受クヘシ

但從前免許鑑札ヲ得タル者ハ更ニ出願ニ及ハス

第二條 無免許ニシテ鍼灸治療ノ營業ヲ爲スヲ許サス

營業ノ爲メニ外出スルトキハ必ラス鑑札ヲ携帯スヘシ

第三條 患者ニ藥方ヲ示シ又ハ藥劑ヲ與フルコトヲ許サス

第四條 熱性炎症性症其他危篤ノ病症及妊婦ニハ醫師ノ指圖ニアラサレハ施術スルヲ許サス

第五條 醫師治療中ノ患者ハ其醫師ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ施術スルヲ許サス

第六條 氏名ヲ變換シ又ハ甲郡ヨリ乙郡ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第七條 鑑札ヲ遺失シ又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

第八條 廢業死亡又ハ他管下ヘ轉籍寄留スル者ハ鑑札返納其旨届出ヘシ

第九條 第二條第三條第四條第五條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一

明治三十年
五月縣令三
十號ヲ以テ
改正ス

產婆鍼灸治

圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
第十條 營業者其業ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

◎ 鑛 泉

○長野縣令第三百二十三號

鑛泉營業取締規則左ノ通制定シ明治廿一年二月一日ヨリ施行ス

但從前開業セルモノモ本則ニ準シ願出許可ヲ請クヘシ既ニ鑛泉成分主治効能浴法等調査済ノ分ハ其調査ノ寫ヲ添へ原泉差出スニ及ハス

明治二十年十二月五日

長野縣知事 木梨精一郎

鑛泉營業取締規則

第一條 鑛泉營業トハ鑛泉ノ現所若クハ採酌運搬シ又ハ極管等ヲ以テ引致シ浴場ヲ設ケ公眾ヲ浴セシメ營業スル者ヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲナサントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ原泉ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ願出許可ヲ請クヘシ

一 鑛泉湧出地ノ町村字名及地種
二 發見ノ年月

三 溫冷泉ノ區別及其名稱

四 湧出地ノ地形及地質

五 鑛泉湧出ノ多少泉原及浴槽中ノ溫度攝氏寒暖計ヲ用ユヘシ

六 浴場構造方法並位置敷地建物浴槽ノ坪數近傍ノ景況及其圖面

七 火溫ヲ用ユルモノハ竈構造ノ方法

第三條 前條願出ノ際鑛泉ハ左ノ各項ニ準シ差出スヘシ

鑛 泉

明治卅年四月廿二日
縣令第廿四號
改正

一 鑛泉凡二升トス
 二 容器ハ玻璃瓶又ハ陶器ニ限ル
 三 容器ハ其鑛泉ヲ以テ丁寧ニ洗滌シ之ヲ泉中ニ沈メ探酌シ揮散セザル爲メ清潔ナル「キルク」又ハ軟カナル木ヲ以テ栓塞密閉シ其栓端ト水トノ間ニ少量ノ空隙ヲ存スヘシ
 第四條 既ニ許可ヲ得タル鑛泉ヲ探酌運搬シ又ハ極管等ヲ以テ引致シ浴場ヲ開業セントスルモノハ第二條第三項第五項第六項第七項ニ準シ所有者連署ノ上所轄警察官署ヲ經テ出願許可ヲ受クヘシ
 第五條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ヲ經テ届出スヘシ
 一 轉籍寄留改氏名代換又ハ廢業セシトキ
 二 賣渡シ又ハ讓與シタルトキ 双方及地主連署ヲ要ス
 第六條 浴場ノ構造ハ凡左ノ各項ニ準スヘシ
 一 浴場ハ空氣ノ便ヲ好クスヘシ
 二 火温ヲ用ユルモノ又火焚場ハ堅牢ニ築造シ煙出シ天井裏ハ漆喰又ハ金屬等不燃質ノ物ヲ用ユヘシ
 第七條 浴場及浴槽ヲ新築改造又ハ修繕セントスルトキハ所轄警察官署ニ届出落成ノ上ハ檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス
 但檢査上不適合ト認ムルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ
 第八條 煙出シ天井裏等ハ毎月一回以上必ス掃除スヘシ
 第九條 男女混浴セシムルヲ許サス

明治三十年四月縣令廿四号ニテ追加

但介抱ヲ要スルモノ及十二歳未満ノ者ハ此限ニアラス
 第十條 浴場ハ常ニ清潔ニ掃除スシ
 第十一條 鑛泉ノ成分主治効能及浴法等ハ浴場ニ揭示スヘシ
 第十二條 一鑛泉ニシテ營業者二名以上ナルトキハ管理者ヲ定メ其氏名ハ所轄警察官署ニ届出スヘシ
 但管理者ハ本則ノ賈ニ任スルモノトス
 第十三條 本則第二條本項第四條第五條第六條第八條第九條ニ違背シタルモノ第七條第二項ニ違背シ命ニ從ハサルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
 ○長野縣令第一三四號
 營業ニアラスト雖モ一町村一部落ノ用ニ供スルモノ又ハ旅舎營業者其宿泊人ノ用ニ供スル爲メ鑛泉浴場ヲ開設セントスルモノハ本年縣令第二百二十三號鑛泉營業取締規則第二條第三條第四條第七條ニ準シ願出ヘシ
 但從前開設セルモノモ本文ニ依リ願出ヘシ既ニ鑛泉ノ成分主治効能浴法等調査ノ分ハ其調査ノ寫ヲ添へ原泉差出スニ及ハス
 明治二十年二月五日
 長野縣知事 木梨精一郎

◎雜

○長野縣々令第二號

明治十六年七月本縣甲第五十號布達地方病患者届出手續別紙ノ通改正ス

明治二十年一月十一日

長野縣知事 木梨精一郎

明治三十二年
縣令第十二
號ヲ以テ第十
三條第四條
改正

地方病患者届出手續

第一條 地方病ノ調査ハ專ラ風土氣候習俗等ニ徴シ其病原ヲ探知シ將來豫防改良ノ方法ヲ設クルノ目的ナルヲ以テ勉メテ實數ヲ得ルヲ要ス

第二條 地方病ハ漸次各種ノ調査ヲナスヘシト雖トモ目下脚氣間歇熱ノ二病トス

第三條 醫師ニ於テ前條ニ掲クル患者ヲ診療シタルトキハ別紙様式ニ準シ取調毎年一月十五日限

リ市町村長ニ差出シ町村長ハ直ニ郡役所ニ送致スヘシ

第四條 郡市役所ニ於テ前條ノ患者表ヲ受ケタルトキハ別紙様式ニ準シ統計シ一月三十日限リ縣

廳ニ報告スヘシ

地方病患者表

明治何年

脚		氣		間		熱	
自	至	自	至	自	至	自	至
一月	六月	七月	十二月	一月	六月	七月	十二月
男	患者	男	患者	男	患者	男	患者
女	死亡	女	死亡	女	死亡	女	死亡
計		計		計		計	

二月	三月	四月	五月	六月	計	二月	三月	四月	五月	六月	計
八月	九月	十月	十一月	十二月		八月	九月	十月	十一月	十二月	

右届出候也

住 所

醫 師 氏 名

宛

○長野縣甲第七十二號

中毒患者届手續別紙之通相定候條此旨布達候事

長野縣令大野誠代理

長野縣大書記官 鳥山重信

明治十六年十一月十二日

中毒患者届手續

第一條 醫師ニ於テ飲食物ノ中毒又ハ藥品ノ誤用ニ罹ル患者ヲ診察治療シタルトキハ第一號書式其
死后檢按ニ係ルモノハ第二號書式ニ據リ毒物現品相添ヘ速ニ患者所在ノ衛生委員ニ差出スヘシ

雜

但毒物現品ナクシテ他ニ毒物含有ノ見込アルトキハ之ヲ添付スヘシ
 第二條 毒物現品及ヒ毒物含有ノ見込アルモノ添付スルニハ清潔ナル硝子製又ハ陶製ノ器ニ容レ固封シ且品質ニ依リ腐敗セサル爲メ適當ノ防腐ヲ施スヘシ
 第三條 中毒患者治療又ハ死亡スルトキハ第三號書式治療中慢性症ニ歸スルモノハ第四號書式ニ倣ヒ醫師ヨリ届書ヲ衛生委員ニ差出スヘシ
 第四條 飲食物ノ中毒又ハ藥品ノ誤用ニ罹リ醫師ノ診察ヲ受サルモ其中毒ノ著シキモノハ速ニ衛生委員ヘ届出ヘシ
 第五條 衛生委員前條々ノ届書ヲ受ケタルトキハ戸長ト連署シ所轄郡役所ヲ經由縣廳ヘ差出ヘシ
 但第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ第五號書式ノ届書ヲ作り本文ノ手續ヲナスヘシ

第一號書式

中毒患者御届

郡町村番地居住 密附 族職業

氏 名

年 齡

右之者何月何日午前第何時何所ニ於テ何々ノ際何品生或燒干等ヲ區別スヘシ 何程飲(食)用(何々ノ病症ニ付何藥何程服用)候處凡ソ何時間ノ后云々其苦痛煩悶等發症ノ狀ヲ詳記スヘシ 症狀ヲ現ハシ何々中毒症ト診斷致候ニ付(毒物現品相添)此段御届仕候也

何郡町村醫師

氏 名 印

年 月 日

全衛生委員

氏 名 印

戸長 氏 名 印

縣 令 宛

第二號書式

中毒患者死体檢按御届

届書前式ニ全シ

氏 名 年 齡

右之者何月何日何々飲(食)用候處凡ソ何時間ノ后云々其苦痛煩悶等概狀ヲ詳記スヘシ 症狀ヲ現ハシ死亡候處何々中毒症ト檢按致候依テ(毒物現品相添)此段御届仕候也

郡町村醫師氏名以下前條ニ全シ

第三號書式

中毒患者治療(死亡)御届

届書前式ニ全シ

氏 名 年 齡

右ノ者去ル何月何々中毒ニ罹リ候儀御届出置候處爾後云々發病后治療又ハ死亡ニ至ル迄經過症狀ヲ詳記スヘシ ノ症狀ヲ發シ何月何日治療(死亡)候ニ付此段御届仕候也

第四號書式

中毒患者慢性御届

郡町村醫師以下前式ニ同シ

肩書前式ニ全シ

氏名

年齢

右ノ者何月何日何々々々中毒症ニ罹リ候ニ付御届仕置候處爾后云々發病后經過ノ症狀ヲ詳記スノ症狀ヲ發シ慢性症ニ歸シ候間此段御届仕候也

第五號書式

中毒患者御届

郡町村醫師氏名以下前式ニ全シ

郡町村番地居住

族職業

氏名

年齢

右之者何月何日何時何處ニ於テ何々ノ際何品生煮燒干等ヲ詳記ス何程飲食用シ或ハ何々ノ病症ニ付何藥何程服用候處凡ソ何時間ノ後云々其發症ノ最狀ヲ詳記スハシ全ク中毒症ト認メ候旨届出候ニ付此段及御届候也

年月日

郡町村衛生委員 氏

名印

戸長氏名印

縣令宛

○長野縣令第百十五號

死亡死産届規則別紙ノ通相定ム

明治十六年本縣甲第六十七號布達廢止ス

明治二十年十月十九日

長野縣知事 木梨精一郎

死亡死産届出規則

第一條 死亡死産(妊娠四ヶ月以上ハ本籍寄留ヲ論セス)此規則ニ依リ届出ヘキモノトス

第二條 死者ノ家人家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノモノハ必ス主治ノ醫師ニ就キ死亡届ヲ請求シ之ヲ戸長ニ差出スヘシ

第三條 頓死急病其他醫療ヲ加ヘスシテ死ニ至リタルモノアルトキハ其家人家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノモノ速カニ最寄醫師ヲ招キ死体ノ檢案ヲ受クヘシ

第四條 醫師治療ノ患者死亡シ又ハ死体ヲ檢案セシトキハ第一號若クハ第二號書式ノ届書ヲ作り其家人家人ナキ場合ニ於テハ親戚又ハ隣佑ノモノニ附與スヘシ

第五條 醫師死体檢案ノ上異狀アリト認ムルトキハ警察署又ハ分署ニ急報スヘシ

第六條 醫師治療シタル行旅病人死亡及ヒ死体ヲ檢案シ該届書ヲ附與スヘキモノナキ場合ニ於テハ其届書ヲ直チニ戸長ニ差出スヘシ

第七條 前條々ノ場合ニ於テ數醫立會ニ係ルトキハ主治醫ヨリ其届書ヲ附與スヘシ尤モ時機ニ依リ數醫運署スルモ妨ケナシ

第八條 死胎分娩妊娠(四ヶ月以上)シタルトキハ必ス醫師ニ就テ其死胎ノ檢案ヲ受ケ届書ヲ請求シ之レヲ戸長ニ差出スヘシ

第九條 醫師死胎分娩者ヲ診察施術シ又ハ檢案セシトキハ第三號若クハ簿四號書式ノ届書ヲ其家

人家^{八ナキ場合ニ於テハ}ニ附與スヘシ

第十條 醫師死胎檢案ノ上異狀アリト認ムルトキハ速ニ警察署又ハ分署ニ急報スヘシ

第十一條 本則第五條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第一號書式

死亡届

郡町村番地(或ハ寄留)

族籍戸主職業

本人職業^{死亡者戸主ナレバ之レヲ記セス}

既婚^{有配偶}未婚^{無配偶}

氏名

何年何ヶ月

病名

死亡ノ月日時

右ハ自分施治ノ患者ニ候處死亡候ニ付此段及御届候也

郡町村番地

主治醫 氏

名 印

年月日

何町村戸長氏名殿

明治二十六年十一月一日

明治二十一年十二月九日
明治二十一年十一月九日
正何ヶ月ト改

(解釋) 一職業ハ各本人ノ現業(官吏神官僧侶醫師學校教員生徒農商大工職養蠶裁縫織人力車

夫荷車輓等ノ類ヲ記載スヘシ)

但二業以上ヲ兼ヌルモノハ其主ナル業ヲ記入スヘシ以下之レニ做フ

一年齡十二年未滿ノモノ己婚未婚ノ別ヲ記載スルニ及ハヌ以下之レニ做フ

第二號書式

死体檢案届

郡町村番地以下第一號書式ニ做フ

氏名

何年何ヶ月

既婚^{有配偶}未婚^{無配偶}

病名及ヒ死亡ノ月日時並ニ死狀ハ勿論死ニ至ル顛末ヲ知り得ル丈ケ詳細ニ記載スヘシ

右檢案候ニ付此段及御届候也

郡町村番地

醫師 氏

名

年月日

何町村戸長氏名殿

第三號書式

死産届

郡町村番地(或ハ寄留)

何某妻或ハ何女

氏名 印

何年何ヶ月

公生(私生)男(女)

何月妊娠

何月何日死胎分娩

右及御届候也

年月日

何町村戸長氏名殿

郡町村番地
醫師 氏

名印

第四號書式

死胎檢案届

郡町村番地(或ハ寄留)

公生(私生)男(女)

何某妻或ハ何女

氏

名

何月妊娠

何月何日死胎分娩

死胎分娩ノ原因及ヒ其死胎ノ形状ヲ詳細ニ記載スヘシ

右檢案候ニ付此段及御届候也

年月日

何町村戸長何某殿

郡町村番地
醫師 氏

名印

長野縣現行令達類纂

◎職制及執務規程

○長野縣訓令第百六十二號

監獄處務細則別冊之通改定ス

明治二十六年十二月一日

長野縣知事 淺田 徳 則

(別冊)

長野縣監獄處務細則

第一章 監獄署

第一條 監獄ニ左ノ三課一所ヲ置ク

第一課

第二課

第三課

醫務所

第二條 各課所ニ長ヲ置キ其事務ヲ整理セシム

第三條 各課所ニ課僚若干名ヲ置ク

第四條 課所長事故アルトキハ上席ノ課僚其事務ヲ代理ス

第五條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌ス

一 監獄諸規程ニ關スル事項

職制及執務規程

- 公文圖書ノ編纂保存ニ關スル事項
- 統計及報告ニ關スル事項
- 署印ノ管守ニ關スル事項
- 文書ノ發送收受ニ關スル事項
- 看守以下ノ進退賞罰ニ關スル事項
- 看守以下ノ諸願届ニ關スル事項
- 署員名簿履歷簿出勤簿ニ關スル事項
- 看守精勤証書ニ關スル事項
- 看守給助例ニ關スル事項
- 看守押丁ノ採用試験ニ關スル事項
- 在監人ノ名籍身分帳及刑期ニ關スル事項
- 領置貨物ニ關スル事項
- 願訴特赦及假出獄ニ關スル事項
- 教誨及教育ニ關スル事項
- 給與ニ關スル事項
- 差入及購求ニ關スル事項
- 在監人ノ遣骸解剖ニ關スル事項
- 當宿直ニ關スル事項
- 監獄ノ構造ニ關スル事項

- 監獄費監獄建築費監獄修繕費ニ關スル事項
- 他課所ノ管掌ニ關セザル事項
- 第六條 第二課ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
 - 監獄ノ戒護ニ關スル事項
 - 在監人ノ行狀及賞罰ニ關スル事項
 - 在監人ノ書信及接見ニ關スル事項
 - 看守押丁ノ禮式姿勢服裝及訓示ニ關スル事項
- 第七條 第三課ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
 - 作業ニ關スル事項
 - 科程及工錢ニ關スル事項
 - 役業ノ指定ニ關スル事項
 - 食量ニ關スル事項
 - 器具材料製品備品消耗品其ノ他一切ノ物品保管及ヒ出納ニ關スル事項
 - 物品ノ購入販賣ニ關スル事項
 - 地所建物ニ關スル事項
- 第八條 醫務所ニ於テハ左ノ事項ヲ管掌ス
 - 在監人ノ疾病死亡調劑ニ關スル事項
 - 監獄衛生ニ關スル事項
- 第九條 到着文書ハ總テ第一課ニ於テ收受開緘シ其要旨ヲ收受件名簿(第一號書式)ニ記載シ番號

ヲ付シテ主務課所長ニ配付スヘシ但親展文書ハ直ニ名宛ニ配布スヘシ

第十條 文書ノ番號其事件ノ終結ニ至ル迄一貫シテ襲用スヘシ

第十一條 到着又書ハ其時々退廳后ニ係ルモノハ翌日ノ文書ニ併セ配付スヘシ但至急ヲ要スルモノ又ハ參署命ヲ待ツモノハ時間ニ拘ハラズ配付ヘスシ

第十二條 各課所長ニシテ文書ノ配付ヲ受ケタルトキ速ニ處分ノ手續ヲ爲スヘシ其殊ニ至急ヲ要スルモノハ時間ニ拘ハラズ回議ニ付スヘシ

第十三條 文書ノ處分案ハ一定ノ用紙ヲ用ユヘシ但シ成規定例アルモノニシテ事由ノ摘記ヲ要セサルモノハ便宜本署ノ餘白ニ處分案ヲ草スルヲ得

第十四條 回議書ニハ處分案ノ理由ヲ詳記シ參考書ヲ要スルモノハ全文又ハ要領ヲ朱記スヘシ

第十五條 回議ノ文案ハ簡易明確ヲ要ス文字ハ必ス楷書又ハ行書ヲ用ヒ塗抹改竄スヘカラス不得止字句ノ訂正ヲ要スルトキ朱抹シテ檢印スヘシ

第十六條 回議ハ課所長ヲ經テ署長ニ呈出シ他課所ニ聯係スルモノハ該課所ニ合議ノ上署長ニ呈出シ他部署ニ聯係スルモノハ署長捺印ノ上送致スルモノトス

第十七條 合評ノ回議ニ對シ所見ヲ異ニスルトキハ課所長又ハ主務者ニ面議シ尙ホ合意セサルトキハ其旨署長ニ陳述シテ指揮ヲ受ツヘシ

第十八條 急施ニ係ル回議ハ主務者自ラ携帶合議シ其裁決濟施行順序モ亦便宜ニ從フコトヲ得

第十九條 裁決濟發送ヲ要スル文書ハ主務者ニ於テ淨書校合調印シ第一課ニ送付スヘシ

第一課ニ於テ前項ノ文書ヲ受ケタルトキハ直ニ收受件名簿ニ其要領ヲ記載シ若シ署中ノ發議ニシテ付號ナキトキハ發送件名簿(第二號書式)ニ要旨番號ヲ登記シ回議書及本書ニ其記番號ヲ付

記スヘシ

縣令告示訓令等印刷ニ付スヘキモノハ主任ヨリ原書ニ活版原稿ヲ添ヘ知事官房ニ送付スヘシ

第二十條 第一課ハ日々收受發送件名簿ヲ調査シ回答若クハ指令等故ナク三日以上懸留スルトキハ主務者ニ其事件ヲ督促シ其理由ヲ得テ課長ヲ經署長ニ具申スヘシ

第二十一條 一覽ヲ要スル文書ハ第三號書式ノ用紙ヲ用井第十六條ノ順序ニ依リテ回覽スヘシ

第二十二條 完結セシ書類ハ第一課ニ送付シ第一課ハ收受發送件名簿ニ結局ノ印ヲ捺シ文書保存例ニ依リ編冊スヘシ

第二十三條 第一課ハ毎日收受發送シタル文書ノ數ヲ調査シ文書日計表(第四號書式)ヲ製シ翌日午前ニ署長ノ檢閱ニ供スヘシ

第二章 監獄 支署

第二十四條 監獄支署ニ庶務警守ノ二係及醫務所ヲ置ク

第二十五條 各係所ニ係所員ヲ置ク

第二十六條 支署長事故アルトキハ上席ノ者其事務ヲ代理ス

第二十七條 庶務係ニ於テハ第五條第七條ノ事務ヲ管掌ス

第二十八條 警守係ニ於テハ第六條ノ事務ヲ管掌ス

第二十九條 醫務所ニ於テハ第八條ノ事務ヲ管掌ス

第三十條 處務順序ハ監獄者ノ例ニ依ル但監獄署ニテ課長トアルハ支署長ニ適用ス

第一書式 收受件名簿

監獄 番號	月 日 受	何 監獄支署 ○何々ノ義ニ付照會○ 「一課長ノ印 主務課長主任ノ印	延期ノ通知アルハ此月日ヲ記ス
	月 日 迄		號「延期
來書 番號	月 日 受	何々 ○何々ノ義上申 ○	
來書 監獄 番號	月 日 受	何々何日何々ノ爲メ 何所へ下戻 ○何月何日再出ノニ 何月何日回答○ 「一課長ノ印 主務課長ノ印 主任印	
	月 日 迄	號「延期	
月 日 迄	月 日 迄		

第二書式 發送件名簿

監獄 番號	月 日 施行	何々支署 ○何々ノ義ニ付照會○
監獄 番號	月 日 施行	
監獄 番號	月 日 施行	
監獄 番號	月 日 施行	
監獄 番號	月 日 施行	
監獄 番號	月 日 施行	

職制及執務規程

第三書式 回覽

(用紙美濃)

明治 年 月 月 日 日 受 主任官姓名

何々課長○

課僕○

知事○

監獄署長○

一何々、、、、、、、、、件

一何々、、、、、、、、、件

何月何日一覽濟

第四號書式

收送受文書計算表 年月日 監獄署

處	管 外 之 部										名	一	二	三	課	務	所	通	計
	開	道	裁	警	監	警	警	公	人	雜									
省	廳	判	視	獄	視	察	署	署	民	件	發	發	發	發	發	發	發	發	發
院	府	所	廳	支	集	分	署	署	署	署	收	收	收	收	收	收	收	收	收
	縣		治	署	治	署													
			假		假														
			留		留														
			監		監														

職制及執務規程

考 備	管 內 之 部															
	監 獄 支 署		警 察 署 分 署		本 縣 各 部 課		郡 役 所		公 署		人 民		雜 件		合 計	
	發	收	發	收	發	收	發	收	發	收	發	收	發	收	發	收

○訓令第百十八號
爾今左ノ條件ハ監獄支署長直チニ決行スルコトヲ得
明治二十六年七月八日

長野縣知事 淺田 德 則

- 一 例規ニ依リ監獄經費出納ノ件
- 一 金額五十圓未満ノ工業素品購入ノ件
- 一 製造品賣却ノ件
- 一 在監人食糧雜費ノ件
- 一 豫算金額中ニ於テ備品消耗品等購入修補ノ件
但常用物品ノ外ハ其時々伺出ヘシ
- 一 金額十圓未満ノ不用物品賣却ノ件
- 一 監獄則第二十四條監獄慈惠ノ用ニ充ツル金錢物品處分ノ件(明治廿八年九月訓令第百十九號追加)
- 一 監獄支署取扱ニ屬スル縣稅雜收入ノ件(全上)

○長野縣訓令第四十五號
監獄署監獄支署ニ女監取締ノ豫備員ヲ置キ必要アル毎ニ出勤セシム
明治二十七年三月十七日
長野縣知事 淺田 德 則

○長野縣訓令第百十二號
看守長看守部長勤務法左之通相定ム
監 獄 署
監 獄 支 署

但明治二十八年七月訓令第七十八號廢止ス

明治二十九年十一月十八日

長野縣知事 高崎親章

看守長看守部長勤務法

第一章 監獄署

第一條 看守長ハ内勤外勤ノ二種ニ分ツ

第二條 内勤看守長ハ日勤トシ外勤看守長及看守部長ハ隔日勤務トス

第三條 外勤看守長ハ當番勤務ノトキハ看守以下ノ配置點檢訓授監督在監人ノ點檢宿明勤務ノト

キハ監房及衣体搜檢所ノ搜查犯則囚ノ取調ヲナシ内勤看守長ハ在監人ノ出入接見立會差入物ノ

檢査文信檢閱懲罰執行在監人諸願行狀録ノ記入等總テ内部ノコトヲ整理スヘシ

第四條 外勤看守長ハ晝間男囚工場監督所ニ在リ特ニ工場巡視ヲ勤ムヘシ

第五條 外勤看守長ハ宿明ノトキト雖正午マテ勤務スヘシ

第二章 監獄支署

第六條 看守長及看守部長ハ隔日勤務トス

第七條 看守長ハ非番ノ日ト雖トモ二時間以上出署シテ出納吏ノ事務ヲ取扱フヘシ

○長野縣訓令第八十號

監獄署

監獄支署

看守勤務法左ノ通り改正ス

明治三十年六月十日

長野縣知事

權藤貫一

看守勤務法

第一條 看守ノ勤務ヲ分チテ晝勤及晝夜勤トス

但必要アル場合ニ於テハ晝夜ニ拘ハラス勤務セシムルコトアルヘシ

第二條 晝勤ノ者ハ左ノ勤務ニ服セシム

一 工場其他ノ場所ニ於テ繼續セル一定ノ勤務

二 在監人ノ視察及檢束但其人員ハ看守一名ニ付凡五十人以下トス晝勤ノ者ニハ順次宿直セシム

第三條 晝夜勤ノ者ハ左ノ勤務ニ服セシム

一 晝間ニ在リテハ臨時ノ用務

二 夜間ニ在リテハ監房ノ視察及警備

第四條 晝勤ノ者ハ就役時限十分前ニ出署シ罷役時限十五分后ニ退署スヘシ但必要アル場合ニ於テハ還房時限迄勤務セシムルコトアルヘシ

第五條 晝夜勤ノ者ハ就役時限十分前ヲ以テ交代セシム

但シ必要アル場合ニ於テハ起床前ニ出署セシムルコトアルヘシ

第六條 晝勤ノ者ニハ三時間以内晝夜勤ノ者ニハ晝間三時間以内夜間ハ其二分ノ一以内ノ休憩ヲ與フルコトアルヘシ

晝勤ノ者ニシテ一週間以上勤務シタル者ニハ半日ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ

○長野縣訓令第七十六號

看守勤務心得別紙之通相定ム

明治二十七年四月二十八日

長野縣知事 淺田 徳 則

十四

(別紙)

看守勤務心得

- 第一條 看守ハ職務上及一身上ニ付キ常ニ左ノ事項ヲ服膺スヘシ
- 一 法律命令ヲ遵奉シ公正忠實以テ其職ニ服シ荷モ專斷等ノ所爲アルヘカラス
 - 二 上官ノ命令ニ服従シ之ニ對シ荷モ批判等ノ所爲アルヘカラス
 - 三 全僚ハ互ニ信義ヲ重シ協力補翼シ荷モ他ヲ排シ又ハ爭論等ノ所爲アルヘカラス
 - 四 職務上見聞シタル事項ハ細大トナシ上官ニ申報スヘシ
 - 五 職務上ニ關スル事項ハ他ニ告知シ又ハ新聞紙等ニ掲載セシムルコトアルヘカラス
 - 六 職務上失誤アルコトヲ悟リタルトキハ速ニ上官ニ申告シ荷モ隱蔽スル等ノコトアルヘカラス
 - 七 官署出入ノ商人ヨリ金借ヲ爲シ又ハ物品ヲ購入シテ其價ヲ怠ル等ノコトアルヘカラス
 - 八 金貸ヲ爲シテ利ヲ計リ又ハ周旋牙保等ノコトアルヘカラス
 - 九 全僚間濫リニ金品貸借等ノコトアルヘカラス
 - 十 在監人タリシ者又ハ其親屬ヨリ金品ヲ受又ハ貸借等ノコトアルヘカラス
 - 十一 職務ノ餘暇ヲ以テ學業ヲ修メ體力ヲ養フ等ノ心掛アルヘシ
 - 十二 常ニ身体衣服携帶品住宅等ヲ清潔ニシ其他攝生ニ注意スヘシ
 - 十三 常ニ節儉ヲ守リ荷モ奢侈ニ流レ華美ヲ競フ等ノコトアルヘカラス
 - 十四 常ニ交際ヲ慎ミ荷モ宴飲遊樂ニ耽ル等ノコトアルヘカラス

- 十五 届出ナクシテ住所地ヲ離レ又ハ他所ニ宿泊スヘカラス
 - 十六 外出スルトキハ行先ヲ家族ニ告ケ置クヘシ
 - 十七 住居ハ監獄署接近ノ地ニ撰定スヘシ
 - 十八 非常ノ事變又ハ災害アルトキハ速ニ出署シ警備ニ従事スヘシ
- 第二條 在監人ニ對シテハ常ニ左ノ事項ニ注意スヘシ
- 一 在監人ニ對シテハ嚴肅且方正タル模範ヲ示シ其威嚴ヲ失ヒサルヘシ
 - 二 在監人ヲ遇スルニハ寬嚴宜シキニ叶ヒ荷モ粗暴苛酷又ハ親昵等ノ所爲アルヘカラス
 - 三 在監人ニシテ暴慢橫姿ノ所爲アリト雖モ忍耐沈着ヲ旨トシ荷モ激怒威嚇ノ所爲アルヘカラス

- 四 在監人獄則ヲ犯シ又ハ命令ニ違ヒタルトキハ事ノ細大ニ係ラス看守長ニ申告シ荷モ懲戒ニ類スル所爲アルヘカラス
- 五 在監人ノ請願ハ事ノ輕重ニ係ラス之ヲ抑制スルカ如キコトアルヘカラス
- 六 在監人及其ノ親屬知友ヨリ囑托ヲ受テ其間通信ヲ爲シ物品ヲ授受シ若クハ其媒介等ノ所爲アルヘカラス
- 七 在監人ニ親屬又ハ故舊アレハ速ニ届出ヘシ
- 八 在監人ニ對シテハ指揮命令スルノ外談話スヘカラス
- 九 在監人ノ聞得ヘキ場所ニ於テハ辨論ニ注意シ荷モ檢束上又ハ行狀上ノコトニ涉ルヘカラス
- 十 在監人ノ面前ニテハ喫烟スヘカラス

職制及執務規程

十五

- 十一 在監人戒護中ハ腰ヲ掛ケ物ニ倚ル等姿勢ヲ亂スカ如キコトアルヘカラス
- 十二 在監人戒護中事故アリテ持場ヲ離レントシ補員アラサルトキハ隣場看守ニ戒護ヲ囑托スヘシ
- 十三 新入ノ在監人ハ獄則ニ慣レサレハ其遵守スヘキ事項ヲ懲罰ニ訓示スヘシ
- 十四 在監人ノ動靜ハ隱微ノ中ニ視察シ舉動怪シキモノハ輕重緩急ヲ問ハス看守長ニ申告スヘシ
- 十五 在監人ノ動靜ハ左ノ場合ニ於テ特ニ注意スルヲ要ス
 - イ 入監及出監ノ際
 - ロ 就役及罷役ノ際
 - ハ 喫飯及行園ノ際
 - ニ 着席及離席ノ際
 - ホ 着衣及脱衣ノ際
 - ヘ 起床及就寐ノ際
 - ト 入浴及濯洗ノ際
 - チ 着履及脱履ノ際
 - リ 配食及理髮ノ際
 - ヌ 護送途中
 - ル 雨具ヲ覆フル際
 - ヲ 人ニ接近スル際

十六 在監人ノ受渡ヲ爲ストキハ必ス人員ヲ點檢スヘシ

十七 在監人ニ病者アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ手當ヲ爲シ一面看守長及監獄醫ニ申告スヘシ

第三條 勤務中ハ左ノ事項ニ注意シ異常ノコトアルトキハ上官ニ申報シ一面相當ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 監房倉庫門扉其他建物ノ鎖鑰
- 二 火工場炊場浴場及燈火等ノ火ノ元
- 三 危険ナル物品及逃走ノ用ニ供スヘキ物件ノ散亂
- 四 建造物道路門塀等ノ損害
- 五 構内外掃除ノ清否
- 六 物品ノ取扱方及其損否
- 七 夜燈掃除ノ清否及燈火ノ透否

○長野縣訓令第七十九號

押丁勤務法左ノ通相定ム

明治二十七年五月二日

長野縣知事

淺田 徳則

押丁勤務法

第一條 押丁ハ日勤トス勤務時限ハ日勤看守ノ例ニ依ル

第二條 押丁ハ順次若干名宿直セシム

第三條 押丁ハ二週日勤續ニテ半日ニ週日ニテ一日ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ

職制及執務規程

○長野縣訓令第百五十八號

監獄署
監獄支署

監獄書記看守長ハ日誌ヲ備置キ監内ヲ巡視シタル時ハ其結果ヲ詳記シ監獄署長ニ報告スヘシ
監獄支署ニアツテハ常ニ支署長ニ報告シ支署長ハ監獄巡視ノ際其檢閲ニ供スヘシ
監獄書記ハ每周二回以上ヲ巡視スヘシ

明治卅年十二月廿一日

長野縣知事 權藤 貫一

○長野縣訓令第百二十六號

監獄巡視規則左ノ通り相定ム

明治廿六年八月三日

長野縣知事 淺田 徳則

監獄巡視規則

- 第一條 監獄支署ハ二回警察官署留置場ハ一回典獄ヲシテ毎年巡視セシム
- 第二條 巡視官ノ視察スヘキ概項左ノ如シ
 - 一 檢束ニ關スル事項
 - 二 感化ニ關スル事項
 - 三 賞罰ニ關スル事項
 - 四 衛生ニ關スル事項
 - 五 作業ニ關スル事項

- 六 保管金品ニ關スル事項
- 七 經費土地建物器具ニ關スル事項
- 八 文書統計記録ニ關スル事項
- 九 服裝姿勢禮式訓授ニ關スル事項
- 十 紀律施張服務ノ勤惰處務ノ整否吏員ノ品行其他法律命令實施ノ狀況等ニ關スル事項
- 第三條 警察官署ニ於テハ前條ノ各項中留置場ニ關スル事項ニ限ル
- 第四條 巡視官來署シタルトキハ直ニ司獄官ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴フルコトヲ得ヘキ旨ヲ在監人ニ通達スヘシ

○長野縣訓令第百三十四號

在監人出入取扱順序別紙ノ通相定ム

明治二十六年九月二十日

長野縣知事 淺田 徳則

(別紙)

- 在監人出入取扱順序
- 第一條 新入者アルトキハ署長一件書類ヲ精査シ收監スヘキモノト認メタルトキハ入監ノ言渡ヲ爲シ併セテ入監中遵守スヘキ要領ヲ訓示スヘシ
 - 第二條 入監ノ言渡シ終レハ左ノ手續ヲ了シ護送者ニ領收證ヲ交付スヘシ
 - 一 看守長ハ護送者立會ノ上衣体ヲ搜檢セシメ若シ疾病負傷等アレハ醫師ヲシテ診斷セシメ護送者ヨリ證明書ヲ徴スヘシ
 - 二 書記ハ護送者立會ノ上携有貨物ヲ目錄ト照合シ不足若クハ毀損等ノモノアレハ護送者ヨリ

明治三十三年訓令第三十二號ニテ第七條中改正

全ニテ第十條中改正

明治三十三年訓令第三十二號ニテ第十條中改正
全ニテ第十條中改正
明治三十三年訓令第三十二號ニテ第十條中改正

証明書ヲ徴スヘシ
 第三條 書記ハ速ニ名籍及領置貨物表ノ記入ヲ了シ看守長ハ居房ヲ定メ署長ノ檢印ヲ受クヘシ
 第四條 新入囚人ニ係ルトキハ前數條ノ手續ヲ終リ身分帳ヲ調製シタルトキハ署長刑ノ執行言渡ヲ爲スヘシ
 第五條 刑ノ執行言渡ヲ終レハ囚人身分帳ヲ關係課所係ニ送致シ回達書ニ主務ノ事項ヲ記入シ署長ノ檢印ヲ受クヘシ
 第六條 刑事被告人裁判確定シ刑ヲ執行ヲ爲ストキモ前二條ノ例ニ依ル
 第七條 出監者アルトキハ衣体ヲ搜檢シ領置貨物ヲ其表ニ照シ本人ニ交付シテ領收証ヲ徴シタル后其言渡ヲ爲シ釋放スヘシ
 第八條 囚人新入後及出監前三日間ハ習慣犯者及一ヶ月未滿ノ短期刑者ヲ除クノ外ハ必ス獨房ニ勾禁スヘシ
 第九條 囚人獨房勾禁中ハ署長看守長醫師教誨師其他職權アルモノハ毎日巡視シ特ニ改過遷善修身齊家ノ途ヲ懇諭スヘシ
 第十條 釋放スヘキ者ハ其五日前ニ於テ歸郷旅費ノ有無及時衣等ノ調査ヲザシ衣類ノ補綴若クハ新調ノコトヲ注意シ身分帳備考欄内ニ記載スヘシ
 第十一條 一日二人以上ノ釋放者アルトキハ一人毎ニ釋放時ヲ異ニスルヲ要ス
 但監視アルモノハ此限ニアラス
 第十二條 新入囚人監視アルモノハ監視ヲ受クヘキ場所ヲ定メシメ其諾否ヲ所轄役場ニ照會スヘシ

第十三條 新入囚人監視アルモノニシテ原籍未詳ナルトキハ豫メ監視ヲ受クヘキ場所ヲ定メシムルコトニ注意スヘシ
 第十四條 新入囚人身上ノ關係ハ便宜警察官署又ハ市町村役場ニ照會シテ之ヲ查明スヘシ
 第十五條 刑期六ヶ月以上及六ヶ月以下ト雖トモ特ニ警察ノ注意ヲ要スルモノト認ムルモノヲ釋放シタルトキハ全時ニ其行狀ヲ別紙様式ニ依リ居住スヘキ地ノ警察官署ニ通報スヘシ
 第十六條 在監人及別房留置人死亡シタルトキハ本籍市町村役場へ罪名刑名刑期及死亡ノ年月日時病名又ハ死因等ヲ通知シ全時ニ親屬若クハ故舊ニ於テ遺骸引取ノ有無ヲ照會スヘシ
 第十七條 前條引取人ナキ場合ニ於テハ戶籍法第二百二十九條第二項ノ規定ニ依リ速カニ監獄所在地ノ戶籍吏ニ報告スヘシ
 第十八條 死亡者ニシテ遺留貨物アルモノハ遺族ニ於テ下付申請スヘキ様居住地市町村役場へ照會スヘシ

放免囚行狀通牒

裁判所	本籍
宣告	出監后居住地
刑名刑期	氏名
附加刑	年齢

職制及執務規程

罪名	犯數	在監中ノ行狀	放免時下付金
		獄則及紀律ノ違否親族故舊ノ思念 教誨ノ感否 作業ノ勉否 改悛ノ有無 特種ノ情況	
		右明治 年 月 日肩書ノ地ニ向テ放免候條此段及通牒候也	
		縣 警 署 中 長野縣監獄署長 長野縣典獄 五十嵐 小彌太	
		○長野縣訓令第六十號 教誨規程別冊之通相定ム	
		明治廿八年五月廿八日	
		長野縣知事 淺田 徳則	

教誨規程

- 第一條 教誨ヲ分テ左ノ七種トス
- 一 個人的教誨
 - 二 罪質別教誨
 - 三 階級別教誨
 - 四 工場教誨
 - 五 總囚教誨
 - 六 官房教誨
 - 七 追吊教誨
- 第二條 個人的教誨ハ左ノ四人ニ對シ執行スルモノトス
- 一 新入居房囚
 - 一 放免居房囚
 - 一 分房獨居囚
 - 一 遭喪免役囚
 - 一 懲罰囚
- 第三條 親族故舊ヨリ信書ヲ得又ハ之ト接見シ其他起居動作勤怠等行狀ノ良否ニヨリ教誨ノ必要ヲ認メタル時ハ個人的教誨ヲナスヘシ
- 第四條 罪質別教誨ハ刑法ノ章節ニ從ヒタル區別ニ依リ執行スルモノトス
- 第五條 階級別教誨ハ左ノ區別ニ依リ執行スルモノトス
- 一 宥賞囚
 - 二 尋常囚
 - 三 受罰囚
 - 四 受罰囚ニシテ無事勘査ノ一期ヲ經過シタル時ハ尋常囚ニ編入スルコトヲ得
- 第六條 罪質別教誨ハ免役日階級別教誨ハ日曜日午後後教誨堂ニ於テ執行スルモノトス
- 第七條 工場教誨ハ休役間又ハ罷役後各工場ニ於テ執行スルモノトス
- 第八條 總囚教誨ハ大赦特赦、假出獄、賞表授與等ノ式終リタル後ニ教誨堂ニ於テ執行スルモノトス
- 第九條 監房教誨ハ病監及入房後監房ニ就キ執行スルモノトス
- 第十條 職制及執務規程

第十一條 追吊教誨ハ春秋二季皇靈祭ノ當日刑死者及死亡者ノ爲メ教誨堂ニ於テ總囚ヲ集メ追吊ノ式ヲ舉ゲ執行スルモノトス

第十二條 一般囚人ト幼年囚ト懲治人トハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ教誨ヲ執行スヘカラス

第十三條 教誨ハ平易明晰溫和懇切能ク囚人ヲシテ了解シ易カラシムルヲ要ス

第十四條

教誨ハ囚人ノ智徳ヲ養成シ以テ國家的觀念宗教的思想修身齊家的情誼ヲ成起セシムルヲ要ス

第十五條 個人的教誨ハ尤モ頻繁ニ執行スヘシ

第十六條 教誨師ハ日曜日及大祭日ニ出勤スヘシ但シ其翌日休暇ヲ與フ

第十七條 教誨師ハ一週二回以上入房後出署シ監房教誨ヲナスヘシ

第十八條 教誨日誌ハ第一號書式ニヨリ日々教誨事項ヲ登錄スヘシ

第十九條 教誨原簿ハ第二號書式ニヨリ登錄シ囚人身上ノ關係ヲ明カニスヘシ

第二十條 教誨月表ハ第三號書式ニヨリ毎月五日限リ前月分ヲ調製シ進達スヘシ

第二十一條 教誨年表ハ第四號書式ニヨリ翌年一月三十一日限リ調製進達スヘシ

(書式略之)

○長野縣訓令第百三十五號

監獄署
監獄支署

明治二十五年十月十二訓令第百七十三號監獄醫執務心得左之通改正ス

明治三十一年十二月十三日

長野縣知事 園山 勇

監獄醫執務心得

第一條 監獄醫ハ毎日監房工場炊場浴室等ヲ一回以上巡視スヘシ

第二條 巡視中疾病ニ罹ル者ト認ムルトキハ直チニ診斷相當ノ手續ヲナスヘシ

第三條 健康患者ハ毎日監房又ハ工場ニ於テ診察シ病監入療ニ係ルモノハ便宜往診スヘシ

第四條 刑事被告人囚人懲治人ノ新タニ入監シタルトキハ監獄醫ハ其既往現在ノ健否及遺傳病ノ有無ヲ聽取シ其結果ヲ體質調査簿及身分帳身上票健康欄内ヘ詳細ニ記入スヘシ

第五條 患者ニシテ危篤ナルモノハ第一號書式ニ病床日誌ヲ添附シ典獄ヘ申告スヘシ

第六條 病床日誌ハ第二號調治簿ハ第三號疾病表ハ第四號ノ書式ニ依ツテ調製スヘシ

第一號

危篤申告

入療患者
之
誰

病名	發病
	右施療中ノ處危篤ト診斷候間及申告候也
	明治 年 月 日
	監獄署長 某
	典獄

職制及執務規程

第四號		疾病表		第三號	
月	年	日	病類	刑名	刑期
月	年	日	病類	監房	
日	年	日	病類	工	
日	年	日	病類	職	
日	年	日	病類	候	
日	年	日	病類	治	
日	年	日	病類	否	
日	年	日	病類	事	
日	年	日	病類	故	

第二號		病床日誌		長野縣監獄署	
日	月	既往及現症	身長	轉歸	病監入
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td>身長</td> <td>轉歸</td> <td>病監入</td>	月	既往及現症	身長	轉歸	病監入
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td>重體 監入時</td> <td>種就 類役</td> <td>關婚 姻係</td>	月	既往及現症	重體 監入時	種就 類役	關婚 姻係
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td>圍胸 監入時</td> <td>體質</td> <td>生國</td>	月	既往及現症	圍胸 監入時	體質	生國
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td>監退 時病</td> <td></td> <td>族籍</td>	月	既往及現症	監退 時病		族籍
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>年齡</td>	月	既往及現症			年齡
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>名 姓</td>	月	既往及現症			名 姓
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>職入 業前</td>	月	既往及現症			職入 業前
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>居入 住地</td>	月	既往及現症			居入 住地
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>刑刑 期名</td>	月	既往及現症			刑刑 期名
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>罪質</td>	月	既往及現症			罪質
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>年發 月日</td>	月	既往及現症			年發 月日
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>入監 年月</td>	月	既往及現症			入監 年月
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>收監 明治</td>	月	既往及現症			收監 明治
日 <td>月</td> <td>既往及現症</td> <td></td> <td></td> <td>決行 明治</td>	月	既往及現症			決行 明治

月	月	月
日年	日年	日年
月年	月年	月年
日	日	日

○長野縣訓令第九十號

在監人行狀視察心得左ノ通改正ス

明治廿九年九月三十日

在監人行狀視察心得

第一條 在監人ノ行狀視察ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

第一項 獄則及紀律ニ關スル事項

- 一 獄則教令ノ違否
- 二 坐臥ノ正否
- 三 言語舉止ノ良否
- 四 獄内ノ規則ヲ熟知セルヤ否
- 五 所遇上ノ感情

長野縣知事

高崎親章

監獄支署

- 六 賞罰上ノ感情
- 七 有賞者優遇ニ對スル感情
- 八 官吏ノ命令ニ對シ抗辨スルコトナキヤ否
- 九 他囚ヲ凌辱シ或ハ私ニ使役セントスルコトナキヤ否
- 十 席壁ニ樂書スルコトナキヤ否
- 十一 貯水ヲ濫用スルコトナキヤ否
- 十二 常置器具ノ排置ノ整否
- 十三 私ニ物品ヲ授受貸借スルコトナキヤ否
- 十四 物品ヲ包藏スルコトナキヤ否
- 十五 許可ヲ得スシテ物品ヲ監房ニ持込ムコトナキヤ否
- 十六 他囚ヲ煽動シ或ハ惡行ヲ幫助スルコトナキヤ否
- 十七 放歌喧噪シ或ハ談話通聲スルコトナキヤ否
- 十八 濫リニ居席ヲ離レ或ハ房内ニ起歩スルコトナキヤ否
- 十九 表裏反覆ノ言行ナキヤ否
- 二十 給與品及貸與品ニ對シ苦情ヲ唱フルコトナキヤ否
- 二十一 進行中左右ヲ顧盼シ或ハ手ヲ交ユルコトナキヤ否
- 二十二 合衆スルコトナキヤ否
- 二十三 猥褻ノ所爲ナキヤ否
- 二十四 勝負ヲ爭ヒ又ハ賭博類似ノ遊戲ヲナスコトナキヤ否

二十五 反獄破獄及逃走ノ意思ナキヤ否
第二項 親族故舊ニ關スル事項

- 一 祖父母父母其他ノ親族ヲ慕フノ念アルヤ否
- 二 接見時ノ模様
- 三 發信ノ意思及ヒ受信ノ感情
- 四 親族故舊ノ訃音ニ接シタルトキノ感情
- 五 家族ノ係累ニ付懸念ナキヤ否

第三項 教誨及教育ニ關スル事項

- 一 教誨ノ感否
- 二 禮節ヲ重ニスルヤ否
- 三 人ニ誇リ又ハ讓ルノ風ナキヤ否
- 四 神佛ヲ崇敬スルノ念アルヤ否
- 五 讀書ノ種類及好否
- 六 就學囚ニ就テハ學業ノ勉否及進否
- 七 教育ノ程度及性行
- 八 改悛ノ有無
- 九 貯蓄ノ心アルヤ否
- 十 出獄后正業ニ復スルノ念アルヤ否

第四項 作業ニ關スル事項

- 一 作業ノ勉否注意ノ精粗
 - 二 科程ノ了否
 - 三 素製品及器具取扱ノ良否
 - 四 工業ノ進否及長技
 - 五 習得業アルヤ否
 - 六 課業ノ適否
 - 七 口實ヲ構ヘテ課役ヲ免レントスルコトナキヤ否
 - 八 已レノ勞ノ厭フテ他囚ヲ勞セシメントスルコトナキヤ否
 - 九 課業ノ好否
 - 十 出獄后自活ノ道ヲ得ヘキヤ否
 - 十一 指定外ノ物品ヲ製作スルコトナキヤ否
- 第五項 衛生ニ關スル事項
- 一 課業ノ身體ニ適スルヤ否
 - 二 醫療上ノ感情
 - 三 監房工場又ハ器具厠圍掃除ノ良否
 - 四 身體被服ヲ不潔ナラシムルコトナキヤ否
 - 五 監房及物品ヲ汚損シ或ハ不淨器外へ痰唾スルコトナキヤ否
 - 六 輕微ノ疾病ヲ過大ニ唱フルコトナキヤ否
 - 七 疾病ヲ忍ンテ醫療ヲ求人サルコトナキヤ否

- 八 精神上ノ疾病ナキヤ否
 - 九 傳染性ノ疾病ナキヤ否
 - 十 私ニ施藥ノ分量ヲ増減スルコトナキヤ否
 - 十一 健康ヲ害フヲ願ミスシテ私ニ飲食物ヲ食ルコトナキヤ否
 - 十二 施藥ヲ服用セサルコトナキヤ否
 - 十三 勞役ヲ免レン爲メ身體ヲ傷害スルコトナキヤ否
- 第二條 看守女監取締ノ視察シタル事項ニシテ急速ヲ要スルモノ又ハ獄則ヲ違反シタルモノト思料スルトキハ口頭或ハ第一號書式ノ用紙ニ記入シテ看守長ニ申告スヘシ
但押丁ハ所屬ノ看守ニ申告スルヲ要ス
- 第三條 受持看守及女監取締ノ視察シタル事項ニシテ前條以外ノモノハ時々第二號書式ノ用紙ニ記入シ置キ毎月三回ニ區別シ一日、十一日、二十一日ニ看守長ニ提出シ庶務看守ハ第一號書式ノ用紙ニ記入シ退署ノ際看守長ニ提出スヘシ
- 第四條 看守長ハ自ラ視察シ又ハ申告ヲ受タル事ニシテ懲罰ニ關スルモノハ懲罰表ニ其他判定ヲ要スヘキモノハ視察表ニ記入シテ署長ニ提出スヘシ
- 第五條 總テノ申告書ハ署長檢閱ノ後身分帳ニ編綴シテ行狀錄調製ノ材料トナスヘシ
- 第六條 看守長ハ第三號書式ノ勘査期原簿ヲ製シ日々監獄書記看守長監獄醫教誨師ノ會議ヲ開設シテ賞與假出獄特赦等ノ調査ヲナシ署長ノ採決ヲ請フヘシ
- 第七條 署長ハ時宜ニヨリ看守及女監取締ヲシテ前條ノ會議ニ參列セシムルコトモアルヘシ

第一號書式

(用紙半紙半折)

行狀視察報告用紙

件ノ	
明 治	
年	
月	
日	
囚 人	
號	

第二號書式

(用紙半紙半折)

職制及執務規程

明治二十九年何月何日執行視察表

第三號書式

(用紙半紙)

獄則及紀律ニ 關スル事項	親族故舊ニ關ス ル事項	教誨及教育ニ關 スル事項	作業ニ關スル事 項	衛生ニ關スル事 項	番號 氏名

明治二十九年何月何日

終了ノ期	氏名	終了ノ期	氏名
第一期	○第二課長印 竹田 松三 主任看守 長印		
第二期	○梅村 花吉		

備考 半枚ヲ一日分トス

○長野縣訓令第八十二號

監房檢査心得左ノ通相定ム

明治二十七年五月五日

監房檢査心得

第一條 監房ハ左ノ區別ニ依リ檢査スヘシ

一 囚人監ハ出房後夜勤看守退署前ニ之ヲ爲スヘシ

二 拘置監其他ハ朝飯後晝勤看守之ヲ爲スヘシ

第二條 監房ハ左ノ順序ニ依リ檢査スヘシ

一 錠 鑰

長野縣知事 淺田 徳則

職制及執務規程

- 二 格子、板壁、戸扉、窓戸、天井板及床板等ノ割レ目節穴等
- 三 疊、敷物、臥具
- 四 監房内ニアル常置器具其他ノ物件
- 第三條 検査ヲ爲スニハ左ノ注意アルヘシ
 - 一 破損ノ有無
 - 二 物件隠匿ノ有無
 - 三 逃走ヲ容易ナラシムル事跡ナキヤ否
- 第四條 監房ノ検査ハ在房者アラサルトキニ之ヲ爲スヘシ
- 第五條 検査ノ結果ハ署長ニ報告スヘシ

○長野縣訓令第百三十六號

在監人書信取扱心得左ノ通相定ム

明治二十六年九月二十日

長野縣知事

淺田 徳 則

在監人書信取扱心得

第一條 書信用紙ハ十行二十字詰ノ縦横野紙ヲ用ユヘシ

第二條 書信ヲ發送センコトヲ願出ツルモノアルトキハ其要領ヲ記シタル願書ヲ徴シ必要ト認ムルトキハ用紙ヲ與ヘ要領毎ニ別項ニ認メシムヘシ(明治廿八年十一月訓 令第九十九號追加)

第三條 書信ハ一定ノ場所ニ於テ認メシムヘシ

第四條 書信ヲ認ムルコト能ハサル者ニハ受持看守又ハ女監取締代書シテ紙尾ニ署名スヘシ(明治廿八年十一月訓 令第九十九號改正)

第五條 囚人ニハ日曜日ニ限リ書信ヲ認メシムヘシ但至急ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

第六條 在監人タリシ者ヨリ來ル書信及在監人タリシ者ニ發スル書信ハ交付又ハ發信スヘカラス

署長ニ於テ必要ト認ムル者ハ此限ニアラス

第七條 裁判官ノ檢閲ヲ了シタル信書ト雖モ害アリト認ムルモノハ交付又ハ發信スヘカラス

第八條 發信願及閱了済ノ來信ハ身分帳ニ編綴スヘシ(明治廿八年十一月訓 令第九十九號改正)

第九條 書信以外ノ文書ハ前各條ニ準シ取扱フヘシ

第十條 發信及來信ハ口座ヲ設ケ檢閱簿ヲ設クヘシ様式左ノ如シ(明治廿八年十一月訓 令第九十九號追加)

月	日	受信人(發信)	氏名	在監人	氏名

○長野縣訓令第百三十八號

差入品取扱心得左ノ通相定ム

明治廿六年九月廿日

長野縣知事

淺田 徳 則

差入品取扱心得

第一條 差入レントスル飲食物ハ部分ヲ示シ差入人ヲシテ嘗試セシムヘシ

第二條 差入食物ニシテ一食ノ量ニ過クルト認ムルトキハ適當ニ其量ヲ減セシムヘシ

職制及執務規程

第三條 差入食物ハ喫飯時ニ配與スヘシ
 第四條 差入書籍ハ三部以下ニ限ル破獄ノ具通謀ノ媒トナルヘキモノナキヤ否ヤヲ詳查スヘシ其
 二枚以上合貼シタル表紙ハ除去セシムヘシ
 第五條 差入ノ衣服臥具ハ嚴重ニ詳查シ疑ハシキモノハ解縫スヘシ
 第六條 差入ノ臥具ハ成ルヘク毛布ニ限ルコトニ注意スヘシ
 第七條 口頭ヲ以テ差入ヲ願出ツルモノアルトキハ第一號書式ノ用紙ニ錄取シ本人氏名ノ下ニ証
 印ヲ徵スヘシ(明治廿八年十一月訓令 第百號ヲ以テ改正)
 第八條 差入願及第七條ノ用紙ハ結了ノ后身分帳ニ編綴スヘシ(全上追加)
 第九條 差入願ト受付文書ノ符號ヲ用井ス第二號書式ノ差入品告知簿ニ依リ受取人氏名ノ下ニ証
 印ヲ徵シ取扱フヘシ(全上追加)

第一號書式
 差入用紙
 受取人 郡 村 番地
 何 某 差入人 何 某
 親屬故舊ノ關係
 差入品目

明治廿 年 月 日
 第二號書式
 差入品告知簿樣式

月	日	受取人氏名	摘	要	差入人氏名

○長野縣訓令第五十五號
 監獄門守心得別紙之通相定ム
 但明治十九年三月内記第二十六號監獄門守心得廢止ス
 明治二十四年四月十日
 長野縣知事 内海 忠勝

監獄門守心得
 第一條 表門ノ大扉ハ車馬物品運搬ノ場合ヲ除クノ外常ニ之ヲ閉鎖シ小扉ハ晝間之ヲ開キ夜間閉
 鎖スヘシ
 第二條 裏門ハ常ニ閉鎖シ署員通行ノ郡度開閉スヘシ

職制及執務規程

第三條 來監者アルトキハ能ク其氏名ヲ質問シ不都合ナシト認ムルニ於テハ鑑札ヲ交付シテ入門
セシメ出門ノトキ其鑑札ヲ檢收スヘシ

但官吏公吏及縣會議員代言人等ハ鑑札ヲ交付スルニ及ハス

第四條 商人等ニテ豫テ鑑札ヲ交付シ置クモノハ出入毎ニ其鑑札ヲ査閱スヘシ

第五條 物品ヲ携帶シテ入ルモノハ之ヲ取糺シ出ルモノハ出門証ヲ査閱スヘシ若シ無証又ハ不審
ト思料シタル場合ニハ看守長ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

但物品出門証ニハ書記或ハ看守長ノ認印アルモノトス

第六條 第三條第四條第五條ニ據リ質問査閲ノ場合ニ在テハ丁寧親切ヲ主トスヘシ

第七條 高等官通行ノ際ハ詰所ヲ離レ書記看守長ニハ詰所内ニ於テ禮式ヲ爲スヘシ

第八條 監獄構内ニ事變アルトキ又ハ事變アリト思料シタルトキハ署員ヲ除クノ外都テ出入ヲ禁
シ看守長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 門守所ニハ帳簿ヲ製シ置キ第三條ニ於テ入門ヲ許シタル者ノ氏名來由等ヲ簡明ニ記載シ
日々看守長ノ檢閲ヲ受クヘシ

○長野縣訓令第百二十三號

囚人身分帳調製及取扱心得

明治二十七年七月十七日

長野縣知事 淺田 徳則

(別紙)

第一條 囚人身分帳調製及取扱心得
囚人身分帳ハ刑ノ執行ヲ言渡ス前ニ調製スヘシ

第二條 刑期ヲ計算スルハ必ス執行命令ト宣告書トヲ照合シ特ニ起算點ニ注意スルヲ要ス

第三條 身分帳ヲ調製シタルトキハ全時ニ放免履歴簿ニ記入シ相照合シテ調査檢印スヘシ

第四條 刑期一年以上ノ囚人ト雖トモ習慣犯ニシテ一度身上票ノ取調アルモノハ便宜省畧スルコ
トヲ得

第五條 刑期一年以下ノ囚人ノ身上票ハ必要ヲ認ムルモノハ外省略スルコトヲ得

第六條 刑期六ヶ月以下ノ囚人ニハ薄紙(用紙適宜)ノ表紙ヲ付シタル身分帳ヲ製シ用紙ハ必要ア
ル毎ニ編綴スヘシ

行狀表ハ放免前ニ報告スル行狀月報ヲ代用スヘシ

第七條 監視執行地ハ刑期一ケ年以下ノ者ハ即時其他ハ放免前六ヶ月以上一ケ年以内ニ取調スヘ
シ

第八條 身上票ハ決行后三十日以内ニ其取調方ヲ照會スヘシ

第九條 作業表ハ左ノ手續ニ依リ各主任ニ於テ其時々記入スヘシ

一 作業名及工場名ハ轉役ノ時々轉役回議簿ニ依リ

二 等級ハ黜陟ノ時々黜陟簿ニ依リ

三 監房名ハ轉房ノ時々轉房簿ニ依リ

第十條 行狀錄登載ノ材料ニ供スル書類ニシテ登載ヲ了シタルトキハ身分帳ヨリ離去シ別ニ編冊
保存スヘシ

第十二條 出監者ノ身分帳ヲ編冊スルトキハ規定ノ用紙及身上ノ關係後日必要ナル外ハ之ヲ離去
シ別ニ編冊保存スヘシ

第四五六條
ノ一年及六
ケ月ハ三十
ケ月内務
省訓令第十
号ニ依リ改
正
明治廿九年
訓令第八十
五号ヲ以テ
第七條第十
條以下加除
改正

第十三條 身分帳ハ毎月一回囚名目錄ト照合スヘシ
第十四條 身分帳ノ取扱ハ鄭重ヲ旨トシ散亂セサル様注意スヘシ

◎身 上

○長野縣告示第六號

看守採用規則細則別紙之通相定ム

明治廿七年一月十八日

長野縣知事

淺田 徳 則

監 獄 署
監 獄 支 署

看守採用規則細則

第一條 看守志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ長野縣監獄署ヘ差出スヘシ

但シ便宜監獄支署ニ差出スコトヲ得

第二條 試験ノ期日及場所ハ豫メ通知スヘシ當日出頭セサルモノハ無効トス

第三條 一度試験ヲ受ケ不合格ノ者ハ三ヶ月ヲ經過セサルハ再ヒ志願スルコトヲ得ス

第四條 試験ハ体格ヲ先ニシ學術ヲ后ニス体格試験ニ不合格ナル者ハ學術試験ヲ行ハス

第五條 試験ノ成績ハ通報スヘシ

第六條 試験ニ合格シタル者轉任シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第一號書式

看守志願書

府縣郡市町村番地士族平民戸主又ハ子弟

何 某

年 號 月 日 生

(舊姓又ハ名)

看守志願ニ付御試験ノ上御採用被成下度此段奉願候也

年 月 日 右 何 某 印

長野縣知事 何 某 殿

第二號書式

履 歷 書

族 籍

何 某

一 何年何月何日府縣郡市町村學校ニ入校

一 何年何月何日何學校何々卒業

一 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何某ニ就キ何々ヲ修ム

一 何年何月何日

一 任何々

一 何年何月何日

一 叙何々

一 何年何月何日

一 何々ヲ命ス

一 何年何月何日

一 免本官

省 廳 府 縣
全 上 全 上 全 上 全 上

何年何月何日 全 上
何々ニ付賞罰 全 上
何年何月何日 右 全 上
何々 何 某 印

年 月 日

○長野縣告示第六號

押丁採用規則左ノ通相定ム

明治二十六年一月十八日

長野縣知事 淺 田 徳 則

押丁採用規則

第一條 押丁ハ志願ノ者ヲ以テ試験ノ上採用スヘシ

第二條 押丁志願ハ年齢十八年以上四十年未満ニシテ左ノ各項ニ抵触セサルモノタルヘシ

一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附

セラレタル者及ヒ輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期五年ヲ經過セサル者

但シ舊法ニ依リ施体ノ刑ニ處セラレタル者亦同シ

二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三 身分不相應ノ負債アル者若クハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前

身分限リノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

四 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

身 上

第三條 押丁体格ノ試験ハ左ノ各項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
- 四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス
- 胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關ノ機能減衰ノ者亦同シ

服裝又ハ運動ニ不便ナル者
贅生物畸形等容貌醜惡ナル者

- 二 身幹五尺以上ニシテ胸圍身幹ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者
- 三 而眠共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
- 四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
- 五 言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
- 六 精神完全ナル者即チ精神病及ヒ神經病(癡癲病癲狂痴狀及舞踏病癲癩)等ノ病ナキ者

第四條 押丁技藝ノ試験ハ左ノ諸項ニ依リ筆答ヲ以テ之ヲ行フ

- 一 刑法刑事訴訟法監獄則等ノ大要
- 二 普通往復文
- 三 算術加減乘除
- 四 筆蹟楷行書

第五條 押丁ノ試験ハ監獄書記看守長立會看守教習所教官之ヲ行フ

第六條 拜丁志願者ハ別紙書式ニ準シ願書ニ履歷書誓約書及ヒ身元引受書證ヲ添ヘ長野縣監獄署

へ差出へシ

(別紙) 書式 (用紙半紙)

押丁志願書

何府縣何國何市郡區何町村何番地士族平民

何某男又戶主

何某

年號月日生

何年何ヶ月

(舊姓又ハ名)

何某印

長野縣知事 何某殿

(用紙同上)

履歷書

何府縣士族平民

何某

年號月日

押丁志願ニ付御試験ノ上御採用被成下度此段奉願候也

年月日

一 何年何月何日何府縣何市郡區何町村學校ニ入校

身上

四十七

- 一 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何某ニ就キ何々學ヲ修ム
- 何年何月何日
- 何々申付候事
- 何年何月何日
- 任何々
- 月俸何圓
- 何年何月何日
- 何々ヲ命ス
- 何年何月何日
- 叙何々
- 何年何月何日
- 免本官
- 何年何月何日
- 何々ニ付賞罰
- 右之通候也

年月日 誓約書

(用紙同上)

肩書前例ニ同シ

右 何 某

今般押丁志願仕御採用相成候上ハ左ノ諸項確守可致候

- 一 職務上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行スヘキハ勿論上官ノ命令ヲ遵守シ在盛ノ囑托ヲ受ケ他人ニ通信シ物件ヲ贈答シ又ハ媒介等ヲナサ、ル事
 - 一 滿二ヶ年内ニ一身ノ故ヲ以テ辭職願等致サ、ル事
 - 一 自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ監獄ノ体面ヲ汚スカ如キ事致サ、ル事
- 右誓約候處相違無之候也

年月日

長野縣知事 何 某 殿

(用紙同上)

身元引受証書

肩書前例ニ同シ

何 某

右之者今般本縣押丁志願仕御採用相成候上ハ萬一不都合有之辨償等可致ハ勿論總テ本人一身上ニ關スル儀ハ何事ニ限ラス私ニ於テ引受ケ可申候依テ身元引受証書如斯候也

身元引受人

長野縣何那何町村何番地士族平民

年月日

何 某 印

身上

長野縣知事 何某 殿

○長野縣訓令第百三十五號
豫備後備ノ軍籍ニ在ル巡查看守ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ其間辭令ヲ用
非ス休職シタルモノト心得ヘシ

長野縣知事 淺田 德則

○長野縣訓令第百三十八號

看守身上願届手續左ノ通相定ム

但明治二十五年四月訓令第五十號ハ廢止ス

明治三十一年十二月十六日

長野縣知事 圓山 勇

看守身上願届手續

- 第一條 疾病ニテ出署セサルトキハ出務時間限前ニ届出引續キ翌日出署スルコト能ハサル者ハ醫
師ノ診斷書ヲ添へ出務時限前ニ更ニ届出ツヘシ
- 第二條 出署中疾病ニ罹リ退署セントスル者ハ看守長ニ申出看守長ハ病狀ノ如何ニ依リ監獄醫ヲ
シテ診察セシメ之レカ許否ヲ爲スヘシ引續キ翌日出署セサル者亦前條ニ同シ
- 第三條 疾病ニ罹リ轉地療養セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ願出ツヘシ
- 第四條 病氣引籠中ハ外出スルヲ得ス但療養其他ノ必要ニ依リ外出ヲ要スルトキハ醫師ノ診斷書
添へ願出ツヘシ
- 第五條 病氣引籠中ハ七日毎ニ診斷書ヲ添へ届出ツヘシ
- 第六條 父母ノ病氣看護ノ爲メ引籠リ又ハ歸省セントスル時ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ願出ツヘシ

劇ノ際診斷書ヲ添ユル能ハサルトキハ願書ニ理由ヲ記シ歸着ノ上送致スヘシ

第七條 歸者又ハ旅行中限内歸任スル能ハサルトキハ病氣ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町村長又警察

署長ノ証明書ヲ添へ届出ツヘシ

第八條 父母ノ祭日又ハ親族ノ喪ニ丁リ不參スルトキハ其旨届出ツヘシ

第九條 父母ノ忌中又ハ年回ニ丁リ賜暇參セントスルトキハ願出ツヘシ

第十條 勤務地ヲ離ル、時ハ願出ツヘシ若シ宿泊ヲ要スルトキハ願出ツヘシ

第十一條 前數條ノ外事故ニヨリテ出署セサルトキハ其理由ヲ詳記シ願出ツヘシ

第十二條 此手續ハ女監取締押丁ニモ適用ス

○長野縣訓令第百二十號

監獄署
監獄支署

看守實務成績考查表別紙ノ通り相定ム

長野縣知事 權藤 貫一

明治三十年十月十二日

自明治何年何月 至明治何年何月 看守實務成績考查表

拜命及黜 陟精勤証 書付與年 月日教習	明治何年何月何日 明治何年何月何日 明治何年何月何日 明治何年何月何日	拜命月俸何圓給與 教習生被命 科程卒業其成績左ノ如シ 平均点數何点最多点數何科何点最低何科何点 級俸ニ昇ル	族籍 身分 氏名 年齢	原籍族籍身分 氏名 生年月
------------------------------	--	---	----------------------	---------------------

ノ期間及 成績	明治何年何月何日精勤証書付與セラレ 明治何年何月何日何級俸ニ昇リ看守部長被命			
姿勢禮式服装其他 紀律ニ關スル事項	職務執行ノ當否勤務ノ勉否書類報告ノ整否品行ノ正否功過及賞罰	一 姿勢禮式服装ノ良否 一 訓役命令ノ遵否 一 紀律ノ遵否	一 遇囚ノ寬嚴 一 戒護上ノ注意 一 作業上ノ注意 一 物品保管上ノ注意 一 勤務ノ勉否 一 奉職ノ念厚キヤ否 一 病氣其他欠勤ノ日數	一 書類ノ整否 一 報告ノ整否 一 科程調査ノ精粗 一 報告文書言辭ノ巧拙煩簡
右ニ記載セルモノハ本欄ニ記入スヘキ事項ノ標準ナリ他ハ之ニ倣フテ記入スルヲ要ス以下全シ				一 素行ノ修否 一 家族ノ和熟セルヤ否 一 貸借ノ關係 一 賞罰 一 特殊ノ功勞 一 過誤失行
備考	本欄ハ所長ノ學術技藝性質僻所等身上諸般ニ關スル重要ノ事項ヲ記入スヘシ			

取扱劑

一本表ハ第二課長監獄支署長之ヲ管理シ自ラ視察シ又看守長看守部長ヨリ報告ヲ受ケタル事項ヲ時々記入シ毎年二回(一月七月)監獄署長ニ提出スヘシ
一 本人轉署シタル時ハ甲署ヨリ乙署ヘ轉送スヘシ

○長野縣訓令第七十七號

看守合宿規則左ノ通相定ム

明治二十七年四月二十八日

長野縣知事 淺田 德則

看守合宿規則

- 第一條 看守ニシテ勤務地ニ住宅アラサルモノハ合宿ニ寄宿セシム
- 第二條 勤務地ニ親戚アルモノハ署長ノ許可ヲ得テ同居スルコトヲ得
- 第三條 寄宿人満室ノトキハ署長ノ許可ヲ得テ下宿スルコトヲ得
- 第四條 寄宿人疾病ニ罹リタルトキハ一時退宿ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 看守ヲ免セラレタルモノハ直ニ退宿セシム
- 第六條 合宿ニ一人又ハ二人ノ宿長ヲ置キ看守中ヨリ署長之ヲ命ス
- 第七條 宿長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 合宿及寄宿人ノ取締
 - 二 寄宿人ニ關スル諸願届
 - 三 寄宿人ノ配置
 - 四 合宿日誌

第八條 寄宿中ヨリ順次當直一名ヲ置キ室内ノ取締ニ充ツ

- 第九條 外出セントスルトキハ行先キ及歸宿時限ヲ當直ニ届ケ出ツヘシ歸宿シタルトキ亦同シ
- 第十條 寄宿者ハ常ニ監獄ノ警戒ニ注意シ勤務中ノ心掛アルヘシ
- 第十一條 在宿中ハ謹直靜肅ヲ旨トシ左ノ所爲アルヲ禁ス
 - 一 猥リニ他室ニ往來スルコト
 - 二 放歌高聲ヲ爲スコト
 - 三 猥褻ノ雜話ヲ爲スコト
 - 四 同僚會宴ヲ爲スコト
 - 五 外人ヲ宿泊セシムルコト
 - 六 宿長ノ許可ヲ得ズ外人ヲ室内ニ入ルヘコト
 - 七 猥リニ他人ノ衣類物品ヲ使用スルコト
 - 八 粗暴輕薄ノ行爲アルコト
- 第十二條 月俸ヲ受取りタルトキハ直ニ食料ヲ支拂ヒ証書ハ宿長ヲ經テ第二課長(支署ハ署長)ノ檢閱ニ供スヘシ
 - 但轉免又ハ退職ノトキハ其時々支拂フヘシ
- 第十三條 看守長看守部長ハ合宿内ノ監督ヲナスモノトス
- 第十四條 歸宿時限ハ午后十一時トス
 - 但教習中ノモノハ退署時間後三時間トス

◎給 與

○長野縣達文第十二號

警 察 本 部
 警 察 分 署
 監 獄 署
 監 獄 所
 郡 役 所

巡查看守給助例施行順序別紙ノ通相定メ明治二十年四月一日ヨリ施行ス
 明治二十年三月二十五日
 長野縣知事 木梨精一郎

(別紙)

巡查看守給助例施行順序

- 第一條 本例ニ據リ給助ヲ出願スルモノハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 一 年金ヲ受クヘキ者(退職及扶傷者)ハ別紙第一號書式ノ願書ニ本籍區長戸長ノ與印ヲ受ケ其他管ノモノハ本管廳ヲ經テ當廳ニ出願スヘシ
 - 二 一時給助金ヲ受クルモノ(祖父母父母兄弟姉妹並孤兒)ハ別紙第三號書式ノ願書ニ親族二名(親族ナキハ其事由テ記スヘシ)ノ連署ヲ以テ其區長戸長ノ與印ヲ受ケ其他管ノモノハ本管廳ヲ經テ當廳ヘ出願スヘシ
- 三 療治料ヲ請求スルモノハ月末毎ニ其日數ト金額トヲ請求書ニ詳記シ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ

課署長ヲ經テ看守ハ(第二部)巡查ハ警察本部へ差出スヘシ

第二條 本例ニ依リ給助スル金額左ノ如シ

一本例第三條第一ノ場合ハ一時金二十五圓ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金五圓ヲ増給ス

第二ノ場合ハ年金三十圓ヲ給シ滿十一年以上ハ一年毎ニ金一圓ヲ増給ス

二本例第四條第一ノ場合ハ年金四十圓第二ノ場合ハ年金三十圓ヲ給ス

三本例第五條第一ノ場合ハ年金三十圓第二三ノ場合ハ一時金百圓ヲ給ス

四本例第六條ノ場合ハ一日金一圓以下ヲ給ス

五本例第七條第一ノ場合ハ一時金十五圓ヲ給シ滿一年以上一年毎ニ金五圓ヲ増給ス第二ノ場合

ハ第一ノ場合ノ外一時金百圓ヲ給ス

第三條 年金ハ退職死亡傷痕ノ翌月ヨリ支給シ其給與ヲ止ムルトキハ日割支給ス

第四條 本例ニ依リ年金ヲ受クヘキモノニハ第五號書式ノ證書ヲ附與スヘシ

第五條 年金ハ年兩度三月ニ縣下ハ所在ノ郡役所其地ハ本人所在ノ管廳ニ於テ半額宛テ下附スル

モノトス但受給者ハ第六號書式金額領收証ニ所在郡長戸長ノ與印ヲ受ケ証票ヲ添ヘ差出スヘシ

尤モ代理人ヲ差出ストキハ委任狀ヲ持參セシム

第六條 年金ヲ受クルモノ本例第八條第九條ノ各項ニ該ルカ又ハ轉籍死亡再縁等戸籍上異動アル

トキハ所在郡區長戸長ノ與印ヲ受ケ他管ノモノハ本管廳ヲ經テ速ニ當廳ニ届出ヘシ

但本例第八條第一項ニ該ルカ若クハ死亡再縁等ニ係リ給助ヲ受クルノ權利消滅シタルトキハ

該届書ニ年金證票ヲ添ヘ之ヲ返納スヘシ

第七條 職務ノ爲メ負傷シタル者及負傷後若クハ傳染病ニ罹リ死亡シタルモノハ之レヲ証明スル

爲メ公立病院長又ハ開業醫ノ診斷書ヲ添フヘシ負傷ニ原因シ他府縣ニ於テ死亡ニ係ルモノハ或ハ孤兒滿二十年以上ニシテ廢篤疾者ノ証明又同シ

第一號 (用紙美濃紙)

退職給助願書

私儀滿何年間勤續(或ハ今般負傷候處何等傷ニ策定相成)候ニ付テハ相當ノ給助金下賜相成度(或ハ別紙診斷書相添ヘ)此段奉願候也

何縣何郡何町何番地族籍

元巡查看守

何 某印

何年何月生

年月日

長野縣知事何 某殿

右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

何町戸長

何 某印

何區長

何 某印

年月日

第二號 (用紙美濃)

遺孀給助願書

私(夫又ハ孤兒)何某何々ノ爲メ何年何月何日死没候ニ就テハ相當ノ給助金下賜相成度別紙死亡

給助

診斷書相添此段奉願候也

年月日

何府何郡何町何番地族籍

右何某_妻孤兒

何

某印

何年何月生

全族籍

親族何

某印

全何

某印

長野縣知事何 某殿

右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

何町戸長

年月日

何 某印

何郡長

何 某印

第三號 (用紙美濃紙)

死亡給助願

今般_{巡査}守何某職務ノ爲メ(或ハ負傷后)何年何月何日死亡候處私共從來死者ニ因リ生計相營ニ罷在候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以テ此段奉願候

也

何府何郡何町何番地族籍

故_{巡査}守何某_祖父母又ハ_{兄弟}姉妹

年月日

何 某印

全族籍

親族何

某印

全何

某印

長野縣知事何 某殿

右當郡内本籍ノモノニシテ巡査看守給助例第八條第九條ニ該ラサルモノ也

何町戸長

年月日

何 某印

何郡長

何 某印

第二號第三號戸籍寫書式

(用紙美濃紙)

某_府華士族平民

戸主又ハ何某二三男

何年月日相續或ハ別居_{養子}

何 某

給助

五十九

五十八

誕生年月日 年號何年何月何日生
 本籍住所 何縣何郡何町何番地或ハ何某方
 居留住所 全
 父 母 某年號何年何月何日生
 養父 母 全
 祖父母 全
 妻 某 何府縣何郡區何町村族籍何某何女何年何月何日
 入籍年號何年何月何日生 全 婚姻
 嗣 子 某年號何月何日生
 次 女 某全
 兄弟 某全
 姊妹 某全
 右當郡區內戶籍簿ノ通相違無之候也
 年月日 何町戶長 何 某印
 何郡長 何 某印
 廢篤疾給助願 (用紙美濃紙)

明治 年 月 ヲリ御給助相受ク罷在候處本月ヲ以テ滿二十年ニ相成候得共從來廢(篤)疾ニ有之
 候間猶相當ノ御給助被下度別紙醫員診斷書相添此段奉願候也
 年月日 何縣何郡何町何番地族籍 故遺何某(長男) 何 某印
 全 族 籍 何 某印
 全 親 族 何 某印
 全 何 某印
 何町戶長 何 某印
 何郡長 何 某印
 右當郡區內本籍ノ者ニ相違候無也 長野縣知事何 某殿
 第五號
 給 第 何府縣族籍 何 何年何月生
 給 助 六十一

助何

何府縣族籍 何 某妻(長男及ハ) 某

之號

何年何月生

証

本縣(巡查)滿何年勤績(本縣巡查看守奉職中爲職務負傷又ハ故本縣巡查看守何某爲職務死亡ニ付)年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ附與ス

縣印

長

野

縣

給第

何府縣族籍 何 某 何年何月生

助何

証書ハ買賣釀質入

本縣(巡查)滿何年勤績(本縣巡查看守奉職中爲職務負傷又ハ故本縣巡查看守何某爲職務死亡ニ付)年金何圓ヲ給與

何年何月生

何府縣族籍故何某妻(長男及ハ) 某

之証號

ス依テ此證ヲ附與ス

年月日

長野縣知事位勳何某印

長

野

縣

第六號 (用紙美濃紙)

何給助金領收証

本年下半年分何給助何圓御下附相成正ニ領收仕候也

年月日

何府縣何村何番地族籍

某印

元巡查 何 或ハ故巡查看守 何某寡孀孤兒 何

某印

長野縣知事何 某殿 右ハ現今當郡内本籍(或ハ寄留籍)居住ノモノニ相違無之候也

何村戸長

何 某印

年月日

給助

何部長

何 某印

○長野縣訓令第百八號
押丁日給左ノ通改正ス

長野縣知事

權 藤 貫 一

明治三十一年十月十一日

一等 日給金二十八錢

二等 日給金二十六錢

三等 日給金二十四錢

四等 日給金二十二錢

○長野縣達文第六十三號

警察官吏
司獄官吏

在職中死亡セシ者等ノ吊慰法適宜設定スヘシ

長野縣知事

木梨精一郎

明治二十二年十月二十五日

◎休 暇

○長野縣職第百二十一號

明治十六年八月職第九十七號達看守押丁賜暇規則相廢シ更ニ別紙ノ通看守慰勞休暇規則相定候條
此旨相達候事

但皆勤日數、本年一月一日ヨリ起算スル義ト心得ヘシ

長野縣令

木梨精一郎

明治十八年九月三十日

(別紙)

第一條 看守皆勤ノ者ニハ慰勞トシテ左ノ割合ニ據リ休暇ヲ附與ス

一ヶ年皆勤ノ者 三週間

半ヶ年皆勤ノ者 一週間

前項ノ外五ヶ年以上皆勤ノ者ニハ一週間十ヶ年以上皆勤ノ者ニハ三週間特ニ休暇ヲ與フ

(明治二十八年二月訓令第十三號追加)

第二條 前條一ヶ年ト稱スルハ三百六十五日半ヶ年ト稱スルハ百八十三日トス (明治十八年十月職第百一號ヲ以テ改正)

第三條 皆勤日數ヲ計算スルニ新拜命ノ者ハ其當日ヨリ起算シ關勤ノ者ハ其期限ヲ中斷シ更ニ出勤ノ日ヨリ起算ス

第四條 非番父母祭日職務上負傷者ノ關勤等ハ關勤日數ニ算入セス (明治十八年十月職第百三十一號ヲ以テ改正)

第五條 休暇ハ數年ヲ通算シテ一時ニ附與スルコトヲ得ス (明治十八年十月職第百二十七號ヲ以テ改正)

第六條 前數條ノ規定ニ依リ休暇ノ資格ヲ得タルモノハ其証ヲ受テ休暇セントスルトキハ其証ヲ呈出シテ許可ヲ受クヘシ (明治二十九年四月三十日訓令第四十八號ヲ以テ改正)

休 暇

第七條 休暇ヲ附與シタルトキト雖トモ公務ノ都合ニヨリ停止スルコトアルヘシ(明治十八年十月職
第百二十七號ヲ以

第八條 休暇中奉職ノ地ヲ離レ宿泊スルトキハ其旨奉職ノ署ヘ届ケ置クヘシ

休 暇 届

某 儀

明治何年何月何日ヨリ何月何日迄何ケ年間皆勤仕候ニ付規則ノ通何月何日ヨリ何週間休暇仕候間
此段及御届候也

明治 年 月 日

看守 何 某

典 獄 何 某 殿

○長野縣職第百二十二號

職第百二十一號ヲ以テ看守慰勞休暇規則相達候處押丁モ該規則ニ準據休暇付與可致此旨相達候

事

明治十八年九月三十日

長野縣令 木梨精一郎

○長野縣訓令第百二十八號

女監取締ニハ看守ニ準シ慰勞休暇ヲ與フ

明治二十六年八月十五日

長野縣知事 淺田 徳 則

○長野縣訓令第百二十九號

監 獄 署
監 獄 支 署

看守訓授講習規則左ノ通改正ス

但明治十九年十月達文第十四號及同二十五年九月訓令第百二十七號明治二十九年十一月訓令第百九號相

廢ス

明治三十一年五月二十日

長野縣知事 權 藤 貫 一

看守訓授講習規則

第一條 看守点檢ノ際看守長ハ其職務ニ關スル必要ナル事項ヲ訓授ス其概目左ノ如シ

- 一 檢束戒護ニ關スル心得
- 一 囚人懲治人別房留置者處遇ニ關スル心得
- 一 刑事被告人處遇ニ關スル心得
- 一 服裝及姿勢禮式ニ關スル心得
- 一 帶劔ニ關スル心得
- 一 立番ニ關スル心得
- 一 巡警ニ關スル心得
- 一 門守心得
- 一 交替時ノ心得
- 一 行狀視察ニ關スル心得
- 一 作業ノ督勵ニ關スル心得
- 一 非常變災時ノ心得
- 一 反徒逃走時ノ心得

休 暇

- 燈火其他火器取扱ノ心得
- 教誨時ノ心得
- 常置器具工業器械其他物品保管ニ關スル心得
- 接見時ノ心得
- 護送中ノ心得
- 在監人疾病死亡時ノ心得
- 傳染病者取扱ノ心得
- 在監人身体衣服等搜檢ニ關スル心得
- 監房ノ檢査ニ關スル心得
- 在監人ノ理髮及入浴ニ關スル心得
- 在監人願訴ニ關スル心得
- 在監人ノ書類書信ニ關スル心得
- 監房閉閉ノ心得
- 物品受渡ノ心得
- 食物及給與品貸與品配與ニ關スル心得
- 諸報告及記録ニ關スル心得
- 外人ニ對スル注意事項
- 用語上ノ注意
- 監獄ニ關スル法律命令ノ大要

第二條 看守長ハ別紙様式ノ点檢訓授表ヲ製シ署長(支署ニ在テハ支署長)ノ檢閱ニ供ス可シ

第三條 署長(支署ニ在テハ支署長)監獄書記及看守長ハ訓授セントスル事項アルトキハ点檢訓授表ニ要旨ヲ詳記シ自ラ訓授シ又ハ當番看守長ニ移スコトヲ得

第四條 訓授スヘキ事項ニシテ例規ニ關スルモノハ豫メ点檢訓授表ニ要旨ヲ記載シ監獄書記看守長ニ合議ノ上署長(支署ニ在テハ支署長)ノ決定ヲ受クヘシ

但時宜ニ由リ監獄醫及教誨師ニ合議スル事アルヘシ

第五條 便宜期日ヲ定メ看守ヲ召集シ學術實務体操武術ノ練習ヲナサシム可シ

但方法細目ハ署長之ヲ定ム

第六條 前條ノ場合ニ於テ署長(支署ニ在テハ支署長)監獄書記看守長ハ特ニ訓授ヲナスコトアルヘシ

第七條 此規則ハ女監取締及押丁ニモ準用ス

看守押丁点檢訓授表

長署		旨要ノ授訓	
点檢人員	者議合	夜勤人員	者議發
	者議發		者議發
押丁人員	者議合	押丁人員	者議發
	者議發		者議發

休暇

○長野縣訓令第四號

監獄署
監獄支署

看守教習規則細則左之通り相定ム

但明治二十五年(六)訓令第七十八號廢止ス

明治三十二年一月十日

長野縣知事 園山 勇

看守教習規則細則

- 第一條 看守教習所ヲ監獄署ニ置ク
- 第二條 看守教習規則第三條ニ掲クル職員ノ外ニ助教若干名ヲ置キ看守ニシテ學識アリ且ツ實務ニ熟達セルモノ及特殊ノ技能アルモノヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 監獄衛生及患者取扱ニ關スル事項ノ教授ハ監獄醫ヲシテ擔任セシム
- 第四條 教習署長ハ監獄署長ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ整理ス
- 第五條 教官ハ教授ヲ掌リ助教ハ教官ノ補助トシテ實習ノ教練ヲ掌ルモノトス
- 第五條 新ニ採用シタル看守ハ三ヶ月間左ノ科目ニヨリ教習スベシ
 - 一 監獄則及同施行細則
 - 一 看守及監獄備人分掌例
 - 一 刑法及刑事訴訟法ノ大要
 - 一 官吏服務規律
 - 一 監獄ニ關スル諸法律ノ大要

一 戒護檢束ノ心得

一 在監人所遇ノ心得

一 在監人行狀勘査心得

一 作業ニ關スル心得

一 監獄衛生及患者取扱方ニ關スル心得

一 姿勢禮式服裝其他規律ニ關スル心得

一 實習 體操 禮式 戒具使用法 消防演習 武術 記帳 報告 檢査 人相 職令

第六條 新ニ採用シタル看守ニシテ看守教習規則第一條但書ニヨリ教習ノ一部ヲ省略シ又ハ期間ヲ短縮スルモノアルトキハ教習所長ハ意見ヲ具シ監獄署長ノ決定ヲ受クヘシ

第七條 教習中ノ看守ハ就役時ニ出省シ罷役時ニ退署スルモノトス

但實務練習ノマメ臨時出署セシムルコトアルヘシ

第八條 教習課業時限ハ監獄署長之ヲ定ム

第九條 實務練習ハ教官助教及當直看守長ノ指導ニヨリ若シクハ前任看守ノ部伍ニ加ヘテ行フモノトス

第十條 試験ハ臨時卒業ノ二トシ臨時試験ハ學期ノ半ニ卒業試験ハ學期ノ終ニ之ヲ行ヒ其成績ヲ

監獄署長ニ報告スヘシ

卒業試験ニ及第シタルモノニハ其證書ヲ付與ス卒業試験ニ落第シタルモノハ相當ノ期間復習セ

シメ再ヒ試験ヲ行フ其修業ノ見込ナキモノハ職務ヲ免ス

第十一條 試験点数ハ一科定点点百トシ各科評点平均六十点以上ヲ及第トス

休 暇

七十一

第十二條 教習中ノ看守ハ左ノ心得アルヲ要ス

- 一 教習中ハ教官及助教ノ揮指命令ニ違ヒ恭敬從順ヲ專トスヘシ
- 一 教場ニアツテハ靜肅ヲ旨トシ荷モ喧噪ノ所爲アルヘカラス
- 一 教官及助教ノ着席及退場ノ節ハ敬禮ヲナスヘシ
- 一 教官及助教ニ對シ質問應答セントスルトキハ起立スヘシ

◎点 檢

○長野縣訓令第六號

看守点檢法別紙ノ通改正ス

明治廿九年一月廿二日

長野縣知事

淺田 徳 則

監 獄 署
監 獄 支 署

看守点檢規則

第一條 看守ノ姿勢ヲ整肅ナラシメ及官給品保存ノ適否ヲ檢査スルタメ出勤及退署ノ時点檢ヲ行フモノトス

第二條 点檢ハ看守長之ヲ行フ若シ事故アルトキハ看守部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條 一定ノ時限到レハ看守ハ豫定ノ場所ニ參集シ看守長ハ左ノ順序ニ依リ號令ヲ下スモノトス

- 一 集ル
此令ニテ看守長ヲ去ル大凡四歩ノ地ニ立テテ正面シ軀幹ノ高キニ從ヒ順次ニ列ニ整頓スヘシ
- 二 氣ヲ付ケ
此令ニテ兩踵ヲ一線上ニ置キ足尖ヲ大凡四十五度ノ角ニ開キ兩膝ヲ伸ハシ體ノ上部ヲ腰ノ上ニ据ヘ腹部ヲ突出スルコトナクシテ胸ヲ張り兩肩ヲ水平ニシテ體ヲ眞直ニ保チ體重ヲ兩足尖ニ托シ左手ヲ以テ劍柄ヲ握リ右手ヲ垂下シ五指ヲ閉接シテ掌ヲ稍外方ニ向ケ小指ヲ持

ノ縫目ニ當テ頭ハ俯仰スルコトナク兩眼ハ地上ヲ見ルコトナク遠ク前方ヲ直視スヘシ
三 番號

此令ニテ前列右翼ノモノハ頭ヲ少シク左方ニ向ケ活潑明亮ニ一ト唱ヘ直ニ正面ニ復ス以下
順次同法ヲ以テ二、三、四ト唱ヘテ全員ニ及ホスモ左翼ノモノハ左向ヲ要セス

四 準ラヘ

此令ニテ左肘ヲ張り掌ハ劍柄ヲ握リタル儘腰骨ノ上部ニ當テツ、二番以下ハ頭ヲ少シク右
方ニ向ケ右員ニ倣ヒ各員ノ距離ヲ取り整頓スヘシ然レトモ左翼ノモノハ唯距離ヲ取ルノ外
同法ヲ要セス

五 直レ

此令ニテ頭ヲ正面シ姿勢ヲ整フヘシ

六 前列三步前ヘ——進メ

此令ニテ前列員ハ一齊ニ進ミ右員ニ倣ヒ速ニ整頓スヘシ

七 捕繩、收メ

呼子笛、收メ
手帖、收メ

此令ニテ右手ニテ取り出シ肘ヲ體ニ添ヘ前臂ヲ水平ニ前ニ出シ收メノ令ニテ書ニ收メ手ヲ
垂下スヘシ

八 左ハ小間隔ニ開ケ——進メ

此令ニテ二番以下ノ列員ハ頭ヲ少シク右方ニ向ケ右手ハ右員ノ肩ニ當テツ、左ニ展開スヘシ

九 直レ

此令ニテ右手ヲ速ニ下シ頭ヲ正面スヘシ

十 抜ケ——劍

此豫令ニテ左手ヲ以テ劍ノ鏢元ヲ握リ拇指ヲ鏢ニ當テ、鏢口ヲ緩メ右手ニテ劍柄ヲ逆ニ握
リ抜劍シ及テ左方ニ向ケ前面ニ棒クヘシ

十一 收メ——劍

此豫令ニテ及先ヲ鏢口ニ當テ、動令ニテ速カニ鞘ニ收メ左手ヲ以テ劍柄ヲ握リ右手ヲ垂下
スヘシ

十二 右ヘ詰メ——進メ

此令ニテ二番以下ハ摺足ニテ横行シ第四項ノ舉動ヲ以テ迅速整頓シ右手ヲ垂下スヘシ

十三 後列詰メ——進メ

此令ニテ後列ハ前列ノ背後ニ進ムヘシ

十四 解レ——進メ

此令ニテ右手ヲ舉ケ敬禮シテ分ル、モノトス

第四條 前條第八項乃至第十二項ハ時宜ニヨリ省略スルコトヲ得

第五條 退署ノ時行フ檢点ハ第三條第六項乃至第十二項ハ省略スルモ妨ケナシ

○長野縣訓令第七號

監 獄 署

監獄支署

押丁ノ点檢ハ看守点檢規則ニ準據スヘシ
明治二十九年一月二十二日

長野縣知事

淺田徳則

◎會計

○長野縣訓令第五十號
縣監獄建築費及修繕費ハ自今出納吏ニ現金前渡ヲナスニヨリ所要ノ金額每一ヶ月分概算ヲ以テ請
求スヘキ義ト心得ヘシ
但シ支出証明方ハ明治二十七年三月本縣訓令第三十一號歲入歲出收支証明規程ニ據ル

明治三十一年五月十日
長野縣知事 權藤貫一

○長野縣訓令第五十七號
別房留置人ノ衣食費ハ監獄費ヨリ支出シ其勞働工錢ニシテ衣食費ヲ控除シタル殘餘ハ給與ヨリ支
出ス
但シ衣食費ハ其年度豫算額ヲ以テ算出スルモノトス

明治三十一年五月十四日
長野縣知事 權藤貫一

○長野縣訓令第八十號
在監人食料購入手續左ノ通相定ム
明治二十八年七月十六日
長野縣知事 淺田徳則

在監人食料購入手續
第一條 米麥ハ毎月入札法ヲ以テ購入シ白米ハ最下等品ヲ選定スヘシ

第二條 米麥ノ入札法ハ各地時價以外ノ低價額ヲ競争セシムルモノトス

入札書ニハ必ラス時價ト競争額トヲ記載セシムルヲ要ス
第三條 米麥ノ納入決定シタルキハ價格(時價何程ヨリ何程安)其他必要ノ條件ヲ明記シタル請書ヲ徴スヘシ

- 第四條 米麥ノ時價ニ變動アリタルトキハ其旨納人ヨリ穀商組合ノ相場書ヲ添付届出サレムヘシ
- 第五條 前條ノ場合ニ於テハ届出ノ翌日ヨリ價額ヲ變更スルモノトス
- 第六條 米麥ハ最初納人ニ豫メ二分ニ相當スル數量ヲ仮納セシメ必要ニ應シテ之ヲ使用シ翌日精算シテ毎日其精算高ヲ納入セシムヘシ
- 仮納ノ米麥ハ納期滿限ノ後チ納人ニ還付スヘシ
- 第七條 副食物ハ献立表ニ依リ使用スヘキ品種ニ就キ毎十五日相當商人ヨリ廣ク見積書ヲ徴シ廉價ノ者ヨリ日々需用ニ應シテ納入セシムヘシ
- 但生魚野菜類ノ如キ價格ノ變動シ易キモノハ購入ノ時ニ積書ヲ徴スルヲ要ス
- 第八條 副食物中毎日納入セシメ難キ物品ハ數日分ヲ取纏メ購入シ得ヘシト雖トモ殘品翌月ニ繰越サ、ル様注意スルヲ要ス

◎作業

○長野縣訓令第百九號

長野縣監獄作業規程別冊之通相定ム

明治二十七年六月十五日

長野縣知事 淺田 徳則

(別冊)

監獄作業規程

- 第一條 監獄作業ノ種類ハ監獄則施行細則第四十二條第四十四條ノ外男囚ニ裁縫工機織工竹工麻工製靴工元結工洗濯工ノ七工ヲ加フ(明治廿八年七月訓令第百九號ヲ以テ改正)
- 監獄用ノ雜業ニシテ終日使役シ難キモノハ副業トシテ之ヲ課スル事ヲ得
- 第二條 各署ニ於ケル作業ノ種類ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 洒々ニ定役ニ服スヘキ囚人アルトキハ身分帳簿ニ依リ体力及職業ヲ調査シ相當ノ作業ヲ指定スヘシ
- 無定役囚刑事被告人役業ニ就カント請フ者アルトキ及役業ヲ轉セシムルトキ亦同シ
- 第四條 新タニ役業ニ服スル者アルトキハ等外ノ科程ヲ授ケ試業ノ後相當ノ科程ニ編入スヘシ
- 轉業シタルトキ亦同シ
- 第五條 前條ノ場合ニ於テ特別ノ技能アル者ハ相當ノ科程ニ編入スルコトヲ得
- 第六條 料定工錢ハ技能ノ巧拙及製造品ノ精粗ニ從ヒ工錢料定表ニ依リ級別スヘシ
- 第七條 科程ハ毎月ノ初メニ於テ前月中ノ了否ヲ通査シ躰陟スヘシ其例左ノ如シ
- 一昇等 科程外二割以上ニ涉リタルモノ

一降等 科程内二割以下ニ涉リタルモノ

但疾病其他工業ノ種類ニ依リ風雨降雪等ノ爲メ科程ヲ了ラサルモノハ此限ニアラス

第八條 製造品ノ性質種類ニ依リ延科程ヲ以テ服役スルモノハ其終了ニ至リ日數ヲ計算シ科定ノ了否ヲ定ムヘシ

第九條 作業ニ依リ科程ノ定メ難キモノハ其種類及労働ニ依リ技能ノ進否ヲ調査黜陟スヘシ

第十條 服役時間科程料定工錢等ヲ記載シタル作業表ヲ工場内ニ掲示スヘシ

第十一條 外役セシムヘキ囚人ハ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ個人的ノ關係ヲ省察シテ撰擇スヘシ

第十二條 初犯囚及偶發犯囚ニシテ刑期六ヶ月以下ノ者ハ外役セシムルコトヲ得ス

第十三條 外役場及其往復通路ハ人家稠密ノ地ヲ避ケ且片道一里以内ナルヲ要ス

第十四條 外役ノ業ハ其規模稍大ニシテ囚徒十名日數五日以上繼續スヘキモノニ限ル

但監獄用ニ使役スルモノハ此限ニアラス

第十五條 物品ハ署長ノ命令アルニアラサレハ製造セシムルコトヲ得ス

第十六條 物品ヲ製造セントスルトキハ總テ製造品命令書ヲ發行スヘシ

第十七條 物品製造ノ注文ヲ受ケタルトキハ品目數量ヲ明記シタル注文書ヲ徴スヘシ

第十八條 製造品ノ拂下ヲ請フ者アルトキハ數量代價引渡手續其他必要ノ事項ヲ定メ賣却スヘシ

第十九條 販賣品代金ヲ完納セシメタル後ニアラサレハ引渡スコトヲ得ス

但官署ハ此限ニアラス

明治廿九年
勅令第四十
號ヲ以テ
第六次追加
順次線下ク

第二十條 製造品ハ官署又ハ十圓未満ノ物品ニシテ特ニ署長ノ許可ヲ得タルモノ、外除賣スルコトヲ得ス

第二十一條 注文ニ係ル製造品ニシテ全部製造精算出来ノ分ヨリ漸次物品ノ交付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ交付スルコトヲ得

但注文人官署以外ノ者ナルトキハ豫定價格ニ相當シタル抵當ヲ徴スヘシ

前項ニヨリ交付シタル物品代精算済ニ至リタルトキハ直チニ販賣ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 作業ヲ人民ニ請負ハシムルトキハ相當ノ抵當ヲ徴シ左ノ事項ヲ命令シ受書ヲ徴スヘシ

- 一 期限及服役時間
- 二 人員及其増減
- 三 工錢及其増減
- 四 工錢ノ納期
- 五 抵當
- 六 解約手續
- 七 其他必要ノ事項

第二十三條 請負作業ト雖トモ科程ノ賦課使役ノ方法及其監督等ハ決シテ請負人ニ爲サシムルコトヲ得ス

第二十四條 土工又ハ運搬等ノ爲メ囚人ノ貸付ヲ爲ストキハ相當ノ工錢ヲ前納セシムヘシ

第二十五條 抵當ハ銀行ノ預リ金券公債證書又ハ土地前納工錢ハ縣金庫ノ預リ證書ニ限ル

第二十六條 科程外ノ工錢ハ左ノ場合ニ限り給與ス

一 一等ノ科程外ニ涉リタルトキ

二 免役日若シクハ休役時間ニ服役シタルトキ

第二十七條 等外ノ科程ニ在ル者ノ工錢ハ製造品ノ員數ニ應シ適宜料定スヘシ

但工錢料定表ノ五等ノ下ニ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 給與スヘキ工錢ノ額ハ翌月十日迄ニ調査シ服役者ニ告知スヘシ

第二十九條 屏禁處罰中ハ工錢ヲ給與スルノ限ニアラス

第三十條 製造品ノ價格ハ素品工錢ノ價格ヲ基ヒトシ市價ニ比シ相當ニ定ムヘシ

第三十一條 物價ノ騰貴又ハ低落ニ依リ製造品ノ價格市價ニ比シ高低ヲ生シタルトキハ時價相當ニ賣却スル事ヲ得

但素品ノ價格以內ニ減セントスルトキハ知事ノ裁可ヲ受クヘシ

第三十二條 汚點又ハ瑕瑾アル製造品ハ前條ニ準シ價格ヲ減シテ賣却スルコトヲ得

第三十三條 監獄作業ニ關シ設備スヘキ帳簿左ノ如シ

- 一 素品工別原簿
 - 二 製造品工別原簿
 - 三 素品受拂明細簿
 - 四 製造品受拂明細簿
 - 五 製造品除賣明細簿
 - 六 製造品命令原簿
 - 七 製造評價簿
 - 八 貸付囚人工錢明細簿
- 第三十四條 素品製造品ノ出納及作業ニ關スル金錢ノ收支ハ總テ前條帳簿ニ登記スヘシ

第三十五條 毎日前日ノ囚人使役ニ關スル作業報告表ヲ調製シテ署長ノ閱覽ニ供スヘシ

第三十六條 定役ニ服スルモノ、作業事項ハ各人別ニ日報表ヲ設ケテ毎日之ニ記入スヘシ

第三十七條 毎月左ノ作業月表ヲ調製シ監獄支署長ハ翌月十日限り監獄署長ニ監獄署長ハ二十日

限リ各署ヲ取纏メ知事ニ報告スヘシ

本條作業月表ハ毎年度之ヲ統計シテ年表ヲ作り監獄支署長ハ翌年度四月三十日限り監獄署長ニ

監獄署長ハ五月二十日限リ各署ヲ取纏メ知事ニ報告スヘシ

- 一 工錢收入表
 - 二 素品受拂表
 - 三 製造品精算表
 - 四 製造品受拂表
 - 五 製造品除賣代金差引表
 - 六 就役者料定工錢及給與工錢内譯表
 - 七 就役人員類別表
 - 八 不就役囚人員表
- 第三十八條 本規程ノ帳簿諸表其他ノ用紙ハ別紙ノ様式ニ依ル
- 第三十九條 本規程ノ細則ハ典獄之ヲ定ムルコトヲ得